

本人ノ意思ハ只ク因縁発動ノ原因タルニ止マルニ反シ後者ニ在リ  
 テハ本人ノ意思ト國家ノ意思トク共ニソノ行為ノ成立要素タルモ  
 ノナリ、相手方ノ請求ニ基キテ行ハル、凡テノ行為カ契約タルニ  
 アラス、契約タルニハ互ニ内容ヲ等シクスル当業者双方ノ意思カ  
 相合致スル場合ナルコトヲ必要トス、裁判ト云ヒ免許ト云フハ只  
 國家ノ意思ノミニヨリテ行ハル國家ノ意思ノミカソノ有效要件  
 タルモノニシテ本人ノ意思ハタ、其行為ヲ喚起シタルノミ、毫モ  
 ソノ行為自身ノ成分タルモノニアラス、恰モ民法上ノ行為ニ於テ  
 モ債務ノ免除ハタトエ債務者ノ依頼ニヨリテ之レヲナス場合ニ於  
 テモ債権者ノ単独行為ニシテ契約ニアラサルト云シ、任官任命カ  
 ニ於テハ及之本人ノ意思ト國家ノ意思トハ互ニ内容ヲ合シクシテ  
 相合致シ而シテ其ノ双方カ共ニ行為ノ成分タルモノナリ、本人ノ  
 官更タラントスル意思ト國家ク之レヲ官更タラシムルノ意思トカ  
 相合致シテ官更手帳ハ成立シ本人ノ日本人タラントスル意思ト國

家ノ之ヲ日本人タラシムルノ意思トカ相合シテ归化カ成立スルナ  
 リ

公法上ノ契約ト本人ノ請求ニヨリテ行ハル、單独行為トハ外形上  
 ヨリハ往々之レテ區別スルノ困難ナルコトアリ、概言スルハ國家  
 カ法規ノ認メサル新ナル義務ヲ臣民ニ負ハシメントスル場合ニ於  
 テハ常ニ公法上ノ契約ナリト云フコトヲ得、何トナレハ法規ニヨリ  
 テ臣ニ負ハシメラル、範圍外ニ於テ臣民ニ義務ヲ負ハシムルハ本  
 人ノ合意ニアルノ外ナケレハナリ  
 反之法規ニヨリテ臣ニ國家ノ権利カ認メラレ國家ハ只其ノ法規ノ  
 認ムル権利ヲ実行スルニスキサル場合ニ於テハ依テ本人ノ請求ニ  
 基キテ行ハル、場合ト雖モ尚モ單独行為ナリ

民法上ノ契約ハ原則トシテ當事者ノ自由意思ニ放任セラレ、公  
 益ノ秩序ニ反セサル限度ニ於テハ任權ニ如何ナル契約ヲモ締結シ  
 得ルヲ原則トナスニ反シテ公法上ノ契約ハ斯クノ如ク自由ナルモ



一、九二  
ノニアラス、公法的法規ハ一般に強行的法規ニシテソノ法規ニヨ  
リテ已ニ国権ノ行動ニ干スル一定ノ法測ヲ定メラレタル場合ニ於  
テハ行政官廳ハ只ソノ法規ニ従フテノ行動ヲ得止ニ止マリ後令  
臣民ノ合意アルモ之レニ違反スルノ行動ヲナスヲ得ザルハ当然ナ  
リ。

行政官廳ノ行動ハ公法上ノ契約ノ行ハル、モハ只法カ自ラ契約ヲナスコトヲ認  
ル場合カ然ラサルモ行政官廳ノ自由裁量ニ任セラレ行政官ノ意思  
ニヨリテ之レヲ左右シ得ヘキ場合ニ限ル。  
(見)

### 行政行為ノ附款 (Nebenbestimmung)

本節ヲ終ルニ臨ミテ行政行為ノ附款ニ付テ一言ス。  
民法上ノ法律行為ニ於ケルト全様ニ行政行為ニ付テモ亦附款アリ  
附款ノ意味ハ行政行為ニ付キテモ民法上ノ法律行為ト全シク法律

上ノ效果ヲ制限スルカ爲メニ行政行為ニ附随セシメラル、意思表  
示ノ一端ナリ、行政行為ノ附款ハ通俗的ニハ一般ニ此レヲ条件ト  
稱スト虽モ、ソノ法律上ノ性質ニ於テハ眞ノ条件(Modi-  
causae) (期限及上取消権ノ留保) 四種ヲ區別ス  
ルコトヲ要ス民法ニ於テハ法律行為ノ附款トシテハ只タ条件及ヒ  
期限ノ二種ヲ規定スルニ止マリ、附款ニ付キテハ只タ贈与、遺贈  
ニ于テ特別ノ規定ヲナセルノ外一般法律行為ニ通シテハ規定ス  
ル地ナキニ反シテ行政行為ニ付キテハ眞ノ条件ヨリハ負担ノ方カ  
廻カニ頻繁ニ其ノ实例アリ、一層重要ノ地位ヲ有スルモ有スルモ  
ノナリ、  
条件ト負担トハ一般ノ法令ノ用言ニ於テモ多クハ之ヲ混念スト虽  
モソノ法律上ノ性質ニ於テハ明白ナル區別アリ、條件ハソノ停止  
条件タルト、解除条件タルト同ハス法律上ノ效果ノ發生ヲ不確  
定ナル事莫ニカ、ラシムルモノニシテ法律行為ニ附隨シテソノ一



部ヲナシ、ソレ自身ニ独立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス、條件付ノ行為ハ常ニ法律上一時不定ノ状態ニ在ルモノナリ  
 反之主タル法律行為ト在時ニ之ニ伴フテ特別ノ義務ヲ負ハシムルノ行為ニシテ主タル法律行為ニ伴フテ存在ストモ其ノ構成部分タルニアラスシテ独立ノ存在ヲ有ス、負担付行為ハ決シテ法律上ノ不<sub>レ</sub>是状態ヲ生スルコトナレ、民法上ノ法律行為ニ付キテハ條件付行為カ負担付行為ヨリモ迫カニ大切ナレトモ行政行為ニ付キテハ條件付ノ法律行為ハタ、稀ニ其ノ例アルニ止マリ、普通ニ條件付ト称セラル、モノハ其ノ負担付行政行為ナリ、例ハ八營業ノ免許ヲ弁フルト共ニ其ノ營業ニ付スル設備ヲ完全ニスルコトヲ命スルカ如シ、尚ホ負担付行為ニ付テハ警察許可ニ於テ其例尤モ多キカ故ニ警察ノ許可ノ章ニ於テ更ニ述フルノ機会アルヘシ、其他条件期限オノ性質ニ付キハ民法ニ於ケルト長ル知ナキカ故ニ今ハ之レヲ述ヘス、期限付行政行為ハ例ハ一定ノ期間ヲ現行營業

ノ免許ヲナス場合ノ如シ、取消权ノ留保モ亦タ行政行為ノ附款ノ一種ニシテ、例ハ營業ノ免許ヲ弁フルト共ニ何々ノ場合ニ於テハ其免許ヲ取消スコトヲアルコトヲ留保シテ之レヲ弁フルカ如キ場合ヲ云フ

行政行為ノ附款モ亦タ民法上ノ法律行為ニ於ケルカ如ク、行政官職ノ任意ニ之レヲ附スルコトヲ得ヘキモノニアラス、法カ一定ノ行動ヲ定メテ行政官職ノ自由裁量ヲ許サレル場合ニ於テハ官職ハ自己ノ任意ニ附款ヲ附スルコトヲ得ス、例ハ法律カ一定ノ場合ニハ必ラス免許ヲ弁フルトナセルトキハ官職ハ必ス免許ヲナスコトヲ要シ、条件付ノ免許ヲナスノ自由ヲ有セス、  
 及之ヲ廢シテ行政官職ノ自由裁量ニ任セラレタル範圍ニ於テハ附款ヲ定ムルコトハ原則トシテ官職ノ自由ニ属ス



### 第三節 行政行為之成立及其拘束力

行政行為カ完全ニ有效ニ成立スルカ爲メニハ種々ノ要件ニ必要ト

ス  
行政行為ノ成立要件ハ因ヨリ各種ノ行政行為ニヨリテ全クカラス、  
此処ニ論スルヲ得ヘキハ只一般ノ行政行為ニ通スル一般要件ニ止ト  
マル

行政行為ノ一般ノ成立要件ハ

- (1) 行為ノ内容ニ于スル要件
- (2) 行為者ニ于スルモノ
- (3) 意思決定ノ手續ニ于スルモノ
- (4) 行為ノ形式ニ于スルモノ
- (5) 行政行為ノ表示



(4) 要件上表意趣トノ符合  
ノ大ニ分ソコトヲ得、以下簡單ニ之レヲ説明スヘシ

第一、行為ノ内容ニ于スル要件

行政行為ノ内容ニ于テハ恰カモ民法上ノ法律行為ノ要件ト全様  
ニ第一ニハ其ノ内容ノ可能ナルコトヲ要シ、第二ニハ其ノ適法ナ  
ルヲ要ス、

(1) 行政行為ハ民法上ノ法律行為ト全ク可能ナル事物ヲソノ目的ト  
ナスモノニ非ラサレハ有效ニ成立スルコトヲ得ス、絶対ニ不能ナ  
ル事物ヲ内容トスル行政行為ハ無効ナリ、不能カ行政行為ノ効  
力ニ如何ナル影響ヲ及ヨホスカノ詳細ニ付キテハ、次節ニ行政  
行為ノ無効ヲ述フル処ニ當リテ尚ホ之レヲ述フルニ機会アルヘ  
シ、

(2) 行政行為ノ内容ハ又適法ナルコトヲ要ス、行政行為ハ常に法規

ノ範囲内ニ於テノ行ハルヲ得、キモノニシテ行政行為ハ  
以テ法規ヲ破ルコトヲ得サルハ必ズテ候タス、成文ノ法規カバ  
ニ制定セラレタル場合ニ於テハ其ノ法規カ法律タルト命令タル  
トヲ同ハス、常に行政行為ヲ拘束スルモノニシテ下級官廳ノ發  
シタル命令ト是モ尚ホ上級官廳ノ行政行為ヲ拘束スルカアル  
モノナリ、故ニ例ハハ府県知事カ行政命令ヲナス場合ニ於テモ  
郡長ノ發シタル命令、市町村ノ發シタル市町村条例ニモ抵触ス  
ルヲ得サルナリ、行政行為ハ常に成文ノ法規ニ抵触スルヲ得サ  
ルノミナラス、並文ノ法規ニモ抵触スルヲ得ス、學者ハ或イハ  
成文ノ法規ニヨリテ規定セラレサル事項ハ凡テ行政官廳ノ自由  
裁量ニ任セラル、モノニシテ自由裁量ノ範圍ニ於テハ如何ナル  
処分ヲナスモ尚ホ適法タルコトヲ失ハストナスモノアレトモ所  
由自由裁量ハ決シテ行政官廳カ自己ノ自由ヲ判断ニヨリテ如何  
ナル処分ヲモナシ得ヘシトモ、恣ニアラサルコトハカフヲ述ハ



タルカ如シ、所立自由裁量ノ範圍内ニ於テモ、行政行為ハ尚ホ  
常ニ不文不成ノ法規ニ違由スルコトヲ要スルモノニシテ若シ之  
レニ違反スルハ常ニ不法ノ行政行為ナリ、就中近代ノ  
國法ニ於テハ法規ノ根柢アルニアラサレハ臣民ノ自由ヲ侵害ス  
ルヲ得サルコト法規ノ根柢アル場合ニモ法規カ只概括的ノ根  
限ヲ授ケタルニスキサル場合ニ於テハ、公益上ノ理由ク之ヲ必  
要トナスニアラサレハ臣民ノ自由ヲ侵害スルヲ得サルコト凡テ  
ノ人民ハ原則トシテ法律ノ前ニ平ホナルモノニシテ法規カ明ニ  
例外ヲ設ケル場合ノ外ハ全一ノ事情ノ下ニ於テハ凡テノ人民ニ  
對シテ平ホニ之ヲ取扱カクヘキコトオノ原則ハ近代國法ノ基  
礎ヲナセ凡根本的ノ不文法規アリヤレハ法規ノ根柢ヲ基ツカス  
又ハ公益上ノ必要ニ基ツカスレテ臣民ノ自由ヲ制限シ全一ノ事  
情ノ下ニ於テ偏頗ナル処分ヲナスカ如キハ假令成文ノ法規ニ抵  
觸スルコトナシトスルモ尚ホ、違法ナル行政行為タルコトヲ失

ナハス、

### 第二、行為者ニ于スル要件

行政行為ヲナス人ニ于シテハ第一ニソノ行為ニ于シテ一定ノ权限  
ヲ有スル官職ナルコトヲ要シ、第二ニハ其官職ヲ適法ニ組織セラ  
レタルモノナルコトヲ要ス  
(1)官職ノ权限ニ付キテハ行政組織ノ章ニ於テ詳論スヘキ如シ屬ス  
凡テノ官職ハ一定ノ权限ヲ有スルモノニシテ只タソノ权限内ニ  
於テノミ國家ノ權ヲタル地位ヲ有ス、官職ノ权限ハ一面ニハ制  
約ノ種類ニヨリテ定リテハ他ノ地域ニヨリテ定マル、中  
央官職ノ权限ハ只事項ノ種類ノミニ於テ其ノ限有スルニ止  
リ地域ニ於テハ広ク全國ニ通シテ其ノ权限ヲ有スルモノナレト  
モ地方官職ノ权限ハ事項ト地域トノ双面ノ限有スルモノナ  
リ



何レニシテ官職ノ只タソノ  
二〇二  
何レニシテ官職ノ只タソノ  
二〇二  
何レニシテ官職ノ只タソノ  
二〇二  
何レニシテ官職ノ只タソノ  
二〇二

何レニシテ官職ノ只タソノ  
二〇二  
何レニシテ官職ノ只タソノ  
二〇二  
何レニシテ官職ノ只タソノ  
二〇二  
何レニシテ官職ノ只タソノ  
二〇二

ムルヲ得ヘキモノニアラス、此ノ是ニ付テハ尚ホ行政組織ノ章  
ヲ見ルヘシ

第三、意思決定ノ手續ニ于スル要件

行政行為ヲ決定スルニハ法ハ一定ノ手續ヲ其ノ決定ノ要件トナス、  
モノアリ  
意思決定ノ手續ニ付キテ尤モ重要ナルハ他ノ官職トノ協定ヲ要ス  
ル場合及ヒ利益害ヲ係者ノ参与ヲ要スル場合ナリ、他ノ官職ト  
ノ協定ヲ要スル場合トハ、例ヘバ二以上ノ行政ノ係官職ト協定シ  
テ決定スルコトヲ要スル場合、又ハ下級官職カ上级官職ノ認可ヲ  
得テ決定スルヲ要スル場合ノ如シ、  
利害ヲ係者ノ参与ヲ要スル場合トハ、當事者ノ出願アルニアラザレ  
ハ行政行為ヲナスヲ得サル場合又ハ行政行為ヲ為スニ當リテ其ノ  
利害ヲ係者ノ意見ヲ聞クヲ要スル場合ノ如シ、凡テ之ノ場合ニ



於テ其ノ法定ノ手續ヲ全テ之レヲナスコトハ行政行為ノ成立要件  
ノ一ナリ

民法上ノ法律行為ニ付キテハ民法ハ意思ノ決定ヲ詐欺、又ハ強迫  
ニ基テカサルコトヲ以テ法律行為ノ有效要件ノ一トナシ、詐欺  
強迫ニ基テ行為ハ之レヲ取消シ得ルキモノトナセリ、行政行為ニ  
付キテモ亦テ同様ノ原則ヲ行ハルヘキモノニシテ、行政行為ノ利  
害ヲ保者ノ詐欺又ハ強迫ニ基テ行ハレタル場合ニ於テハ完全  
ニ有效ナル行政行為ノ得ルヲ得サルハ事理ノ当然ナリ、況中、行政  
行為ノ利害ヲ保者ノ出願ニヨリテ行ハル、場合ニ於テソノ出願  
カ詐欺ニ出テタル場合ニ於テハ其ノ行政行為ノ效クハ当然之レニ  
ヨリテ妨ケラルルモノナラサルヘカラス、尚此其ニ付テハ次節ヲ  
見ルヘシ

#### 第四、行政行為ノ形式

民法上ノ法律行為ニ要式行為ト不要式行為トノ區別アルトシテ  
行政行為ニモ亦此ニ種ヲ區別スルコトヲ要ス、民法上ノ法律行為  
ニ付テモ親族法、相続法又ハ物權法等公益ニ干スルコト密接ナル  
モノニ於テハ債權法ノ如キ專ラ私法的事係ニ干スルモノヨリモ要  
式行為カ適カニ重要ノ地位ヲ占ムルトシテ、行政行為ハ公益ニ  
干スルコトノ最モ重大ナルモノナルヲ以テ之レヲ民法上ノ法律行  
爲ニ比スルハ要式行為ノ頗ル重要ノ地位ヲ白クテ示シ、行政行為  
ニ付テ法ハ一定ノ形式ヲ必要トセリ、併シソレニモ干ハラス、尚  
原則トシテハ不要式行為カ一般ノ原則タルヘキモノニシテ一定ノ  
形式ヲ必要トスルハ只タ成文法規カ明ニ之レヲ規定シ又ハ少クモ  
成文法ニ代ルヘキ慣習法ニヨリテ之レヲ必要トシ又ハ成文法規  
若シクハ慣習法ニヨリソノ必要ナルコトカ推定セラルヘキ場合ニ  
限ルヘキモノナリ、法カ一定ノ形式ヲ必要トセタル場合ニ於テハ  
必スシモ書面ヲ以テスルヲ要セス、或ハ口頭ニヨリ、或ハ筆跡ニ



ヨリテ之ヲ表示スルヲ好ケス、法カ一定ノ形式カ必要トナス場合ニ於テハ之レニ反シテノ形式ニ從フコトカ其ノ行為ノ成立要件ク  
ルコトハ勿論ナリ

### 第五、行政行為ノ表示

行政行為ハ意思表示ナルヲ以テ必テ相手方ニ向ツテ表示セラレ  
サルヘカラス、行政行為ノ相手方ハ或ハ特定ナルコトアリ或ハ不  
定ナルコトアリ原則トシテハ行政行為ハ特定ノ相手方ニ對シテ爲  
サルモノニシテソノ場合ニハ行政行為ハソノ特定ノ相手方ニ向ツ  
テ表示セラレコトヲ要ス、行政行為ハソノ特定ノ相手方カ之ヲ  
受領スルコトニヨリテ成立スルナリ、行政行為ハ時トシテハ之ニ  
及シ一般不特定ノ相手方ニ對シテ行ハル、コトアリ、道路ノ行通ヲ  
禁止シ、出版物ノ廢絶ヲ禁止シ、家屋ノ交通ヲ遮断スルカ如キ其  
例ナリ、土地ノ登記、選舉人名簿ノ調整、其他各種ノ登記制度ハ

何レモ此例ニ屬ス、特定ノ相手方ニ對スルモノニ非ラステ從テ  
特定ノ人々ニ向ツテ表示セラレ、ニアラス特定ノ人カセラレ受領  
スルコトヲソノ成立要件トナスモノニアラスモテ一定ノ形式ヲ以  
テソノ行為ヲナスコトニヨリテソノ行為カ当然成立スルナリ、民  
法學者ノ例ニ做ヒテ前者ヲ、受領ヲ要スル行政行為ト云ヒ、前者  
ヲ、要セサル受領ヲ要セサル行政行為ト云フコトヲ得ヘシ  
特定ノ相手方ニ對スル行政行為ニ對テハ相手方カ之レヲ受領スル  
ニヨリテ其ノ行為カ成立スルモノナリト雖モ、如何ナル片ニ其ノ  
相手方カ之レヲ受領シタルト認ムヘキカニ對テハ、所謂、發信主  
義、受信主義、了知主義、ノ何レニヨルヘキカノ向處生ス、民法  
上ノ法律行為ニ對テハ民法ハ一般ノ原則トシテハ受信主義ニヨル  
ヘキモノトナシ、只契約ノ承諾ニ對テハ、其ノ例外トシテ發信主  
義ニヨルヘキコトヲ定ム、公法上ノ行為殊ニ行政行為ニ對テハ法  
律ハ此真ニ對テ何ボノ一般原則ヲ定ムルコトナク、從テ專ラ條理



了知の意思

ニヨリテ之ヲ決セサルヘカラス、善シ民法カ一般ノ原則トシテ受  
信主義ヲ取レルハ法律行為カ成立シ從テ相手方カ之ニヨリテ拍束  
セラル、ハ相手方カ之レヲ認知シ得ヘキ状態ニラカレタル百ナル  
コトヲ必要トナスハ当然ニシテ從テ相手方ノ利益ヨリ言ヘハ、  
了知主義ニヨリ、相手方カ之レヲ了知シタルトキニ於テソノ行為  
カ成立スルモノトナスヲモ適當トスヘキモ、相手方カ之レヲ了知  
スルト否トハ只タ相手方ノミカ之レヲ判断スルコトヲ得ベキ事莫  
ニシテ之レヲ以テ其ノ成立時期トナスハソノ成立時期ヲシテ一ノ  
相手方自身ノ任意ノ選択ニ干ハラシムルノ弊アリ、從テ了知主  
義ニヨルハ他ノ一方ノ相手方ノ利益ヲ不当ニ害スルノ欠点ヲ免カ  
レス、法律行為ノ成立ノ時期ハ相手方カ現ニ之レヲ了知シタルカ  
否ヲ以テハスルコト之レヲ了知シ得ヘキ状態ニ於テタル由テ以テ  
尤モ適當ナリトナスヘク、而シテ相手方カ之レヲ了知シ得ヘキ状  
態ニラカル、ハ意思表示カ相手方ニ到達シタルトキナリトナスニ

在リ、此ノ一般条理ハ等ク行政行為ニモ適用セラルヘキモノニ  
シテ行政行為ニ付キテモ亦ソノ相手方ニ到達シタルトキヲ以テ其  
成立時期トナスコトカ最もヨク一般法律思想ニ適合スルモノト云  
フヘシ

唯契約ノ承諾ニ付テ民法カ發信主義ヲトレルハ民法上ノ契約ニ  
ミ特別ナル理由ニヨルモノニシテ此ノ例外規定ハ公法上ノ行為ニ  
ハ当然適用セラルヘキニハアラス、公法上ノ行為ニ付テハソノ行  
政処分タルト、公法上ノ契約タルトテ向ハス、法律カ特別改正ノ  
規定ヲ認メテ設ケタル場合、外ハ一般ニハ發信主義ニヨリ相手方  
ニ到達シタルトキヲ以テ其ノ成立時期トナスヲ以テ最も条理ニ適  
合スルモノナリト信ス

### 第六 眞意ト表示意思トノ一致

眞意ト意思表示トノ相一致セサル尤モ著シキ場合ハ錯誤ニヨル行



行政行為ナリ

錯誤カ行政行為ノ効力ニ如何ナル影響ヲ及ボスカハ次節ニ於テ論スヘシ、(行政行為ノ一般成立要件了)

○行政行為ノ拘束力ニ付テ

以上各種ノ成立要件ヲ具備スルニヨリテ行政行為ハ完全ニ成立スルモノニシテ、カ、ル行政行為ハ一方ニハ其相手方タル当事者ニ対シ一方ニハ其行為者タル國家自身ニ対シテ完全ナル拘束力ヲ有ス、凡テノ行政行為ハ國家ト臣民トノ間ニ法律ニ依リテ拘束スルノ力ヲ有スルコトニ於テハ法規ト異ナルコトナク法規カ國家及ヒ臣民ノ双方ニ對シテ拘束力ヲ有スルト全シク、行政行為モ亦必ク國家及ヒ臣民ノ双方ニ對シテ双方ノ拘束力ヲ有スルナリ、法規ト行政行為トノ異ナルトコロハ只々法規ハ、一般抽象的ノ法則ヲ定ムルト全シク行政

行為ハ個々ノ責任ハ實在ノ事件ヲ定ムルコトノ差異アルノミ、一ハ一般的事ノ拘束力ヲ有シ、一ハ實在ノ事件ニ付キテノ拘束力ヲ有ス併シソノ國家及ヒ臣民ノ双方ヲ拘束スルコトニ於テハ二者異ナルコトナシ

一面ニ於テハ行政行為ハソノ相手方ヲ拘束ス、行政行為カ特定ノ相手方ニ對スルモノナルトキハソノ特定ノ人カ之レニヨリテ拘束セラレタル人数ノ不足ノ人ニ對スルモノナルトキハ不足ノ人カ之レニヨリテ拘束セラル、ソノ特定ノ一人ニ對シテ下サル場合ニ於テハ原則トシテハソノ特定ノ一人ノミカ之レニヨリテ拘束セラル、モノニシテ從テソノ人ノ死亡ト共ニソノ行為ノ效力ハ当然消滅スルモノナリト雖モ時トシテハ法律ハソノ義繼人カ其ノ效力ヲ義繼スルコトヲ規定スルコトアリ、此ノ場合ニ於テハ特定ノ一人ニ對シテ行政行為カ下サレタル場合ト雖モソノ拘束力ハ義繼カソノ特定ノ一人ノミニ止マラズレテソノ義繼人ニ及フモノナリ



一面ニ於テハ行政行為ハ國家自身ヲ拘束ス、國家ハ元ヨリ行政行為  
ヲ變更シ又ハ廢止スルノ権ヲ有スト雖モ、ソノ廢止變更セラレサル  
同ハ行政行為ハ國家自身ヲ拘束スルノ力アルモノニシテ國家ノ凡テ  
ノ權ヲハソノ行政行為ヲ有效ノモノトシテ尊重スルコトヲ要ス、商  
ニ行政官職ノミナラス、司法裁判所モ亦ソノ拘束力ヲ受クルモノニ  
シテ司法裁判所ニ於テ民事刑事ノ裁判ヲナスニ當リテモ裁判所ハ元  
ヨリ行政行為ノ有效無效ヲ審査スルノ権ヲ有スト雖モ苟クモソノ有  
效ナルニ於テハ裁判所ハソノ行政行為ニヨリテ定メラレタル法律ヲ  
係ラ已定ノ法律ノ法律ヲ係トシテ判決スルヲ要ス  
以上ノ如キ拘束力ハ行政行為カ完全ニ其ノ凡テノ成立要件ニ具備  
スルヲ前提トナスモノニシテ行政行為カ若シ其ノ要件ノアルモノ  
ヲ欠ケル場合ニ於テハ其拘束力モ亦從テ欠缺ヲ生ス其欠缺セハ成立  
要件ノ如何ニヨリテ或ハ全ノ其拘束力ヲ有セザルヲアリ或ハ其ノ拘  
束力ニ多少ノ瑕疵ヲ生スルニ止マルヲアリ前者ハ之レヲ無効ナル行

政行為ト云フヲ得ベシ、右者ハ之レヲ瑕疵アル行政行為ト云フヲ得  
ベシ、如何ナル場合ニ於テ行政行為カ或ハ無効トナリ或ハ瑕疵アル  
モノトナルカハ次ニ論スルヲ要スル問題ナリ。

#### 第四節 行政行為ノ無効及ヒ瑕疵

行政行為カ其成立要件ノ全部又ハ一部ヲ缺テハ場合ニ於テハ行政  
行為ハ完全ニ其拘束力ヲ生ズルモノニアラザルヲハ前ニ述ガルカ



如レトモ、其ノ拘束力ノ欠缺ハ明カニニ、場合ヲ區別スルコトヲ要ス。

(一) ハ行政行為カ絶対ニ無効ナル場合ナリ。

(二) ハ行政行為カ絶対ニ無効ナルコトヲアラスレテ只取消シ得ベキニ止マリ、其ノ取消ニヨリテ始メテ其效力ヲ失ヒテ取消アルマテハ有効ナル行政行為トシテ存立スル場合ナリ。

右ノ種類ニ属スル行政行為ハ仮リニ之ヲ取消アル行政行為ト称セシト欲ス。吾民法ニ於テ民法上ノ法律行為ニ付テ無効ナル法律行為ト取消シ得ヘキ法律行為トヲ區別セルハ恰カモコノニツノ區別ニ相当ス可キモノ也。無効ナル行政行為ハ行政行為トシテハ絶対ニ成立セサルモノナリ、從テ之レヲ取消スノ必要ナク初メヨリ何人モ又如何ナル官テモ其ノ無効ナルコトヲ主張スルコトヲ得ベシ、仮令之レヲ取消スアルモ其ノ取消ハ只無効ナルコトヲ宣言スルニ過キクモノナリ、無効ナル行政行為ニ對シテハ、臣民ハ之ニ服従スルノ義務ヲ要ス。

コトナク、之ニ違反スルモ知罰ノ原因トナルコトナシ、無効ナル行政行為ニ對シテハ又然タル理論上ヨリ言ヘハ、訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ザルモノト云ハサルヘカラサルカ如シ、何トナレハ、訴訟又ハ訴訟ハ行政行為ノ存在ヲ前提トナスモノニシテ併シテ無効ナル行政行為ハ行政行為ノ全ク存在セサルト云一ノモノナレハナリ、併シ行政行為ノ無効タルト否トハ場合ニヨリテハ必ラスシモ判明ナラス疑テ入ルヘキコトナキニアラス、其ノ疑ヲ明ニスルカ爲メニハ行政行為ノ無効ナルコトヲ訴訟又ハ訴訟ニヨリテ確定スルコトハ当然者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ必要ナリト云フヲ得ス、從テ一般ノ本説及ヒオ判例ハ無効ナル行政行為ニ付テモ訴訟又ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキコトヲ認ムルカ如シ、即チ此ノ場合ノ訴訟ハ行政行為ノ不在ヲ確認スルノ訴訟タルモノナリ。

瑕疵アル行政行為ハ之レヲ反シ初メヨリ当然ニ無効ナルモノニアラス、其ノ取消シニヨリテ初メテ其ノ效力ヲ失フモノナリ、行政行為



ノ取消シ或ハ行政官廳ノ取裁ニヨリテ自ラ之レヲナスコトアリ、或ハ其ノ相手方タル国民ノ側ヨリ許願若シクハ訴訟ヲ提起スルコトニヨリテ行ハル、コトアリ、何レニシテモ其ノ取消シアルマデハ有効ナル行政行為トシテ成立スルモノナリ、民法上ノ法律行為ニ付テハ法律行為ノ内容カ公ノ秩序ニ干スル法律ノ規定ニ違反スルトキニハ其法律行為ハ皆ニ絶対ニ無効ナルモノトセラル、此ノ原則ハ行政行為ニハ適要スルコトヲ得ス

行政行為ニ付キテハ及令ヲノ内容カ法律ノ規定ニ違反スルコトアルモ必ラスレモ当然ニ無効タルモノニアラスレテ又タ取消シ得イキニ止マル民法上ノ法律行為ト行政行為トノ間ニカ、ル差異ヲ生スル所以ハ行政官廳ノ特有ノ性質ニ基クモノナリ、凡テノ行政官廳ハソノ職務权限ヲ行フニ當リテハ、法律ヲ解釋シ、適用スルノ権ヲ有スルモノニシテ其ノ权限内ノ事項ニ干レテハ自己ノ意思ニヨリテ何カ法律ノ定ムル如ナルカヲ解釋シ其ノ法律ヲ適用スヘキ事實ヲ認定スル

ノ権ヲ有スル此ノ解釋権、認定権ヲ伴フニアラサレハ官廳ノ权限ハ全ク之レヲ行使シ得ヘカラサルナリ、サレハ官廳ノ解釋権及ヒ認定権ノ範圍内ニ於テハ例令其ノ解釋及ヒ認定ニアママリアル場合ト虽モ其ノ誤リナルコトカ公ニ決定セザル、ニ至ルマテハ一亦其ノ解釋又ハ認定ヲ以テ正当ナルモノト認メサルヘカラス、臣民ハ自己ノ意見ニヨリテ官廳ノ解釋又ハ認定ノ誤マリナルコトヲ主張スルコトノ権ヲ有スルモノニアラス、官廳ハ國家ノ機干トシテ一亦其ノ解釋又ハ認定ノ正当ナルコトヲ決定スルノ権ヲ有スルナリ、コノ官廳ノ公定カハ時トシテハ絶対的ナルコトアリ、司法裁判ニ付キテハ一ハ大審院ノ判決ハ絶対的ノ公定カアルモノニシテ依令其ノ判決カ誤マレル場合ト虽モ最早之レヲ動カス由ナレ、ソノ他ノ才判所ノ判決ト虽モソノ控訴又ハ上告ノ期間アスキテ正ニ確定シタル上ハ又絶対的ノ公定カヲ有スル最早之レヲ変更スルコトヲ得ス、行政行為ニ付テモ亦最高ノ官廳ノ処分ニシテ而カモ之レニ對シテ行政訴訟ノ提起



ヲ許サレザルモノニ作キテハ公ニシク絶対ノ公定力ヲ有ス、其他ノ行政行為ニ作テハ斯ノ如キ絶対ノ公定力アルモノニアラスト雖モ一応ハ其ノ違法ナルコトノ推測ヲ受クルモノニシテ正当ノ权限アル官職カ之レヲ取消スコトニヨリテ初テ其ノ違法ナルコトカ公ニ確定セラ  
ル、ニ至ルナリ

此故ニ行政行為ノ絶対ニ無効ナル場合ハ民法上ノ法律行為ニ比セハ其ノ範圍カニ殊マシ、民法上ノ法律行為ニアリテハ其ノ成立要件ハ欠缺ハ原則トシテ無効ノ原因タリ、只特別ノ場合ニ於テ法律ハ本人若シクハ相手方ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ例外トシテ一応無効ノモノトナシ、只之レヲ取消スコトヲ得シムルニ反シ、行政行為ニアリテハ成立要件ハ欠缺ハ原則トシテ無効ノ原因トナラス、只之レヲ取消シ得ルニ止マシ、其ノ無効ナルモノハ只之レ成立要件ハ欠缺カ特ニ重大ニシテ全ク意思表示ノ成立ヲ認ムヘカラサル場合ニ限ル、以下行政行為ノ無効ト瑕疵アル場合トノニヲ分ケ箇單ニ之レヲ説明ス

スヘシ

(1) 行政行為ノ無効 無効

行政行為ノ無効ナル場合ハ四種ノ原因ヲ挙ケルヲ得

- 一、内容ノ欠缺ニ基ク無効
- 二、形式ノ欠缺ニ基ク無効
- 三、無权限ニ基ク無効
- 四、意思ノ欠缺ニ基ク無効

一、内容ノ欠缺ニ基ク無効

行政行為ノ内容ノ欠缺ハ種々ノ場合ヲ想像スルコトヲ得、其内容カ法規ニ違反スル場合モ其ノ一ナリ、内容カ國家ノ目的ニ適合セサルコトモ其ノ一ナリ併レ共行政行為ノ内容カ法規ニ違反レ、公益ニ適合セサルコトハ只之レノ取消シノ原因トナルニ止マリ行政行為ヲシテ絶対ニ無効ナラシムルモノニアラ



サルコトハ前述ノ如シ、内容ノ欠缺カ行政行為ノ無効ノ原因  
 トナルハ只一途ノ内容ノ全ク欠缺タル場合及ヒ其ノ内容ノ事  
 實上又ハ法律上ニ不能ナル場合ナリ、凡テノ意思表示ハ公法  
 上ノ意思表示ト民法上ノ意思表示トヲ同ハス必ラス一途ノ内  
 容ヲ要スルモノナルコトハ言フテ俟タズ、一途ノ内容ヲ有セ  
 サル意思表示ハ意思表示トシテハ全ク成立スルヲ得ズ、サレ  
 ハ行政行為ニ付テモ全ク無意味ナルコトヲ内容トナシ又ハソ  
 ノ内容カ一定レ得ヘカラサルモノナルトキハ其ノ行為ハ全ク  
 無効ナリ、只タ如斯キ場合ニハ實際ニハ其ノ例ヲ見ルコト稀  
 ナルヘク、内容ノ欠缺カ行政行為ノ無効ノ原因タル最モ著シ  
 キ場合ハ其ノ内容カ不能ナル場合ナリ  
 行政行為ノ内容カ不能ナル場合ハ更テニ三者ヲ區別スルコト  
 ヲ得  
 ④、事實上又ハ法律上ニ不能ナル事項ヲ要求シ又ハ許可スル

行政行為

事實上ノ不能ヲ要求スル行為ハ例ヘハ全クナシ得ヘカラ  
 サル方法ヲ以テ家屋建築改造ヲ命スル場合ノ如シ、法  
 律上ノ不能ヲ要求スル行為ハ例ヘハ法律上ニ全ク禁止セ  
 ラレタル行為ヲ命スル場合ノ如シ、上級官廳カ刑罰ニ相  
 当スヘキ行為ヲ下級官吏ニ命スル場合令スルカ如キハ即  
 チ此ノ場合ニ相当スルモノニシテ全ク無効ナルモノナリ  
 不能ヲ許可スル場合モ亦之レトシテ其ノ許サレタル行  
 為カ實際上又ハ法律上ニ有レ得ヘカラサル片ハ無効ナリ  
 其ノ許可ハ全ク無効ナルモノト認トナサルヘカラス  
 ④、全ク存在セサルモノニ付スル行政行為即チ存在セサル人  
 ニ対シ、存在セサル物ニ付シ又ハ存在セサル法律ニ係ル  
 于シテ下サル行政行為ハ等シク不能ヲ内容トスルモノ  
 ニシテ全ク無効ナリ、或人ニ対シテ行政行為ヲ付シタル



ニ其人ハ已ニ死亡セルモノナルハ、現ニ存在セザル地ニ対シテ公用室徴収ノ裁決ヲナシタルハ始メヨリ成立セザル權利義務ニ対シテ之レヲ変更スルノ決定ヲナス。行政行為ハ其一例ナリ

イ、特定ノ法律ヲ係ニ対シテハ全ク無能力ナル人ニ対シテ、其ノ法律ヲ係ニ設定スル行政行為モ亦前着ト全シク不能ヲ内容トスル行政行為ト見做スヘキナリ、例ハ女子ニ対シテ皇兵過令ノ決定ヲナスカ如シ、官吏タルゾ其能力ヲ有セザルモノハ官吏ニ任命スルカ如キモ亦之レト同一場合ニシテ例ハ犯罪ノ前科者ヲ官吏ニ任命スルカ如キ其ノ任命ハ全ク無効ナルモノト認ムルヲ正当トナスヘシ

ニ、形式ノ欠缺ニ基ク無効

行政行為カ其ノ行為ノ成立ニ欠クヘカラサル形式ヲ備ヘザルトキハ又無効ナリ、何カ行為ノ成立ニ欠クヘカラサル形式ナルカハ各例ノ場合ニ於テ法律ノ規定ニヨリテ定ムルノ外ナシ法律カ行政行為ノ形式ヲ規定スル場合ト雖モ其ノ規定セル凡テノ条件カ必ラスレモ其ノ成立ニ欠クヘカラサル要件タルニアラス其ノ規定セル条件中ニハ其ノ要件ト附随ノ要件トヲ區別スルコトヲ要ス、主タル要件ヲ欠キタル場合ノミカ無効ノ原因タルヘク、其他ノ条件ヲ具ヘザルハ只ク瑕疵ノ原因タルニ止マリ当然無効タルモノニハアラス、例ハ法律勅令ノ形式ニ付テ去フモ其ノ法律勅令タルコトヲ明記シ、年月日ヲ記載シ、國務大臣カ之レニ副署シ、官報ニ印刷シテ之レヲ公布スルコトヲハ法律勅令ノ成立ニ欠クヘカラサル要件トシテ其ノ欠缺ハ法律勅令ヲ無効タラシムルト雖モ、例ハハ秘密ノ諮詢ヲ受クル場合ニ於テ其ノ諮詢ヲ経タルコトヲ記入



セサルカ如キハ主タル要件ニハアラスシテ無効ノ原因タルモノニアラス、

行政行為ニ付テモ亦之レトシテ、必要ナル形式要件ト從タル形式要件トヲ區別スルヲ要スルモノニシテ、其ノ區別ハ各例ノ法令ノ規定ニ付キ、其ノ精神ヲ推測スルコトニヨリテ、之定ムルコトヲ得レ、概シテ之レヲ云ハ、其ノ要件ノ欠缺ニヨリテ、其ノ行政行為ノ真正ナルコトニ疑ヲ生スヘキ場合ニ於テハ要件ハ成立ニ欠クヘカラサルモノニシテ、然ラサル場合ニ於テハ、其ノ要件ニ止マルモノト認ムヘシ、就中法律カ層面ヲ以テスルコトヲ必要トセル場合ニ於テハ、層面ニヨリテ、行政行為ハ全ク無効ナルコトハ明瞭ナリ、行政行為ノ形式要件カ法律又ハ少ナクとも法規命令ニヨリテ、規定セラル、コトナク、單ニ訓令ニヨリテ定メラレタルニ<sup>因</sup>ギザル場合ニ於テハ、其ノ要件ハ又行政ノ成立ニ欠クヘカラサル要件タルモノニ

アラス、訓令ハ只ク官廳ノ内部ニノミソノ効力ヲ有スルニ止トマリ、一般臣民ニ対シテ効力ヲ及ボスモノニアラサルナリ、行政行為ノ形式ニ付テ訓令カ何ホノ別段ノ規定ヲ設ケサル場合ニ於テハ、其ノ行政ハ必ラスシモ一定ノ形式ヲ備フルヲ要セ、又必ラスシモ層面ニヨルコトヲ要セスト、此ノ場合ニ於テモ少ナクとも其ノ行政カ正当ノ權限アル官廳ヨリ出テタリト認ムルヲ得、キ方法ヲ以テ表示セラル、コトハ總テノ行政行為ニ欠クヘカラサル条件ナリ

### 三、無權限ニ基ク無効

凡テノ行政官廳ハ一定ノ權限ヲ有シ、其ノ權限内ニ於テノミ國家ヲ代表スルノ權能ヲ有スルモノナルヲ以テ、其ノ權限外ノ行為ハ國家ノ行為トシテハ全ク効力ヲ有スルコト能ハサルモノナリ



無权限ノ行為ハ之レヲ違法ノ行為ト區別スルコトヲ要ス、無  
 权限トハ其ノ種類ノ事項ニ于シテ又ハ其ノ地域ニ于シテ絶対  
 ニ权限ヲ有セザル場合ヲ云フ、例ハ文部大臣ハ教育學藝ニ  
 干スル事項ニツキ其ノ权限ヲ有ス、教育學藝ニ干スル事項ナ  
 ラハ例令其ノ命令カ法律ニ違反スルコトアルモ、其ノ命令ハ  
 タ、違法タルニ止マリ、無权限ノ命令ニハアラス、無权限ノ  
 命令ハタ、文部大臣カ全ク教育學藝ニ干係ナキ事項ニ于シテ  
 命令ヲナシタル場合ニ於テ生ス、文部大臣カ兵役義務ニ於テ  
 租税ヲ賦課スル命令ヲナスカ如キヲ云フナリ、國ヨリ本キ志  
 味ニ於テ云フ中ハ凡テノ官職ニ違法ノ行政行為ヲナスノ权限  
 ヲ有スルモノニアラサルカ故ニ違法ノ行為モ亦权限ナキ行為  
 ト云フヲ得ヘキカ如シト虽モ無効ノ原因トナルハ如斯キ本キ  
 志味ニ於テノ無权限ニアラスシテ只々絶対ノ無权限ノ志味ニ  
 於テノ無权限ナリ、其ノ事項ノ性質ニ於テハ上其ノ官職

ノ权限ニ属セザルモノ又ハ其ノ行為ノ行ハルヘキ地域カ官職  
 ノ区域ニ属セザル場合ノミヲ云フナリ、此ノ場合ニ於テノミ  
 其ノ行為ハ絶対ニ無効ナリ

四、意思ノ欠缺ニ基ク無効

行政行為ハ意思表示ナリ、其ノ成立ニ意思ト其ノ表示行為ト  
 ヲ要スルコトハ固ヨリ云フヲ俟タス、全ク意思ノ欠缺ナル中  
 意思ト表示トノ相一致セザル中、意思ノ決定ニ瑕疵アルトキ  
 等スヘテ其ノ成立ニ欠缺アルモノナリ、然レモ之ホノスヘテ  
 ノ場合ハ行政行為ヲシテ無効タラシムルモノニハアラス、  
 苟シクモ或ル表示アル以上ハ其ノ表示セラレタル如カ原則ト  
 シテ有效ナル意思表示タルノ推測ヲ受クルモノナリ、其ノ意  
 思表示トシテ全く成立スルコトヲ得ザルハ只々其ノ意思カ全  
 然欠缺タル場合ニノミ限テ、民法上ノ法律行為ニ於テモ意



思ト表不トノ相一致セサル場合ニ於テハ其ノ意思ニヨルヘキ  
カ又ハ其ノ表不セラレサタル処ニヨルヘキカ、所云意思ニ其  
ト表表不ニ其トノ争アルトハ民法ノ講義ニ於テ固カニタル処  
ナルトシ、日本民法ハ原則トシテハ其意思ニ其トリ、又ハ  
多少ノ表不ニ其ヲ加味ス

行政行為ニキレテハ原則ハ明ラカニ表不其業ヲオササルヘカ  
ラス、行政官職カ有権的ニ決定シタル処ハ依令其ノ決定ニ如  
何ナル瑕疵アリタルトナスモ尚ホ一応ハ有效ノモノタルヘキ  
モノニシテ其ノ表不セラレタル処カ有效ナル國家ノ意思タル  
ノ推測ヲ受クヘキハ当然ナリ、此故ニ行政行為ニ在リテハ其  
ノ行為カ相手方又ハオ三者ノ詐欺又ハ脅迫ニ基ケルコト又ハ  
其ノ行為カ官廳ノ錯誤ニヨリテ行ハレタルコトハ何レモ当然  
ニ其ノ行為ヲシテ無効タラシムルモノニハアラス、只タ取消  
ノ原因トナルヘキニ止マリ、其ノ取消ノアルマテハ其ノ表不

セラレタル処カ有效ナル行政行為タルヘキモノナリ  
意思ノ欠缺カ行政行為ノ無効ノ原因トナルハ只タ其ノ意思カ  
全ク欠ケタル場合ニ限リ、意思ノ全ク欠ケタル場合トハ例  
ヘハ脅迫ノ程度カ不可抗力ノ圧迫ヲ被ルニ至リタル場合  
ノ如シ、脅迫ニヨリテ機械的ニ文書ニ署名セシムルカ如キハ  
全ク意思ヲ欠キタルモノナリ  
然レモ如斯キ場合ハ行政行為ニ付テハ實際ニ其ノ例ヲ見ルコ  
ト稀ナルヘシ、其外ハ神喪失者ノナレタル行政行為モ企シク  
意思ノ欠缺ニ基ク無効タルヘシ

(2) 行政行為ノ瑕疵  
行政行為カ当然無効タル場合ノ外凡ヘテ完全ニ其ノ成立要件ヲ具  
備セサル行政行為ハ皆法律上ノ瑕疵アル行政行為ナリ、此故ニ行  
政行為ノ内容カ法規ニ抵触スル場合、行政行為ノ成立ノ手續カ法  
規ニ違反スルトキ、意思ノ決定カ詐欺、脅迫又ハ錯誤ニ基クトキ



ハ何レモ瑕疵アル行政行為タルナリ、<sup>二三〇</sup> 管ニ其ノ内容カ法規ニ違反スル場合ノミナラス、公益ニ適合セザル場合ニ於テモ亦々華シク法律上ノ瑕疵ヲ生ス、凡テ行政官廳ハ其ノ权限ヲ行使スルニ當リテ最モヨク國家ノ目的ニ適合スヘキ方法ニ於テ之レヲ行フモノノ義務アルモノニシテ此ノ義務ハ單ニ倫理上ノ義務タルニ止マラス又法律上ノ義務ナリ、若シ行政行為ノ内容カ公益ニ反シ從テ國家ノ目的ニ適合セザルトキハ官廳ハ之レト法律上ノ義務ニ違反スルモノニシテ其ノ行政行為ハ完全ナル國家ノ行為トシテノ効力ヲ有スヘキモノニアラス、此故ニ瑕疵アル行政行為ハ大体ニ於テ之レヲ二種ニ分カソフヲ得

一ハ違法ノ行政行為ニシテハ公益ニ反スル行政行為ナリ、違法ノ行政行為トハ實質上違法ト形式上ノ違法トヲ併セ包含スルモノニシテ實質上ノ違法トハ行為ノ内容カ法規ニ違反スルヲ云ヒ、形式上ノ違法トハ行為ノ成立ノ手續外ノ意思ノ決定ノ原因ヲ法規ニ

違反スルヲ云フ、公益ニ反スル行政行為トハ專ラ行為ノ内容ヲ國家ノ目的ニ適合セザルモノヲ云フナリ

右何レノ場合ニ於テモ瑕疵アル行政行為ハ当然ニ無効タルモノニアラスレテ取消ニヨリテ始メテ其ノ効力ヲ失フ、取消シアルマテハ有效ナル行政行為トシテ一面ニハ國家ニ對シ一面ニハ其ノ相手方タル当事者ニ對シテ双方面ノ拘束力ヲ有スルモノナリ、行政行為カ法律上ノ瑕疵アルコトニヨリテ之ヲ取消ス場合ハ或ハ行政官廳ノ職權ニヨルコトアリ、或ハ其ノ相手方タル当事者ノ請求ニ基クコトアリ、何レノ場合ニ於テモ行政行為ノ取消ハ法律上ノ要件ニヨリテ行ハルモノニシテ其ノ相手方タル当事者ハタカ其ノ取消ヲ官廳ニ請求スルコトヲ得ルノミニシテ當事者ノ意思ニヨリテ行政行為カ当然ノ其効力ヲ失フコトハアリ得ヘカラサル也ナリ、行政行為ハ國家ノ意思ニヨリテ其ノ効力ヲ有ス國家ノ意思ハ只ク國家ノ意思自身ニヨリテ之レヲ取消サルコトヲ得ハ



ク臣民ノ意思ヲ直接ニ之レテ無効トラシムルヲ得ベキモノニアラ  
サルナリ

行政行為ハ取消ハ如斯ク常ニ國家ノ意思ニ基キテ行ハル、モノニ  
シテ換言スレハ行政行為ノ取消ハ其レ自身ノ行政行為タルコト  
ヲ要スルモノナリト雖モ、此ノ行政行為ハ或ハ當事者ノ請求ニ基  
キテ行ハル、コトアリ、或ハ當事者ノ請求ニ基カスレテ行政官廳  
ノ取裁上自ラ進ニテ之レヲ取消スモノナルコトアリ、之レニヨリ  
テソノ取消ニハ取裁ニヨル取消ト、請求ニヨル取消トトヲ區別ス  
ルコトヲ得

職權ニヨル取消ハ國家ノ側ヨリ進ニテ之レヲ取消スモノニシテ如  
斯ク取消權ヲ有スル官廳ハ原則トシテハ其ノ取消權ヲ有シタル官廳  
自身及ヒ其ノ上級官廳ナリ

第一ニハ其ノ行為ヲナシタル官廳自身ハ原則トシテ其ノ行為カ  
法律上ノ瑕疵アル場合ニ於テ自當ニ之レヲ取消スノ權ヲ有ス、

此ノ原則ニ對シテハ素ヨリ法律ノ舉例アリ、其ノ條例ニ伴テハ  
次郎ニ於テ行政行為ノ一般消滅原因ヲ論スルニ當リテ之レヲ述  
フヘシ、如斯キ特別ノ例外ノ外ハ其ノ行為ヲナシタル官廳自身  
ハ其ノ事件ニ關シタル國家ヲ代表シテ國家ノ意思ヲ決定スルノ權  
アルヲ以テ若シ其ノ決定ニ瑕疵アル場合ニ於テハ又其ノ決定ノ  
誤リナリシコトヲ宣言スルノ權ヲ有セサルヘカラス、此ノ取消  
權ハ特別ノ法規ノ明文アルニヨリテ始メテ生スルモノニアラス  
シテ反對ノ規定アル場合ノ外ハ一概ニ此ノ取消權ヲ有スルモノ  
ナリ

第二ニハ行政官廳モ亦其ノ取消權ヲ有ス、上級官廳ノ取消權ニ付キ  
テハ現行ノ官制中ニモ概括的ノ規定ヲ以テ明文アリ、各省官制通  
則ニハ内閣總理大臣及各省大臣ハ其ノ臨時ノ下ニ屬スル地方官  
廳ノ命令又ハ処分ノ法規ニ反シテ權限ヲ越ヘ、又ハ公益ニ反スルモ  
ノヲ取消スノ權アルコトヲ規定ス、地方官制ニハ各地地方官カ



二三四  
合様の場合ニ於テ下級地方官廳ノ命令又ハ処分ヲ取消シ得ルコトヲ規定ス、如斯キ特別ノ明文ナキ場合ト雖モ、凡テ上級官廳ハ其ノ一般ノ監督權ニ基キ下級官廳ノ行為ノ法律上ノ瑕疵アルモノヲ取消シ得ヘキコトハ明文ヲ俟タサル監督權ノ当然ノ作用ト認ムヘキナリ、併レトモ如斯キ上級官廳ノ取消權モ亦決シテ例外ナキ權限ニハアラス、  
取消權ニテスル一般ノ制限ハ上級官廳ノ取消權モ亦及テシク適用セラルヘキモノナリ、上級官廳ハタ、如斯キ特別ノ制限ナキ場合ニ於テ原則トシテ之レヲ取消シ得ヘシト云フニ止マル、  
請示ニ基ク取消ハ行政行為ノ相手方タル當事者カ其ノ取消ヲ請示スルノ權ヲ有シ其ノ請示ニ基キテ官廳カ之レヲ取消ス場合ナリ、  
當事者カ行政行為ノ取消シテ請示スルノ權利ヲ有スル場合ハ只法規ノ明文ヨリテ許サレタル場合ニ限ルモノニシテ或ハ行政

裁判所ニ出訴シテ其ノ取消シテ請示シ得ルモノナルコトアリ、或ハ其ノ行為ヲナシタル官廳自身若シテハ其ノ上級官廳ニ其ノ取消ヲ請示シ得ルモノナルコトアリ、前者ハ行政訴訟ニシテ前者ハ請願ナリ、  
請願及ヒ行政訴訟ニ付テハ后章ニ之ヲ論ス  
行政行為カ法律上ノ瑕疵アル場合ニ於テハ官廳ハ法律上必ラス之レヲ取消スノ義務アリヤ否ヤニ付テハ取裁ニヨル取消シト請示ニヨル取消トヲ區別スルコトヲ要ス、請示ニヨル取消ノ場合ニ於テハ當事者ハ其ノ取消ヲ請示スルノ權ヲ有スルモノニシテ行政裁判所又ハ訴訟機關ハ若シ其ノ行為カ法律上ノ瑕疵アリト認ムル場合ニ於テハ必ラスコレヲ取消スコトヲ要スルハ勿論ナリ、取裁ニヨル取消ノ場合ニ於テハ之レニ反シ官廳ハタ、之レヲ取消スノ權アルニ止マリ必ラス之レヲ取消スノ義務アルニアラスと看ス或ハ行政行為カ違法ナル場合ト公益ニ反スル



場合トテ區別シ、違法ノ場合ニ於テハ官職ハ付ラス之レヲ取消  
スコトヲ要ス、公益ニ反スル場合ニ於テハ之レヲ取消ト否トヲ  
自由ニ決定スルコトヲ得ヘシトナスモノアル共惟フニ正当ナラ  
ス。

違法ノ行政行為ニアリテモ曰ニ高度決定セラレタル以上ハ法律  
干渉カ一夫ハ有権的ニ決定セヨシヤルモノニシテ而シテ一度決  
定セラレタル法律ニ係ル依令其有因ハ違法ノ行為ニ基キル場  
合ト虽モ曰ニ相當ノ期間ヲ経過シタル以上之レヲ變更スルハ  
已定ノ法律の秩序ヲ破壊スルモノニシテ、公益上ノ必要カ其ノ  
變更ヲ要求スル場合ノ外ハ濫リニ之レヲナスヲ許サズ、民法ハ  
時故ノ制ヲ設ケテ相當ノ期間継続セル而モハ依令其ノ原因ハ違  
法ナル場合ト虽モ尚ホ正当ナル法律原因トシテ認めル所以モ本  
此ノ理由ニ基クモノナリ、行政行為ニ有テモ亦之ト同一ノ理  
由ニヨリ依令其ノ本末ノ成立カ法規ニ違反スル場合ト虽モ曰ニ

一度決定セラレタル相當ノ期間ヲ経過セル以上ハ之レヲ變更ス  
ルハ却ツテ已定ノ法律の秩序ニ必要ナル動機ヲ存ヘ之レヲ取  
消スコトカ却テ一層公益ニ反スルコトナサレトスヘカラス、  
此ノ故ニ違法ノ行政行為ト虽モ必ラス之レヲ取消スコトヲ  
要スト認ムヘカラス、行政行為カ法規ニ違反スルト公益ニ反ス、  
ルトヲ向ハス、之レヲ取消スヘキヤ否ヤハ一ニ法律ノ場合ニ於  
テ之レヲ取消スコトカ公益上果シテ適當ナリヤ否ヤノ自由裁量  
ニヨリテ決定セラレルヘキモノナリ

### 第五節 行政行為ノ消滅

行政行為ノ消滅原因ノ最も顯著ナルモノハ行政行為ノ取消ニナリ、  
本節ノ目的トスル處ハ主トシテ此ノ取消ニ付キテ論スルニアリ、然



ニ三八  
レトモ取消ノ事ヲ詳論スル前ニ先ツ行政行為ノ一般消滅ノ原因ニ付  
キテ簡單ニ一言スヘシ

行政行為ノ消滅原因ハ各種ノ行政行為ニ付テ全シカラス、今一般ノ  
行政行為ニ共通ナル普通ノ消滅原因ヲ挙クレハ次ノ如シ

一 多クノ行政行為ハ継続的ノ法律關係ヲ設定スルコトナリ、單ニ一  
回ノ行為ヲ以テ其ノ目的ヲ完了スルモノナリ、例ヘハ特定ノ行為  
ヲ爲スル下位行為ノ如シ、如斯キ継続的ノ法律關係ヲ設定セザル行  
爲ニアリテハ、其ノ目的ノ完了ニヨリ其ノ行為ハ當然消滅ス、特  
定ノ行為ヲ爲スル下位行為ハ受命者々其ノ命ヲ受レタル行為ヲナ  
シ終ルコトニヨリテ當然消滅スルカ如シ

二 継続的ノ法律關係ヲ設定スル法律關係ニ付テモ行政行為ニアリ  
テモ其ノ法律關係ハ或ハ法令ノ規定ニヨリ或ハ行政行為自身ノ附  
款ニヨリテ期限若シクハ条件ニカ、ワレムモノナルコトアルヘシ  
此ノ場合ニ於テハ期限ノ到着若シクハ解除条件ノ成就ハ其ノ行政

行為ノ消滅原因タルコトハ勿論ナリ

三 相手方ノ死亡ハ一般行政行為ニ通スル通常ノ消滅原因ナリ、行政  
行為ハ通常ノ場合ニ於テハ特定ノ相手方ヲ有スルコトハ前述ノ如  
シ其ノ相手方ノ死亡ハ当然其ノ行為ノ効力ヲ失ハシムルモノナリ  
又時トシテハ行政行為カ外形上ハ特定ノ相手方ニ向フテ行ハル、  
場合ト雖モ其人ニ重キヲ置カスレテ或ハ特定物ノ所有者トシテ特  
定ノ企業ノ經營者トシテ特定ノ職業ヲ有スルモノトシテ又ハ其ノ  
他ノ特定ノ地位ニ重キヲ置キテ下サル、モノナルコトアリ、此ノ  
場合ニ於テハ其人ノ死亡ハ必ラスシモ当然ニ其ノ行為ノ消滅原因  
トナルコトナリ其ノ特定物ノ所有權、特定ノ企業又ハ其ノ他ノ特  
定ノ地位ヲ継承セル兼承人カ当然其ノ効力ヲ兼承スルコ  
トナキニアラス、行政行為カ相手方其人ニ重キヲ置キタルカ又ハ  
其人ニ重キヲ置カスレテ兼承人ニマテ其ノ効力ヲ及ボスヘキモノ  
ナルカハ各例ノ行政行為ニ付テ或ハ法令ノ規定ニヨリテ、或ハ行



為其ノモノ、性質ニヨリテ之ヲ判断スルノ外ナシ

(四) 目的物ノ消滅モ亦前者ト左ニ論スヘキモノナリ、行政行為カ特定ノ目的物ニ重キヲ置キタル中、例ヘハ特ニ破壊セニトスル建物ノ取除キヲ命スル下命行為ノ如キハ其ノ建物ノ消滅ヲ以テ当然消滅ス

(五) 行政行為ハ又法律命令ノ規定ニヨリテ直接ニ其ノ效力ヲ失フコトアリ、法令ノ改正ニヨリ旧法令ニヨリテ発セラレタル行政行為ノ效力ヲ失ハシムル場合ハ即チ之レナリ

(六) 行政行為ノ最モ重ナル消滅原因ハ右ノ行政行為ニヨリテ其ノ效力ヲ失ハシムル場合ナリ、右ノ行政行為ニヨリテ前ノ行政行為ヲ消滅セシムルハ或ハ單ニ前ノ行政行為ノ效力ヲ失ハシムルニ止マリテ之ニ代ルヘキ何物ヲモ以テセサルコトアリ、或ハ前ノ行政行為ヲ消滅セシムルト同時ニ之レニ代ルヘキ新ナル行政行為ヲ以テスルコトアリ  
前ノ場合ハ狭義ノ取消シナリ、後者ハ行政行為ノ變更ナリ、二者

ヲ併セ称シテ本義ニ於ケル行政行為ノ取消シトモ云フ、行政行為ノ取消ハ行政行為ニ關スル最モ困難ナル問題ノ一ニシテ前説ニ於テ行政行為ノ法律上ノ瑕疵アル場合ニ於テ之ヲ取消スヲ得ヘキコトヲ述ヘタルカ法律上ノ瑕疵ハ只タ其ノ取消ノ原因ノ一タルニ止マリ其ノ凡テニアラス、瑕疵アル場合ノ外、行政行為ハ又種々ノ原因ニヨリテ之ヲ取消シ得ヘキコトアリ、以下專ラ行政行為ノ取消ニ付テ論セン

### 行政行為ノ取消 (Aufhebung)

如何ナル場合ニ於テ行政行為ヲ取消スコトヲ得ルヤハ、行政行為ノ種類ニヨリテ左シカラス、此ノ下條ニ於テハ行政行為ノ之レヲ三種ニ分クコトヲ得、原則トシテ行政官職ノ权限ニヨリ、自由ニ取消スコトヲ得、キ行為ハ其ノ一ナリ、原則トシテ確定カヲ有シ官職ノ权限ニヨリテ之ヲ取消スコトヲ許サル行為ハ其ノ二ナリ



特定ノ理由アル場合ニ限リテ取消スコトヲ得ヘキ行為ハ其ノ三十一

民法上ノ法律行為ハ法律行為ノ當事者カ自由ニ取消スコトヲ得  
サルヲ原則トナスニ及シ、行政行為ハ原則トシテハ官廳ノ裁  
ニヨリテ之ヲ取消シ得ヘキコトヲ一般ノ原則トナス、素ヨリ  
自由ニ之ヲ取消スコトヲ得ヘシト云フモ敢テ官廳ノ專斷ニヨリ  
テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ヘシト云フニハアラス、行政  
行為ハ凡テ最モ公益ニ適合スヘキ方法ヲ以テ之ヲナスコトヲ  
要スルハ勿論ナリ、行政行為ノ取消ニ付テモ亦只タ公益上ノ理  
由カ其ノ取消ヲ違法トナス場合ニ於テノ之レヲナスヲ得ヘキ  
ハ事理ノ當然ナリ、自由ニ取消シ得ヘキ行為ト云フハ只タ其ノ  
之レヲ取消スコトカ公益上適當ナリヤ否ヤノ認定カ官廳ノ自由  
裁量ニ存スルモノヲ云フナリ、此ノ意味ニ於テ行政行為ハ一般  
ニ云フハ其行為ヲナシタル官廳自身又ハ其ノ上級官廳ニ於テ之

レヲ取消シ得ヘキヲ一般ノ原則トス、然レ比之レハ只タ一般ノ  
原則タルニ止トマリ、之レニ及クノ例外アリ、其ノ例ハ次ノ如  
トシ

④其ノ例外ノ最モ顯著ナルモノハ原則トシテ確定カ有レ全ク之  
ヲ取消スコトヲ許サル行為ナリ、之レヲ稱シテ確定カアル行  
為ト云フヲ得ヘク、此ノ種ノ行為ノ最モ著シキ例ハ裁判ヲ決  
ナリ、裁判ヲ決ハ司法官判所ノ判決ニテモ、行政官判所ノ判決  
ニテモ其ノ一度宣告セラレタル上ハ裁判所ノ職權ニヨリテハ最  
早全ク之レヲ取消スコトヲ得ス、只當事者ノ上訴ニヨリ上訴裁  
判所ニ於テ再度審理スルコトヲ得ルノミ當者ノ上訴ナクシテ  
已テニ確定セルトキハ最早何人ヨリモ之レヲ争フコトヲ得サル  
モノナリ、裁判ヲ決以前ニ於ケル一般ノ行政行為ニ付テモ又之  
レト全クノ性質ヲ有スルモノ少ナカラス、凡テ一定ノ法律手續  
ニヨリテ法規ノ適用ヲ確定スルカ爲メニスル行為ハ一般ニ裁判



判決ト左様ノ性質ヲ有シ從テ又左様ノ確定力ヲ有スルモノト認  
ムルヲ正当ナリトス、例ハ公用使収ノ裁決、許願ノ裁決ノ如  
キハ其ノ例ナリ、凡テ之レヲ正式ノ手續ニヨリテ特定ノ法律ヲ  
依テ決定シタル場合ニ於テハ特ニ法律ノ許セム手續ニヨリテ當  
事者ノ側ヨリ之レヲ争フコトヲ得ル場合ノ外原則トシテ確定力  
ヲ有シ、依令其ノ決定カ法規ニ違反シ又ハ其他法律上ノ瑕疵ア  
ル場合ト虽モ、官廳ノ職權ニヨリテハ之レヲ取消スコトヲ得ル  
ルモノナリ

(四)以上二種ノ中間ニ於テ多クノ<sup>行政</sup>法律行為ハ或ル特定ノ理由アル場  
合ニ依リ之レヲ取消スコトヲ得ヘキモノナリ、此ノ種ニ屬スル  
行為ハ第一ニハ當事者カ其ノ行政行為ニ對シテ請求有スル  
場合ナリ、當事者カ自己ノ利益ノ爲メニ或ル行政行為ノ行ハル  
ヘキコトヲ請求スルノ<sup>行政</sup>職權有シ其ノ<sup>行政</sup>職權ニ基キテ行政行為カ  
下サレタル場合ニ於テハ官廳ハ最單其ノ<sup>行政</sup>職權ニヨリ自由ニ之レ

ヲ取消スコトヲ得ヘキモノニアラス、第二ニ行政行為ニヨリテ  
當事者ノ利益ノ爲メニ<sup>行政</sup>職權又ハ法律上ノ利益ヲ侵害シ其ノ行為  
ノ取消シハ<sup>行政</sup>職權又ハ特別負擔ヲ生ズルハキ場合ナリ、行政  
行為ニヨリテ相手方カ或ル<sup>行政</sup>職權又ハ其他ノ利益ヲ侵害セラレタ  
ル場合ニ於テハ其ノ行為ノ取消シハ當事者ノ<sup>行政</sup>職權ヲ喪失セシム  
ル結果ヲ生シ又ハ當事者ニ新ナル<sup>行政</sup>負擔ヲ負ハシムルノ結果トナ  
ルモノニシテ此ノ場合ニ於テモ官廳ノ自由ニ之レヲ取消スノ<sup>行政</sup>職  
權ヲ有スルコトヲ得ス此ノ二種ノ場合ニ於テハ官廳ハ只テ特  
別ノ理由アル場合ニ限リ、之レヲ取消シ得ルニ止マル  
此ノ種ノ行為ニ付テ如何ナル場合ニ之レヲ取消スコトヲ得ルカ  
ハ各例ノ場合ニ於ケル法令ノ規定ニヨリテ之レヲ判断スルノ外  
ナシ、法令ハ時トシテハ明ラカニ其ノ之レヲ取消シ得ヘキ場合  
ヲ列記スルコトアリ、此ノ場合ニ於テハ法令ノ列記シタル理由  
アル場合ニ限リテ之レヲ取消スコトヲ得、其ノ他ノ場合ニハ



之レヲナスコトヲ得サルモノト認メサルヲカラス、法令ハ別段  
ノ規定ナキ場合ニ於テモ行政行為自身ニ於テ其ノ附随トシテ取  
消権ヲ留保スルコトヲ得、取消権ノ留保アルトキハ其ノ留保シ  
タル範圍ニ於テ之レヲ取消スコトヲ得、キハ本明瞭ナリ、併シ  
法例ニ別段ノ規定ナク又ハ取消権ノ留保ナキ場合ト雖モ全ク之  
レヲ取消スコトヲ得サルモノト認ムヘカラス、或ル特別ノ理由  
アル場合ニ於テハ事ノ性質上法律ノ別段ノ規定ヲマダスレテ當  
然取消シ得、キモノト認ムヘキモノアリ、其ノ場合ニ於ケル、  
其ノハ、行政行為ノ事實上ノ要件ヲ具ハラサルニ至リタル  
コト之レナリ、要ク行政行為ハ一定ノ事實的條件ノ具備スル  
コトヲ其ノ行為ノ要件トナスモノアリ、其ノ要件ハ右ニ至リテ  
欠ケタル場合ニ於テハ其ノ行為ハ成立要件ヲ失ヒタルモノニシ  
テ原則トシテ之レヲ取消スコトヲ得サルヘカラス、只タ其ノ  
要件ハ其ノ行政行為ノ行ハル、<sup>時</sup>當事ニ於テモ要件タルニ止マリ

其ノ行為ニヨリテ成立シタル法律ニ係ル成立要件ニアラサル場  
合ニ於テハ此ノ限リニアラス、例ハ、文官試験ニ合格シタルモ  
ノカ右ニ其ノ合格ニ必要ナル學力ヲ失ヒタル場合トモ其ノ合  
格ヲ取消サルコトナシ、<sup>キ</sup>力ノ具備ハ只合格當時ノ要件ニ止  
マリ其ノ法律行為ノ繼續的要件ニハアラサルナリ、及之ニ例ヲ  
ハ刑ニ処セラレタル者ニアラサル人カ<sup>ハ</sup>債權放棄免許ノ要件タリ  
ト規定シ其ノ免許ヲ受ケタルモノカ右ニ刑ニ処セラレタルモノ  
ハ当然其ノ免許ヲ取消スコトヲ得、  
其ノ二、行政行為ノ法律上ノ瑕疵アル場合ナリ、行政行為ノ内  
容カ法規ニ違反スルトキ行政行為ノ當事者ノ詐欺又ハ其他不正  
ノ申告脅迫又ハ賄賂等ノ不正ノ勢力ニヨリテ下サレタルモノナ  
ルトキ行政行為ノ決定カ法律上ノ必要ナル手續ヲ誤リタルトキ  
行政行為ノ錯誤ニヨリ下サレタルトキ凡テ之等ノ場合ニ於  
テ行政行為ハ之レニヨリテ<sup>時</sup>當事者ノ權利ヲ設定シタル場合



特別ノ反対ノ規定、又ハ少ナクモ反対ノ意思ヲ推測シ  
規定アラサル限リハ其ノ行為ヲナシタル官廳又ハ上級官廳ノ  
権ニヨリテ之レヲ取り消スコトヲ得ヘキモノト認ムヘシ、只  
行政行為ノ内容ノ單ニ公益ニ反スルヲ止マリ、法規ニ違反スル  
ニアラサル場合ニ於テハ特別ノ規定ナキ限リハ官廳者ノ権利ヲ  
毀損スルノ理由トナルヲ得サルヲ以テ之レヲ取消スヲ得サルモ  
ノト倍ス

取消ノ效果ハ或ハ已往ニ溯ルモノアリ、或ハ單ニ將來ニ向ツテノ  
ミ效クテ有スルコトアリ、取消ノ效果カ已往ニ溯ルル場合ニ於テ  
ハ其ノ行政行為ハ初メヨリ全ク無効ナリシモノト見做サシ其ノ行  
為ニヨリテ生シタル法律上ノ效果ハ全ク消滅スシ、其ノ事實上ノ  
效果ハ出来得ヘキタケ現狀ニ回復スルコトヲ要ス、故ニ例テハ行  
政行為カ已往ニ溯リテ取消サレタル場合ハ其ノ取消ノ前ニ於テ其  
ノ行為ニ違反シタルモノト虽モ之レヲ如罰スルコトヲ得ス、已テ

ニ如罰ノ宣告ヲ受ケタルモノハ無罪トナルヘキモノナリ、取消ノ  
效果カ單ニ滅美ニシテ効カヲ有スル場合ハニ於テハ取消シニ至ル  
迄ハ其ノ行為ハ有效ニ成立シタルモノニシテ只タ將來ニ對シテ廢  
止セラレ、モノナリ、行政行為ノ取消シカ此ノ何レノ效果ヲ有ス  
ルカハ各例ノ場合ニ依テ論スルヲ要スシ、概括的ニ之レヲ一足ス  
ルコト難シ、一般ニキハ行政行為ハ其ノ初メヨリ無効ナル  
場合ノ外ハ一応ハ有效ニ成立シ且當者ハ之レニ服従スルハ美ムア  
ルモノニシテ以テ法令ニ及対ノ規定アル片ハ官廳ノ反対ノ意思  
ヲ推測シ得ヘキ場合ノ外ハ取消ノ效果ハ只タ將來ニ及フニ止マリ  
已往ニ溯ルモノニアラスト辨スルヲ正当トナスヘシ  
取消ノ形式ハ一定ノ方式アルニアラサレハ一般ニ之ハ行政行為  
其レ自身ト左ノ形式ヲ以テ行ハルヘキヲ原則トス

第六節 公法上ノ時效



時ノ至過ハ私法上ノ権利ノ發生及ヒ消滅ノ原因タリ得ルト全シク又  
公法上ノ権利ノ發生消滅ノ原因タルコトアリ  
時ノ至過カ權利ノ消滅原因タル場合ハ二種ノ場合ヲ區別スルコトヲ  
要ス

一ハ其ノ期間中権利者カ其ノ権利ヲ行使スルト否ト問ハス、期間  
ノ満ルニヨリテ其ノ権利カ法律上当然消滅スル場合ナリ、例ヘハ、  
特許権、著作権、著作權等ノ権利ハ其ノ成立ノ時ヨリ一定ノ期間ヲ  
至過スルニヨリテ当然消滅スルカ如シ、一定ノ年限ヲ定メテ特許セ  
ラレタル公ノ企業権(鐵道会社瓦斯会社ノ类)モ亦此種ニ屬ス  
一ハ其ノ期間中権利者カ其ノ権利ヲ行使セサルコトヲ條件トシテ其  
期間ノ満ルニヨリテ其ノ権利カ消滅スル場合ナリ  
前場合ハ通常之レヲ除キ期間(Befristung)ト云ヒ後ノ場  
合ハ之ヲ消滅時效(Verjährung)ト云フ、前者ニ在リテハ  
其ノ権利カ一定ノ期間ノ至過ニヨリテ消滅スルコトハ權利ノモノ

ニ伴フ本來ノ性質ニシテ從テ其ノ権利カ裁判上ノ問題トナル場合ニ  
於テ裁判所ハ當事者カ之レヲ採用スルト否ト問ハス、當然其ノ權利  
ノ消滅ヲ承認スルコトヲ要スルハ勿論、法律ノ改正ニヨリテ、其ノ  
期間カ變更セラレタル場合ニ於テモ法律カ特ニ明文ヲ以テ已往ニ溯  
リテ適用セラルヘキコトヲ規定セル場合ノ外ハ其ノ權利ハ從來ノ規  
定ニヨリ、期間ノ至過ニヨリテ消滅シ新規定ニヨル期間ハ適用セラ  
レサルヲ原則トス、消滅時效ノ場合ハ之レニ反シ權利ノ消滅ハ權利  
其モノ、本來ノ性質ニ基クモノニアラスシテ權利者カ之レヲ行使セ  
ザリシ結果ナリト從テ法律ノ改正ニヨリテ其ノ期間カ變更セラレタ  
ル場合ニ於テハ特別ノ規定アル場合ノ外ハ新規定ニ基ク、時效ノ期  
間カ當然之レニ適用セラルヘキモノナリ、其ノ權利カ裁判上ノ問題ト  
トナレル場合ニ於テ裁判所ハ裁量ニヨリテ當然時效ノ效果ヲ認ムル  
コトヲ要スルヤ、又ハ當事者カ之レヲ採用スルニアラサレハ裁判所  
ハ時效ノ效果ヲ認ムルヲ得サルヤニ依テムルモ必ラスシモ權利ノモノ



ノノ性値ニヨリテ之ヲ断定スルコトヲ得スハ各何ノ場合ニ於ケル  
 法律ノ規定ニヨリテ之ヲ決定スルコトヲ要スルモノニシテ或ハ  
 事者ノ援用ヲ以テ条件トナス場合アリ、或ハ当事者ノ援用ヲ俟タス  
 ニテ期間ノ経過ニヨリテ其ノ権利カ絶対ニ消滅スル場合アリ、民法  
 上ノ時効ニ付テハ民法ハ凡テ時効ハ当事者カ之ヲ援用スルニアラ  
 サレハ裁判所ハ之レニヨリテ裁判スルヲ得サルコトヲ規定セリ(民法  
 一四五)即ケ時効ニヨリテ権利カ当然消滅スルニアラステ當事者  
 ノ援用ヲ条件トシテ裁判スルモノナリ、併シ之レ必ラスレモ民法  
 上ノ権利ニ付テ當事者ノ援用ヲ条件トセザル時効ナレト云フニアラ  
 ス、只民法カ之レヲ時効ト称スルコトナクシテ民法ニ於テ時効ト称  
 セルモノハ常ニ當事者ノ援用ヲ条件トスルニ止マテ、民法ニ於テハ  
 事者ノ援用ヲ必要トセザル時効ハ一般ニ之ヲ除斥期間ノ一種トナス  
 ヲ通稱トス公法上ノ権利ノ消滅原因タル時効ニ付テモ亦當事者ノ援  
 用ヲ条件トスルモノト然ラサルモノトヲ區別スルヲ得ヘレ、其援用

二五二

ヲ条件トナスモノハ或ハ之レヲ放棄ノ消滅時効ト云フヲ得、如何ナ  
 ル場合ニ於テ當事者ノ援用ヲ条件トセルカハ只又各何ノ場合ニ於ケ  
 ル法律ノ規定ニヨリテ之レテ定ムルコトヲ得  
 公法上ノ権利ニ付テ消滅時効ノ適用アル最顯著ナルモノハ公法上ノ  
 金貨請求権ナリハ公法上ノ金貨請求権ハソノ其ノ國家又ハ公法人カ  
 臣民ニ對シテ有スル権利タルト臣民ノ側ヨリ國家又ハ公法人ニ對シ  
 テ有スル権利タルト又ハ國家者ニクハ公法人相互ノ間ニ於ケル権利  
 タルトト向ハス、一般ニ時効ニヨリテ消滅スルモノナリ、裁カ會計  
 法ハ特ニ明文ヲ以テ臣民ノ國家ニ對シテ有スル債權又ハ國家カ臣民  
 ニ對シテ有スル債權ハ何レモ五年ヲ以テ其ノ消滅時効トナスコトヲ  
 原則トスルトヲ規定セリハ関稅法ニ付テモ關稅ノ時効ニ付テ別ニ定  
 ムル処アリ、之ホノ特別ノ規定ニ付テハ尚ホ財政法ノ章ヲ於テ述  
 ルル処アルヘレ  
 之ホノ特別ノ規定アル場合ニ於テハ其ノ規定ニヨリテ消滅時効カ公

二五三



法上ノ権利ニ適用セラル。モノナリコトハ兼テタテ候タストモ  
 モ如斯キ特別ノ規定ナキモ金貸上ノ債権ニ付テハ租税ノ課収権、俸  
 給請求権ノ如キ、公法上ノ権利ニ付テモ民法上ノ債権ト左リノ消滅  
 時効ノ適用ヲ受クルコトハ云フテ候タヤル当然ノ事理ト認ムヘキモ  
 ノナリ蓋シ金貸上ノ債権ニ付テハ其ノ公法上ノ権利タルト私法上ノ  
 権利タルト同ハス、其ノ至清上ノ性質ニ於テハ左ノ地位ヲ有シ  
 時効ノ認ナラルヘキ理由ニ於テモ兩者ノ間ニ何等ノ差別認ムヘカラ  
 サルヲ以テナリ

民法ノ時効ハ固ヨリ原則トシテ只タ民法上ノ権利ニ付テハ適用  
 セラルヘキモノナリトモ、金貸請求権ハ其ノ公法上ノ権利タル場  
 合トモ、尚ホ民法上ノ債権ト經濟上左ノ性質ヲ有スルモノトシ  
 テ差推ニヨリ民法ノ規定カ適用セラルヘキモノナリト認ムヘキモ  
 ノナリ例ハ公計法ニ於テハ只タ國家ノ臣民ニ対スル権利及ヒ臣  
 民ノ國家ニ対スル権利ニ付テ特別ノ消滅時効ヲ規定セルニ由マリ公

法人ト臣民トノ間ニ於ケル金貸上ノ債権ニ付テハ別段ノ規定ヲ設ケ  
 ストモ、其ノ別段ノ規定ナキ場合ハ民法ノ時効ノ規定カ當然金貸  
 上ノ債権ニ準用セラルヘキモノナリト信ス、時効ノ  
 起算其ノ中折及ヒ其ノ法律上ノ効力ニ付テモ亦民法ノ規定ニ從  
 ヘキモノナリ

金貸上ノ債権ノ外、消滅時効ノ適用アルモノハ只タ法律ノ特別ノ規  
 定アル場合ニ限ラルヘク例ハ國家ノ刑罰権ノ如キモ時効ニヨリテ  
 消滅スルコトハ刑法ノ規定スル外ナリ其他起訴権、許願権ノ如キ  
 権利モ亦法律ノ特別ノ規定ニヨリ一定ノ期間之ヲ行使セサルコトニ  
 ヨリテ當然消滅ス、又消滅時効ノ一種ナリ  
 取得時効ニ付テハ公法上ノ権利カ其ノ適用ヲ受クル場合ハ甚タ稀ナ  
 リ其ノ適用アル場合ハ只タ法律ノ特別ノ規定アル場合ニ限ラルヘク  
 モノニシテ主トシテ財産上ノ價格ヲ有スル公法上ノ権利ニ付テノミ  
 其ノ適用ヲ思考スルコトヲ得



第三章 行政組織ノ法

第一節 行政組織ノ概論

行政組織トハ行政権ノ作用力如何ナル概于ニ依リテ行ハル、カノ法則ヲ去フナリ、國家ノ行政権ハ天皇ノ親シク統轄シ給フ所ニシテ或ハ國務大臣ノ輔弼ニヨリ親裁シテ行ハセラル、或ハ各種ノ行政官廳ニ委任シテ之レヲ行ハシメラル、行政官ノ外ニ又各種ノ公法人アリ公法人ハ國家ノ行政ノ外ニ自己ノ特別ノ事務ヲ有シ國家ノ監督ノ下ニ於テ自己ノ行政事務ヲ行フ行政組織ハ之レハ、各種ノ行政官ノ及ヒ公法人ノ組織ヲ去フ

行政組織ノコトヲ述ワルニハ先ツ中央集權ト地方分權トノコトヲ一



言スルヲ要ス、中央集権トハ國ノ一切ノ権カヲ中央政府ニ集一シ地  
方官ナハ只中央政府ノ指揮命令ノ下ニ於テ行動スルニ止マルモノヲ  
云ヒ地方分権トハ國ノ権カヲ中央ニ集中スルコトナク之レヲ地方ニ  
分任スルモノヲ云フ、中古ノ封建時代ニ於テハ日本ニ於テモ歐洲諸  
國ニ於テモ極端ナル地方分権行ハレタリ、之レヲ歐洲諸國ニ付テ云  
ハハ封建時代ニ於テハ中央政府ノ権カハ極メテ微弱ニシテ地方ニ及  
ハス、右地方ニハ大名カ各々ソノ領地ヲ有シソノ領内ニ於テハ各大  
名家恰モ一國ノ君主ノ如ク自己ノ軍隊ヲ有シ自己ノ法律ヲ有セリ、  
大名ノ外ニ尚ホ自由市府アリ殆ント國王ノ支配ヲ受ケス小國家ノ如  
キ地位ヲ有シタリ、如斯キ極端ナル地方分権ノ状態カ中央集権ニ變  
遷シタル途過ハ各國相全シカラスト虽モ概シテ之レヲ去ハハ封建制  
度ハ中古ノ終リト共ニ全ク衰ヘ近古紀ニ入リテハ政諸國ハ相故後シ  
テ何レモ中央集権ノ氣運ニ向ヘルモノト云フヲ得、我國ニ於テモ  
亦中古紀以來中央政府ノ集権ハ甚ク衰ヘ徳川氏ノ天下ヲ統一スルニ

至ル迄ハ群雄地方ニ割拠シテ恰モ一國內ニ數多ノ小獨立國アリシ  
カ如キ有様ナリレカ徳川氏ノ時代ニ至リテ天下始メテ統一セラレ中  
央集権ノ勢稍々堅キヲ致セルカ而カモ徳川氏ノ時代ニハ尚ホ將軍ノ下  
ニ數多ノ藩主アリ、各藩主ハソノ領内ニ於テハ尚ホ或ル程度ニ於テ  
自由ノ政治ヲナシ居タルナリ  
明治維新ノ后ニ於テモ尚ホ暫ク此状態ニアリシカ明治二年被黜奉還  
及ヒ明治四年ノ廢藩置縣ニヨリテ旧來ノ封建制度ハ全ク打破セラレ  
各藩主ハソノ從來私領ニ居タル土地及ヒ人民ヲ朝廷ニ奉還シテ國家  
ノ直接ノ領土及ヒ臣民トナシ全國ノ土地臣民ハ皆シク國家ノ領土及  
ヒ臣民トシテ中央政府ノ下ニ統括セラルソトナリ始メテ完全ナル  
中央集権ヲ確立スルコトヲ得タリ、列國ノ競爭激シキ今日ノ時代ニ  
於テ吾國ノ諸國カ中央集権ニ傾ケルコトハ素ヨリ当然ナリ  
然レモ中央集権ト云ヒ地方分権ト云フモ畢竟ハタゞ程度ノ問題ナル  
ノニ、如何ニ極端ナル地方分権ト云ヒ全ク中央集権カク又クニ至ルヲ



得入。全ク中央ノ権カキハ國家ノ統一ヲ失ハシムルモノニシテ之  
レ國家ナキニ全シ一方ニ於テハ如何ニ完成ナル中央集権ノ國ト雖モ  
國ノ一切ノ権カヲ中央政府ニ集中シテ全ク地方的権カヲ消滅セシム  
ルヲ得ヘキニアラスシテ國ノ政務ヲ悉ク中央政府ニ於テ処理スルコ  
トハタゞ一市内ヲ以テ一國ヲ成セルカ如キ小國家ニ於テノミ実行ス  
ルヲ得可ク稍々大ナル國家ニ於テハ全ク望ムヘカラサルトコロナリ  
如何ナル中央集権ヲ盛ントラシムルモ稍々大ナル國ニ於テハ中央政  
府ノ外ニ必ス地方官ヲ設ケ而シテ地方官ハ單ニ中央政府ノ指揮  
命令ヲ受ケテ器械的ニ行動スルノミナラス、或ル程度ニ於テハソノ  
獨立ノ意見ヲ以テ地方ノ政務ヲ処理セシムルコトハ又クヘカラサル  
必要ナリ。サレハ今日ノ諸國カ中央集権ニ傾ケリト云フモ之レ唯旧  
時代ニ比<sup>較</sup>テ云フニ止マリ今日ニ於テモ或ル程度ニ於テハ地方分権  
ハ各國ホシク行ハル、所ナリ  
今日ノ諸國ニ於テ行ハル、地方分権ニハ二種ノ形式ヲ區別スルコト

二六〇

ヲ要ス

一ハ之レヲ行政上ノ分権ト云フヲ得ヘク  
一ハ之レヲ自治ニヨル分権ト云フヲ得ヘシ  
行政上ノ分権トハ中央政府ノ下ニ於テ地方官ヲ設ケ而シテ地方官  
ナラシメテ或ル程度ニ於テ獨立ニソノ権限ヲ行使セシムルモノヲ云フ  
ソノ権限ノ範圍高ケレハ高キ程分権ノ程度亦從ツテ大ナリ。我カ國  
ニ於テモ殖民地ノ總督ハソノ委任セラル、権限極メテ高ク即チ此意  
義ニ於テハ分権カ頗ル大ナル程度ニ於テ行ハル、モノナリ、内地ニ  
於ケル地方官ハソノ分権モトヨリ斯ノ如ク大ナラスト雖モ尙ホ一  
切ノコトニ付テ一時中央政府ノ指揮ヲ受ケ器械的ニ如クニ中央政府ノ  
命令ノマ、ニ動クモノニハアラスシテ或ル範圍ニ於テハ自己ノ獨立  
ノ意見ヲ以テ地方政務ヲ処理スルナリ、之ヲ行政上ノ分権ノ实例ナ  
リ  
自治ニヨル分権ハ之レニ反シ國家ノ下ニ於ケル團體ノ獨立ノ存在ヲ

二六一



二六二  
認メソノ団体ヲシテ自己ノ機子ニヨリ自己ノ費用ヲ以テ國家ノ監督  
ノ下ニ獨立ニソノ公共事務ヲ処理セシムルヲ云フ、行政上ノ分扱ハ  
國家ノ行政官ナニヨル分扱ナリ、中央官ナモ地方官ナモ等シク國家  
ノ官ナニシテ只ク國家ノ官ナノ間ニ扱カラ分扱スルニ止マリ自治ニ  
ヨル分扱ハ國家ノ下ニ於ケル別個ノ法人トシテ団体ノ存在ヲ認メソ  
ノ団体ヲシテ行政扱ノ主体カラシムルモノナリ  
ソノ國家ノ下ニ於ケル特別ノ行政扱ノ主体タルコトニ於テハ稍々旧  
封建時代ニ於ケル藩主ニ似タルモノアリト雖モ封建時代ノ藩主ハ一  
個人ニシテ土地及ヒ人民ヲ私領シソノ私領扱ニ基キテ人民ヲ統治シ  
タルモノナルニ反シテ近代ノ公法人ハ地方ノ人民ノ公共団体ニ統治  
ノ扱カラ認ムルモノナリ、藩主ノ如キ一個人カ土地人民ヲ私領シ統  
治ノ權利ヲ有スルニアラスシテ人民ノ公法ノ団体カ國家ノ下ニ統治  
ノ權利ヲ有スルナリ、個人カ統治ノ權利ヲ有スルコトハ藩籍奉還ノ  
旨ニ全ク絶滅シタルモノニシテ今日ハタゞ地方公共団体カ國家ノ承

認ノ下ニ統治ノ權利ヲ有スルアルノミ  
○自治ノ着念

所謂地方分扱ニハ行政上ノ分扱ト自治ニヨル分扱トノ二種ノ形體ナ  
リ而シテソノ所謂自治ニヨル分扱トハ行政ノ一部ニ付テ國家自ラ之  
レヲ行フコトナク國家ノ下ニ於ケル諸種ノ公法人ヲシテ國家ノ監督  
ノ下ニ自己ノ機子ニヨリ自己ノ事務トシテ之レヲ行ハシムルヲ云フ  
モノナルヲハ上述ノ如シ  
併シ所謂自治ナル語ハ必スレモ常ニ斯ノ如キ意味ニノミ用ヒラル、  
ニアラス、其語ノ本來ノ意義ニ付テハ自治ハ寧ろ他ノ意義ヲ有シタ  
ル語ニシテソノ國家ノ下ニ於ケル公法人ノ行政ト云フノ意ニ用ヒラ  
ル、ニ至リタルハソノ意義ノ轉化シタルモノナリ、サレハ正確ニ自  
治ノ意義ヲ解スルハ尙ホ少シク其語ノ本來ノ意義ニ付テ論スルコト  
ヲ要ス

我國ニ於ケル自治ナル語ハ我カ固有ノ語ニハアラスシテ獨乙語ノ



Self-government ヲリ来レルモノナリ、而シテ独乙  
二六四  
諾、コノ諾ハ又英諾ノ Self-government ヲリ来レルナリ、  
ソノ諾ノ本来ノ意義ニ於テハ元來他ヨリ支配セラルヘキ地位ニアル  
モノヤ他ヨリ支配セラレシテ或ル程度ニ於テ自己ノ独立ノ意思ニ  
ヨリテ自己ノ事務ヲ処理スルヲ云フ通俗ノ語ニ於テ寄宿寮ノ自治ト  
云フカ如キモ亦カクノ如キ意味ニ於テアルモノニシテ寄宿寮ノ在舎  
生ハ本来学校ノ舎監ヨリ支配セラルヘキ地位ニアルモ或ル程度ニ於  
テソノ支配ヨリ独立シテ舎在生ノ自ラ選任セル事實ニヨリテソノ共  
全ノ事件ヲ処理スルヲ稱シテ寄宿寮ノ自治ト云フナリ、行政上ノ意  
義ニ於テ自治ト云フモ亦之レト全様ニシテ地方人民ヲシテ或ル程度  
ニ於テ中央政府ノ支配ヨリ独立セシメ人民ノ自ラ選ミタル役負ヲシ  
テ地方公共ノ事務ヲ処理セシムルコトカ所謂自治ノ本来ノ意味ノ存  
スル所ナリ  
コノ意味ニ於ケル自治ハ必スシテ行政ノ範圍ニノ止マルモノニア

ラス、之レヲ立法ニ付テ云フモ地方人民ノ公選シタル国会議員ヲ立  
法ノコトニ参与スルハ又自治ノ最モ大ナル一ノ場合ナリ、歐洲ノ諸  
國ニ於テ刑事裁判ニ于シテ地方人民中ヨリ陪審員ヲ選ミ之レヲシテ  
裁判ニ参与セシムルモ亦自治ノ一適例ト云フヲ得、英國ニ於テ—  
Self-government ト云フハ實ニ此オノ各種ノ制度ヲモ供セ意  
味スルモノニシテ英國ニ於テハ国会ソレ自身ハ實ニ自治ノ最高機ヲ  
ト看做サルナリ、併シ自治制度ノ最モ著シキハ云フ迄モナク行政  
ノ區域ニヤリ  
英國ニ於テハ国会制度ノ發達ト共ニ中ヨリ已ニ地方行政ニ于シテ  
モ自治制度ノ發達ハ頗ル著シク County (州) 及ヒ Parishes (寺区)  
ニ於テ地方人民中ヨリ選ハレタル役員カ中央政府ヨリ独立シテ地方  
行政ノ事務ヲ行ヒ居タリ、コノ中昔以來ノ地方自治ノ組織ハ英國ニ  
於テハ間断ナク發達シテ以テ近世地ニ至レルモノニシテ歐洲諸國ニ  
於ケル地方自治ノ制度ハコノ英國ノ制度カソノ直接又ハ間接ノ模範



トナリタルモノナリ、殊ニ英國ノ自治制度ヲ歐洲大陸ニ紹介シタル  
最モ大ナル功績ハ独乙ノ *Reform Bill* ニ歸スヘキモノニシテソノ影響  
ニ依リテ独逸ニテハオナ九廿紀ノ七八十年代ニ於テソノ政行組織ニ  
重大ノ改革ヲ加ヘタリ、独乙ニ於ケル改革ノ主タル要件ハ地方ノ行  
政ニ于シテ地方人民中ヨリ選ハレタル専任ノ官吏ニアラサル後實ヲ  
シテ之レヲ処理セシメ若クハ之レニ務与セシムルノ制度ヲ採リタル  
コトニアリ  
之レヲ要スルニ此第一ノ意義ニ於ケル自治ハ以テ中央政府ノ任命ニ  
カ、ル専任官吏ノ行政ニ對スルモノニシテ中央政府ノ任命セル官吏  
ニヨラス、地方人民中ヨリ選ハレタル人民ノ代表者ト地方行政ノコ  
トヲ意味スルモノナリ  
併シ自治ナル語ハ更ニ第二ノ意義ニ用ヒラル、ニ至リタリ、此ノ第  
二義ニ於ケル自治ハ即チ前述ノ如ク國家ノ下ニ於ケル公法人ノ行政  
ヲ意味スルモノニシテ即チ以テ國家自身ノ行政ニ對スルモノナリ、

自治ノ語カ如何ニシテ如斯キ意義ノ軌化ヲ法スルニ至リタルカハ主  
トシテ自治ノ着念ニ正確ナル法律上ノ意義ヲ附スルノ必要ニ基クモ  
ナリ、自治ノ本来ノ意義ヨリ云ヘハ自治ハ被治者タル人民ヲシテ  
政治ニ参与セシムルモノナルコトハ右述フルカ如シ、併シ自治ヲ此  
ノ意味ニ用ユマレハ自治ハ單ニ行政上ノ着念タルニ止マリ法律上ノ  
着念タルヲ得ス、何トナレハ被治者タル人民ヲシテ政治ニ参与セ  
シムルコトハ國會制度、陪審制度、地方自治各種ノ場合ニ付テ起  
リ得ヘキコトハ故述セシ如クソノ他中央行政ニ付テモ人民ヲシテ之  
レニ参与セシムル多クノ場合ヲ想像スルヲ得ヘク法律上ノ一定ノ取  
体ヲ有スルモノニアラサレハナリ  
併シ自治制度カ已ニ政治上ノ重要ナル制度トシテ行ハレ之レニ伴フ  
法律上ノ結果ヲ生スル以上ハ法律上ニ於テモ亦正確ナル自治ノ着  
念ヲ定ムルノ必要ナルコトハ勿論ニシテ而シテ法律上ニ於テ自治ノ  
着念ヲ定メントスルニハ自治制度ノ行ハル、各種ノ場合ヲ着察シテ



通常之レニ伴フ法律上ノ特色ヲ取リテソノ着念ヲ定ムルノ基礎トナ  
スノ外ナシ、然ルニ自治制度ノ最モ顯著ナル場合ハ地方行政ニ于テ  
ルモノニシテ而シテ地域行政ニ付テ自治制度ノ行ハル、各種ノ場合  
ヲ着察スル中ハ自治ノ認めラレ、場合ニハ地方人民ハ概テ一ノ共全  
団体ヲ組織シソノ団体カ一ノ权利主体トシテ自ラ財産ヲ有シソノ団  
体ノ財産ニヨリソノ団体ノ事務トシテ地方行政カ処理セラル、モノ  
ナルヲ見ル、法律上ノ自治ノ着念ヲ定ムルニハコノ法律上ノ特色ヲ  
以テソノ着念ノ基礎トナスヲ最モ適当トナスヘク之レニ於テ法律上  
ニ自治ヲ定義シテ

「自治ハ国家ノ下ニ於ケル団体カ自己ノ事務トシテ行政ヲ行フヲ云  
フト

解セラル、ニ至リタルナリ  
以上述フル所ヲ要スルニ今日普通ニ所謂自治ハ二種ノ異ナリタル意  
義ヲ有スルモノニシテ或被治者タル人民カ政治ニ参与スルヲ云ヒ或

ハ国家ノ下ニ於ケル公法人カ自己ノ事務トシテ行政ヲ行フヲ云フ、  
第一ノ意義ニ於テハ自治ハ唯政治上ノ意義ヲ有ハルニ止マリ法律上  
ノ着念ニアラス法律上ノ着念ニ於ケル自治ハ専ラ公法人ノ行政ト云  
フノ意ニ解セラルヘキモノナリ、コノニ意義ハ固ヨリ相于耿シテ發  
達セルモノナリト云ヒ二者必スシモ相一致スルモノニアラス、之レ  
ヲ我カ制度ニ付テ云フモ例ヘハ府縣郡ニ於テハソノ行政ハ大部分ハ  
府縣知事、郡長ノ自ラ処理スル所ニシテ而シテ知事郡長ハ中央政府  
ノ任命スル專任ノ官吏タリ、即チ府縣郡行政ノ一大部分ハ自治ニマ  
ラスニテ專任官吏ノ行政ナリ、換言スレハ第一ノ意義ニ於テハ自治  
ハコノ限度ニ於テハ府縣郡ニハ行ハレ居ラサルモノナレトモ府縣  
知事、郡長ハ府縣郡タル公共団体ノ機子トシテ府縣郡ノ費用ヲ以テ  
ソノ団体ノ事務ヲ行フモノニシテ仮令中央政府ノ任命ニ係ルト云ヒ  
尚ホ団体ノ名ニ於テ団体ノ機子トシテソノ事務ヲ行フナリ  
換言スレハ第二ノ意義ニ於テハ等シク自治タル事ヲ失ハサルモノナ



第一ノ意義ニ於テノ自治ハ又ソノ事務カ國家ノ事務タルカ又ハ法公  
 人ノ事務タルカヲ向ハス尚クモ專任ノ官吏ニアラサル人民又ハ人民  
 ノ代表者ヲシテ之レヲ処理セシムル場合ニ於テハ國ノ行政ニモセヨ  
 公法人ノ行政ニモセヨ第一ノ意義ニ於テハ等シク之レヲ自治行政ト  
 云フナリ、之レヲ現行ノ制度ニ付テ云フモヤ精事務、小学校ノ教育  
 直接國統ノ坐収ホノ事務ハ兼ヨリ國ノ行政事務ナレト國ノ行政官ナ  
 ラシテ之レヲ行ハシムルコトナク之レヲ市町村ニ委任シ市町村ノ官  
 吏ヲシテ之レヲ行ハシム、即チ第一ノ意義ニ於テハ自治行政ト云  
 スルモノナリ

第二ノ意義ニ於ケル自治ハ之レニ反シ專ラ公法人ノ行政ヲ意味シ官  
 吏ニアラサルモノニヨリテ行ハル、モノト臣民公法人ノ事務ニ屬セ  
 スレテ國家ノ事務タルモノハコノ意義ニ於テノ自治行政ニアラス、  
 故ニ例ハハヤ精事務、國稅ノ坐収ノ事務ノ如キハ市町村官吏<sup>員</sup>カ其任

ニ当ルト臣民市町村ノ事務ニハアラスレテ國ノ事務ナルカ故ニコノ  
 意義ニ於テノ自治行政ニハ屬セサルモノナリ

自治ノ二種ノ意義カ必ズ相一致スルモノニアラサルコトハ以上  
 述フルカ如シ、第一ノ意義ニ於テハ自治ハ法律上ノ一定ノ制度ヲ云  
 フモノニアラス、コノ意義ニ於テノ自治ハ單ニ地方行政ニ付テ存ス  
 ルノミナラス中央政府ニ付テモ存シ得ヘク公法人ノ事務ニ付テノミ  
 ナラス、國ノ事務ニ付テモ存シ得ヘク亦キ意義ニ於テハ裁判(司法)  
 ニ付テモ又ハ立法ニ付テモ存シ得ヘキ所ナリ、コノ意義ニ於テノ自  
 治ハ唯國民ノ參政權行使ノ種々ノ場合ヲ俟セ包含スルノ語タルニス  
 キサルナリ、第二ノ意義ニ於ケル自治ハ之レニ反シ法律上ノ一定ノ  
 制限ヲ意味ス、國家ノ下ニ存在スル公法人カ、自己ノ事務ヲ行フコ  
 トカ此意義ニ於ケル自治タルナリ、自治ノ二種ノ意義ハ斯ノ如ク  
 相違セルヲ以テ寧ロ始メヨリ別ノ語ヲ以テ之レヲ云ヒ表ハスヲ適當  
 トナスヘシ、混全ヲ防ク為メニ之レヨリ以テ右ノ講義ニ於テハ自治ノ



二七二  
語ハ概子之レヲ第一ノ意義ノミニ用ヒ而シテ第二ノ意義ニ於ケル自治ハ之レヲ公法人ノ行政又ハ自治団体ノ行政ト云ハント欲ス。行政法ハタ、法律上ノ制度ヲ研究スルヲ目的トシ政策ノ研究ヲ目的トスルモノニアラサルカ故ニ行政法ニ於テ論スヘキ所ハタゞ公法人ノ行政ニ止マル

第一ノ意義ニ於ケル自治ハ政治学又ハ行政学ノ問題トシテハ重要ノ價值ヲ有スルモ行政法ニ於テハ贈ラク之レヲ度外ニ置クヲ得ヘシ、以上述フル所ニヨリテ行政法ノ主体ニハ國家又ハ國家ノ下ニ於ケル公法人即チ自治団体ノ二種ノアルコトヲ知ルヘシ、行政組織トハ國家自身ノ行政機子ノ組織、外尚ホ公法人ノ組織ヲモ俟セ包含スルモノナリ  
先シ公法人ニ付テハ別ニ詳述ヲ要スルモノアルカ故ニ之レヲ本章ニ譲リ(本編第五章)本章ニ於テハ專ラ國ノ行政組織ニ付キテノ論ス、

## 第二節 行政官廳

### 第一項 官廳ノ概念 (Behörde, Authority)

國家行政ハ天皇ノ親シク統攬シ給フ所ナリ、併シ複雑ナル行政事務ハ素ヨリ悉ク君主ノ親裁ヲ經ルヲ得ヘキモノニアラス、君主ノ親裁ニヨリテ行ハルハ只行政中ノ一小部分ニ止マリソノ大部ハ君主ノ下ニ屬スル數多ノ機子ニ委任シテ行ハシメラル、君主ノ下ニ於テ行政事務ノ一部ヲ行フコトヲ委任セラレタル國家ノ機子ハ即チ行政官ナリ、  
行政官ナカ國ノ機子タル地位ニ立ケテ行政事務ノ一部ヲ行フハ常ニ君主ノ委任ニ基クモノナリ、國家ノ機子ニ直接機子ト間接機子トノ區別ヲ得ヘキコトハ國法学又ハ憲法ノ講義ニ於テ聞カレシ所ナルヘシ、直接機子トハ他ノ國家機子ノ委任ニヨリテ其地位ニ付クニアラス一定ノ事實ノ發生ニヨリテ憲法上當然國家機子ノ地位ニツ



キ当然ソノ权限ヲ付有スルモノナリ、立憲君主國ニ付テハハ君主  
ヲ始メトシテ議政議會ハ何レモ國家ノ直接機子ナリ君主ニ付テハ之  
レ元ヨリ言ヲ待タズ、議會モ亦他ノ機子ヨリ委任セラレタルモノ  
权限ヲ得ルニハアラス、國民カ議會ノ議員ヲ推選スルハ決シテ議會  
ニソノ权限ヲ委任スル行為ニアラス、議會ハ選舉ノ事實ニヨリテ憲  
法当然ニハソノ权限ヲ有スルモノナリ、行政官ナハ反之凡ヘテ君主  
ノ委任ニヨリテ國家機子ノ地位ニ付テソノ权限ヲ取得スルモノナリ  
凡テノ官ナノ权限ハ皆直接又ハ間接ニ君主ヨリ委任セラレ君主ニソ  
ノ淵源ヲ有スルモノナリ、コレ嘗ニ行政官ナニ付テノミナラス裁判  
所ニ付テモ同様ニシテ裁判所モ亦君主ヨリ裁判權ヲ委任セラレ、モ  
ノニ外ナラス、行政權モ皆元來ハ君主ノ大權ニシテコノ君主ノ大權  
カ或ル範圍ニ於テ官ナニ委任セラレ官ナハ之レニヨリテ君主ノ名ニ  
於テ之レヲ行使スルノ權ヲ得ルモノナリ、換言スレハ官ナハ凡テ國  
家ノ間接機子タルモノナリ、官ナハ直接ニハ只君主ノ機子ナリ、間

機子タルナリ

官ナハ國家ノ機子ナルカ故ニ官ナタル地位ニ於テハ人格ヲ有スルモ  
ノニアラス、官ナノ地位ニアルモノハ元ヨリ個人トシテハ人格者ナ  
リト雖臣官ナタルノ地位ニ於テハ只國家ノ權利ヲ行フニ止マリ自ら  
權利主体タルモノニアラス官ナノ行為ニアラハル、所ノモノハ常ニ  
國家ノ權利ニシテ之レヲ行フモノハ、個人的ノ權利ニハアラスソノ  
权限ハ專ラ國家ノ目的ノ為メニ存スルモノニシテ官ナノ地位ニ当ル  
モノ、個人的ノ目的ノ為メニスルモノニアラサルナリ  
此故ニ官ナノ地位ニ当ルモノハ國家ノ機子タル資格ト國家ニ對スル  
權利義務ノ主体タル資格トノ二方面ヲ有ス、官ナノ着念ト官吏ノ着  
念トノ異ナル所ハコノ二ノ異ナルニヨリテ生スルナリ、ソノ國家ニ  
對シテ服從義務ヲ有シ俸給權ソノ他ノ權利ヲ有スルモノ、主体トシ  
テハ一ノ官吏タリ、外部ニ向ツテ國家ヲ代表シテ國家ノ權利ヲ行使  
スルノ資格ニ於テハ官ナタルナリ



官ナハ國家事務ノ限ラレタル一部ニ付テ決定権ヲ有スル國政機子ナ  
リ換言スレバ官ナハ一定ノ範圍ニ於テ外部ニ向リテ國家ヲ代表シ國  
家ノ意思ヲ決定シ表示スルノ權ヲ有スルモノナリ、此点ニ於テ官ナ  
ハ國家ノ意思ヲ決定スルノ權ナキ機子ト區別スルコトヲ要スルモノ  
ナリ、ゴノ点ニ於テ官ナハ國家ノ意思ヲ決定スルノ權ナキ機子ト區  
別スルコトヲ要シ、君主ノ下ニ屬シ行政事務ヲ行フノ機子ハ悉ク官  
ナナルニハアラス、行政機子ノ一大部命ハ凡バテ國家ノ意思ヲ決定  
スルノ權ナキ、單ニ内部ニ於テソノ意思決定ニ至ル迄ソノ準備ヲナ  
シ又ハソノ他ノ事實上ノ行動ヲナスノ任務ヲ有スルニスキサルモノ  
ナリ、之レオノ事實上ノ行動ヲ任務トスルモノ、法律機子タル他ノ  
地位ヲ有スルコトニ於テハ官ナト全様ニシテ等シク國家事務ヲ担任  
スルモノナリト雖モ國家ヲ代表シテ國家ノ意思ヲ決定スルノ權ナキ  
モノナルヲ以テ之レヲ官ナト云フコトナシ、例ハハ各省大臣ハ官ナ  
ナレバ次官、局長以下ノ官吏ハ大臣ノ代貸トシテソノ權限ヲ行フ場

合ノ外ハ只大臣ノ輔佐機子タルニ止マリ官ナタルモノニアラス、教  
官、技師官、如キ單ニ學術、技術上ノ任務ヲ有スルニ止マルモノモ  
亦官ナニハアラス

要スルニ官ナノ着念ハ法律的行爲ニヨリテ國家ヲ代表シ得ルコトヲ  
ソノ要素トナスモノニシテ單ニ事實上ノ行動ヲナスニ止マルモノハ  
ソノ着念ニ屬セス、事實上ノ行動ハ常ニソノ人ノ行動ニシテ國家ノ  
行爲ニハアラス、國家ハ只之レヲナスコトヲ命スルニ止マリ其事務  
ハ國ヨリ國家ノ事務ナレトモソノ行爲自身ハ何人ニ屬スルモノナリ  
併シ官ナノ着念ハ必ズモ命令ヲ行フコトヲソノ要件トナスモノ  
ニアラス、單ニ私法的行爲ヲナスニ止マルモノト雖モ必ズシモ官ナ  
タルコトヲ妨ケス  
官ナノ着念ハ法律上ノ決定権ヲルコトヲソノ要素トナシ從ツテ嚴格  
ニ去フハ例ハハ各省ニ於テハ只大臣ノミオ官ナノ地位ヲ有シ次官以  
下ハソノ補助機子タルニスキサルコトハ上述ノ如キモ通信ノ用語ニ



於テハ單ニ法律上ノ決定權ヲ有スルモノ、ミナラスソノ補助機子ノ  
全体ヲモ併セテ之レヲ官ナト云フテ通常トス、省ト云ヒテト云ヒ院  
ト云ヒ局ト云フノ莫ハ凡ヘテ官ナ及ヒソノ補助機子ノ全体ヲ併セテ  
之レヲ一體トシテ指示スルノ名称ニ外ナラス、蓋シ法律上ノ決定權  
ハ只一人ニ屬スト、且ヒソノ權限ノ全部ヲ一人カ処理スルニハアラ  
ス、ソノ凡テノ補助機子ハ皆ソノ事務ヲ補助スルカ爲メニ有スルモ  
ノニシテ官ナノ權限ハコノ全體ニヨリテ行ハルナリ、サレハコノ  
全體ノ組織ヲ以テ一體ト看做シテ之ヲ以テ其權限ヲ委任セラレタル  
機子即チ官ナナリトナスモ必スシモ不当ナリト云フヘカラス、タビ  
法律上ノ形式ヨリ云ヘハソノ權限ノ全部ニ付テソノ最後ノ決定權ハ  
只長官一人ニ存スルモノニシテ補助官ノ意見ハ直接ニ法律上ノ效力  
ヲ有スルモノニアラサルノミ

二七八

各省大臣會計検査院行政裁判所ハ天皇ニ直隷スル官ナリ、府県知  
事其他各種ノ地方官ナハ何レモ間接ニ君主ニ隷屬スルノ官ナリ、  
何レニテモソノ君主ノ下ニ屬シテ直接間接ニ君主ノ監督ヲ受クル  
モノナルコトハ凡テノ官ナニ通スルニ必然ノ要素ナリ此点ニ於テモ  
官ナハ議會トソノ位置ヲ異ニス、凡ヘテノ官ナハ行政官ナリミナラ  
ス、裁判所モ亦此点ニ於テ公衆ナリ、裁判官ハ裁判權ノ行使ニ付テ  
ハ職務上ノ独立ヲ有シ何人ノ指揮ヲ受クルコトナシト、且ヒソノ職  
務上ノ功課勤怠、其進退ホニ付テハホシク君主又ハ上级官ナノ監  
督ヲ受クルモノナリ、一敏行政官ナハ只ニ之ホノ点ニ付テノミナラ  
スソノ權限ノ行使ニ付テモ亦君主若シクハ上级官ナノ監督ノ下ニ  
屬スルモノナリ

二七九

要之行政官ナトハ君主ノ下ニ隷屬シテ行政事務ノ一部ニ付キ國家ノ  
意思ヲ決定スルノ權ヲ委任セラレタル國家ノ機子ナリ



第二項 官廳ノ権限

(Kompetenz. Zuständigkeit)

凡ハテ官ナハ國家ノ事務ノ一部ニ付テ國家ヲ代表シ國家ノ意思ヲ決定スルノ權能ヲ有スルモノナリ、官ナカ國家ヲ代表シ國家ノ意思ヲ決定シ得ヘキ範圍ヲ稱シテ官ナノ權限ト云フ

官ナノ權限ハソノ一般ノ權限ト仰々ノ行為ニ于スル權限ト有ス、官ナノ一般ノ權限ノ權限ハ官制ニヨリテ定マリテ三方面ニ於テソノ權限ヲ有ス、ソノ權限ハ

第一ニハ事務ノ性質ニ于スルモノニシテ凡テ官ナハ皆一定ノ種類ノ事務ニ付テソノ權限ヲ有ト、裁判所構成法ニ事物ニ于スル管轄ト云ヒ居ルハ即チ事務ノ種類ニ基ク權限ノ一般ノ權限ヲ意味スルモノナリ、行政官ナト司法官ナトノ區別ハ此事務ノ種類ニ基ク權限

ノ區別ヨリ生スル區別ナリ、行政官ナハ更ニ行政各部ノ區別ニ於テ救省ニ分タル、各省大臣ハ各一定ノ種類ノ事務ニ付テソノ權限ヲ有ス、官ナノ一般ノ權限ノ

第二ノ權限ハ土地ノ區域ニ于スルモノナリ、之レヲ官ナノ管轄區域ト稱ス、官ナノ管轄區域ノ一地方ノミニ限ラル、モノ之レヲ地方官ナト云ヒソノ管轄區域ノ普ク全國ニ及ヘルモノハ之レヲ中央官ナト云フ、ソノ

第三ノ權限ハソノ權カノ及フヘキ人ニヨリテ限ラル、モノナリ、例ハハ大學校長ハ大學職責及ヒ學生ニ對シテノミ國權ヲ行フノ權ヲ有シ軍隊ノ司令官ハソノ監督スル軍隊ニ對シテノミ權カヲ行フヲ得ルカ如シ

此三種ノ方面中土地ニ于スル權限ト人ニ于スル權限トハ必スシモ凡テ官ナニ通スル權限ノ權限ニハアラス、或ハ土地ニ付テノ權限ヲ有スルニ止マリ人ニ付テノ權限ハ只タ土地ノ管轄ヨリ生スル間接ノ權



果ニスキヤルモノアリ、地方官ノ权限ハ概テコノ所ニ屬ス、或ハ之レニ反シ土地ニ于スル权限ノ走メナキ所アリノ故カ、及テヘキ人ニヨリテソノ权限ヲ限ラル、モノアリ、大學院長ノ如キハソノ一例ナリ

官ノ权限ハ以上ノ如キ一般ノ限界ヲ有スルノ外其ノ限界内ニ於テ國權ヲ行使スルニ付テモ亦各種ノ法律命令ニヨリテソノ限界ヲ限ラル、モノニシテ一般权限内ニ於テモ官ノ自由ノ意見ニヨリテ適意ニ之レヲ処理スルヲ得ヘキモノニアラス、如斯キ何々ノ行為ニ付テノ限界ヲ超過スル場合ニ於テモ官ハ元ヨリソノ权限ヲ越越セルモノニシテ其ノ越越ノ行為タルコトヲ失ハス、併シ官ノ行為ハ國家ノ行為タル故カ、有スルヤ否ヤニ付テハ官アリソノ一般权限ヲ越越タル場合ト一般权限ノ範圍内ニ於テ何々ノ行為ニ付テソノ权限ヲ越越スルニスキヤル場合トニヨリテ之レヲ區別スルコトヲ要ス、官ノ行為カソノ一般根拠ヲ越越スル場合ニ於テハソノ行為ハ絶対ニ

無効ニシテ全ク國家ノ行為タルノ故カ、有スルコトヲ得ス、官ハタゞ一般权限ノ範圍ニ於テノ國家ノ概テトシテ國家ヲ代表スルヲ得ヘク一般权限内ニ於テハ最早國家ノ概テタルモノニアラス、サレハ一般权限外ノ行為ハ仮令公ノ資格ニ於テ之レヲ行フ場合ト雖モ尚ホ一私人ノ行為ト異ナル所ナク全ク國家ノ行為タル故カ、生スルヲ得サルモノナリ、例ハ八警察官カ租稅ヲ賦課シ裁判官カ法規命令ヲ發布シ内務大臣カ軍人ニ命令スルコトアルモノ、全ク無効ナルコトハ古クテ待タス

反之一般权限内ノ行為ナルナラハ何々ノ特定ノ行為ニ付テソノ权限ヲ越越タルニ止マル場合ニ於テハ当然ニハ無効ナルモノニアラス、例ハ八警察官ナカ特定ノ營業ヲ禁止スルノ故ナキニ拘ハラズ營業ノ禁止ヲ年シ租稅官ナカ法律ノ命令以上ノ租稅ヲ賦課シ法律ノ規定ニ反シテ租稅ヲ免除スルカ如キ何レモ一般权限内ノ行為ニシテ而カモ法律ニ違反セリ、尙ヘテ此レオノ場合ニ於テハ官ノ解散權ノ範圍



國ニ屬スルモノニシテ假令實際ニ权限ヲ超過スルコトアルモ尚ホ官  
ナノ解釈カ一途ハ道法ナルモノト推測セラルソノ推測ノ取除カル、  
マテハ有数ナル國家ノ行為タルコトヲ失ハサルモノナリ、蓋シ官ナ  
ハソノ一般权限内ニ於テハ自己ノ解釈ニヨリテ法律命令ヲ運用シ実  
行スルノ故ヲ有スルモノナリ、ソノ解釈ノ果シテ道法ナルヤ否ヤハ  
一層強カナル解釈ヲ有スルモノナルカ否ニ之レヲ決定シテソノ行  
為ヲ取消スマテハソノ解釈ハ道法ナルモノト推測セサルヘカラス、  
官ナノ一般权限内ノ行為カ實際ニハ違法ナルニカ、ハラス、ソノ效  
カヲ有スル所以ハコノ理由ニアルナリ  
官ナカ其权限内ニ於テ為シタル行為ハ官ナノ地位ニ當レル何人ノ行  
為ニハアラスシテ國家ノ行為トシテ、故カヲ有スルモノナルカ故ニ  
官ナノ地位ニ當レルモノカ假令更迭スルモノノ行為ノ行効カハ之レ  
カ為メニ變更ヲ受ケルコトナシ、之レト全シク又官ナノ权限カ變更  
セラレ又ハ官ナカ全ク廢止セラレ、コトアルモ其以故ニ官ナノ為シ

二八四

タル行為ハ尚ホ國家ノ行為トシテ效カヲ繼續スルモノナリ、例ハ  
旧太政官時代ニ於テ太政大臣ノ名ヲ以テ發布セラレタル尋クノ法令  
ハ太政官廢止後ノ今日ニ於テモ尚ホソノ效カヲ有スルカ如シ、府県  
其他ノ地方行政区劃ニ變更アリタル場合ニ於テモ又之レト全シク例  
ハハ甲県ノ一部カ乙県ニ併合セラレタル場合ニ於テモソノ併合故ニ  
甲県知事ノシタル行政行為ハソノ乙県ニ併合セラレタル後ニ於テ  
モ特別ノ法令ニヨリテ無効トセラル、カ又ハ乙県ノ県令ト抵触スル  
カ為メニ無効トナル場合ノ外ハ尚ホ引續キ效カヲ有スルモノナリ  
官ナノ权限ハ官ナノ地位ニ當レル何人ノ權利ニアラサルコトハ女ヲ  
ヲ待タズ、何人ノ權利ハ原則トシテ任意ニ之レヲ放棄シ得ヘキニ反  
シテ官ナノ权限ハ官ナノ任意ノ放棄ヲ許サズ、官ナハ其权限ヲ行使  
スルノ权限ヲ有スルト決ニ之レヲ行使スルノ義務ヲ有スルモノナリ  
ソノ義務タル方面ヨリ見テ官ナノ权限ハ又之レヲ職務ト云フ、官ナ  
ノ权限ハ又必スシモ命令權ノ行使タルコトヲ要セサルコトハ前述セ

二八五



ニハ六  
シ如シト雖長考クノ場合ニ於テハ官ナハ國家ノ名ニ於テ國家ノ命令  
ノ行使スルノ權ヲ有ス、官ナノ權限カ命令ノ行使タル場合ニ於  
テハソノ命令ノ權タルノ側ヨリ見テ之レヲ職權ト云フ、權限ト云ヒ職  
務ト云ヒ職權ト云フハ何レモ全一事物ニ付テ着察ノ方面ヲ異ニスル  
ハスキヤルモノナリ

### 第三項 官廳ノ組織

行政官ナハ或ハ單獨制ナルモノアリ、或ハ合議制ナルモノアリ、單  
獨制ノ官ナトソノ一人ノ意思カ直チニ國家ノ意思タル效力ヲ有スルモ  
ノ云ヒ合議制ノ官ナトハ多數人ノ意思カ或ハ法律ノ手續ニヨリテ  
統一セラレソノ統一セラレタル意思カ國家ノ意思タル效力ヲ有スル  
モノヲ云フ、其之レヲ統一スルノ手續ハ通常ハ多數決ニヨル  
行政官ナハ單獨制ヲ以テ通常トス、單獨制ノ官ナニ於テモソノ權限

ヲ補助スル為メニハ多數ノ補助機ヲ有ルヲ通常トナセトモ補助機ヲ  
ハタシソノ意思ノ決定ヲ準備スルニ止マリ法律上ノ決定ニ務ムス  
ルノ權ヲ有セズ法律上ハ專ラ一人ノ意思ヲ以テ國家意思ヲ決定スル  
ナリ、合議制ニ於テハ之レニ反シテ多數人ノ意思カ等レテ法律上ニ  
國家意思ヲ決定スルノ分子トナルモノナリ、行政官ナ中ニテ合議組  
織ヲナスモノハ行政大判所、會計検査院ノ如キモノ事務ノ性質カ司  
法大判ニ類シ專ラ公平ヲ重ニスルモノニ限ル、一般ノ行政官ナハ責  
任ノ所在ヲ明カニシ事務ノ統一ヲ保チ官ノ秘密ヲ維持シ及ヒ機ニ恣  
レテ迅速ノ処置ヲナスノ必要ニ基キテ一般ニ單獨制ノ組織ヲナス

### 第四項 官制

官ナノ組織及ヒソノ一般根拠ヲ定ムル規定ヲ官制ト云フ、司法大判  
所ノ組織權限ハ法律カ以テ定ムルヲ要スルコト由憲法上ノ要件タル



ニ反シテ行政官ナリ組織権限ヲ定ムルノ权ハ原則トシテ君主ノ大权ニ属シ又行政裁判所及ヒ会計検査院ニ付テノミハ憲法上法律ヲ以テ定ムルコトヲ必要トス、蓋シ君主ハ行政权ノ中枢ナルヲ以テ行政权ノ分配モ君主ノ大权ニ属スルコトハソノ当然ノ性質タルナリ  
官制ヲ定ムルノ权ハ如斯ク君主ノ大权ニ属スト虽モ之レ決シテ官制ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得スト云フニハアラス、從來普通ニ行ハルハ學說ニヨレハ憲法上君主ノ大权ニ属スルモノトシテ列記セラレタル事項ハ大权ニノミ專屬スルモノニシテ法律ヲ以テ之レヲ規定スルコトヲ得ス、君主ノ大权ト立法权トハ相對立シテ互ニ侵スヲ得サルモノトナスノ說アリト虽モ十分ノ根據アルノ說ト云フヲ得ス、  
憲法カ君主ノ大权ニ属スルモノトシテ規定セルモノハ殺テ大权ニ属スルモノトシテ事項ヲ列記シタルニアラスレテ只ソノ主ナルモノヲ例示スルニ止マル、君主ノ大权ハ広ク國家ノ統治权ノ全般ニ亘リテ及ボサレル所ナク單ニ憲法列記ノ數個ノ事件ニノミ止マルモノニアラス

殊ニ立法权モ亦君主ノ大权ノ一部ニ外ナラス、立法ハ君主ノ裁可ニヨリテ成立スルモノニシテ而シテ法律ノ裁可カ君主ノ大权ノ一ナルコトハ固ヨリ云フヲ得タス、サレハ立法权ト君主ノ大权トヲ以テ相對立スル對ホ之モノトナシ相侵カスヲ得サルモノトナスハソノ根據ニ於テ誤マレルモノナリ、官制大权カ君主ノ大权ニ属スト云フハタゞ必スシモ法律ヲ以テスルヲ要セスト云フニ止マリ法律ヲ以テ定ムルヲ得スト云フノ意ニアラサルナリ、假令法律ヲ以テ官制ヲ定ムルモ亦等シク君主カ之レヲ定ムルモノニシテ之レヲ以テ憲法ニ牴觸スルモノト云フハカラサルハ勿論ナリ  
君主ノ官制大权ハ法律ヲ以テ直接ニ官制ヲ定ムル場合ノ外尙ホ間接ニ法律ノ規定ニヨリテ制限ヲ受クルコトアリ、就中自治団体ノ組織ヲ定ムル法律ニ於テ國ノ行政官ナヲ以テ今時ニ自治団体ノ機子トナス場合ハソノ最モ著シキモノナリ、例ヘハ府県制ニ於テハ府県知事及ヒ府県官吏ヲ以テ府県ノ機子トナシ郡制ニ於テハ郡長及ヒ郡官吏



ヲ以テ全時ニ郡ノ概ヲトナセリ、之オノ場合ニ於テ法律ノ主義トナ  
ス所ハ府県郡ホニ於ケル國ノ最高地方官ナリ以テ全時ニ自治團體ノ  
概ヲラシメタルモノニシテ此点ニ付テハ最早勅令ヲ以テ之レヲ更  
更スルコトヲ得ス、ソノ限度ニ於テハ官制大权ハ法律ニヨリテ制限  
セラレタルモノナリ

然レモ法律ハ行政官ナニ在ル权限ヲ委任スル凡テノ場合ニ於テ法律  
カ官制大权ヲ制限スルモノト認ムヘカラス、大勢救ノ場合ニ於テハ  
法律カ以テ特定ノ官ナニ委任スルハ官制大权ヲ制限スルノ主意ニ  
アラズモテタツソノ種類ノ事項ニ付テ官制ノ定ムル所ニヨリ一般  
限ヲ有スル官ナニソノ权限ヲ委任セントスルノ主意ニ外ナラス、例  
ハハ法律カ文部大臣ニ或ル权限ヲ与ヘタリトセハ法律ノ意味スル所  
ハタ、教育行政ニ于テ最高官ナカソノ权限ヲ有スヘシトナスニ止  
マリ必ズモ文部大臣ト云フ名称ノ官ナタルヲ要件トナスニアラス  
サレハ勅令ニヨリテ文部大臣ヲ廢シテ之レヲ内務大臣ノ权限ニ合ス

二九〇

ルモ敢テ法律ニ違反スルモノニアラス、ソノ法律ニヨリテ文部大臣  
ニ与ヘラレタル权限ハ官制ノ改正ニヨリテ当然内務大臣ニ歸スルナ  
リ  
要スルニ官制大权ハ法律ノ規定ニヨリテ如何程ニマテ制限ヲ受クル  
カハ法律ノ意思ノ何レニアルカニヨリテ之レヲ定ムルヲ要スルナリ  
官制大权ハ法律ニヨリテ以上ノ如キ制限ヲ受クルノ外尙ホ予美ニヨ  
リテ間接ノ制限ヲ受ク元ヨリ理論上ハ予美ニ于テ係ナク勅令ヲ以テ自  
由ニ官制ヲ定ムルヲ得ヘシト虽モ若シ予美ニシテ成立セザルトキハ  
仮令官制ヲ定ムルモ之レヲ実行スルニ由ナク官制ハ單ニ実行ナキ空  
文ニ止マルヘケレハナリ、憲法ニハ憲法上ノ大权ニ基ク既定ノ歳費ハ  
政府ノ同意ナクシテ議會ニ於テ歳費カ之レヲ廢除削減スルヲ得サ  
ルコトヲ規定スト虽モソノ所謂既定ノ歳費トハ故年度ノ予美ニヨリ  
テ已ニ議會ノ投票ヲ經タル金額ヲ云フモノニシテ新ナル官制ヲ定メ  
タルニヨリテ新ナル支出ヲ要スル場合ニ於テハ議會ハ之レニヨリテ

二九一



拘束セラルルコトナク政府ノ全意ナクシテ之レヲ廢除削減スルヲ得  
ヘシサレハ新ナル官制ハ常ニ手兼ト相伴ワテソノ定行ヲ期スルコト  
ヲ得ルナリ

官制ハ法規ノ性質ヲ有スルヤ否ヤノ問題ニ付キテハ其官制ニヨリテ  
定メタル官ナカ人民ニ対シテ國權ヲ行使スルノ職權アル官ナナリヤ  
否ヤニヨリテ異ナリ人民ニ対シテ國權ヲ行使スル官ナノ組織權限ヲ  
定ムルノ規定ニ依リテ人民ニ対シテ一定ノ範圍ニ於テソノ官ナノ命令  
ニ服従スルノ義務ヲ負ハシムルモノニシテスナハテ國家ト人民トノ  
間ノ法律關係ヲ定ムルモノナリ、從ツテ法律ノ性質ヲ有ス、之レニ  
反シ官ナノ補助機子ノ如ク人民ニ対シテ國權ヲ行使スルノ職權ヲ有  
セサルモノニテスル規定ハ人民ニ対シテ法律上ノ關係ヲ定ムルモノ  
ニアラズ、單ニ行政組織ノ内部ニ效力ヲ有スルモノタルニ止マリ從  
ツテ法規ノ性質ヲ有セス、單純ナル所謂行政規則ニスキサルモノナ  
リトナス

### 第五項 官廳ノ代理

民法上ノ代理ニ於ケルカ如キ法律ヲ依ル官ナト官ナノ補助機子トノ  
間ニ於テモ亦之レヲ認ムルコトヲ得之レヲ官ナノ代理ト云フ、官ナ  
ノ補助機子ノ地位ニ當レルモノカ一時ソノ官ナノ名ニ於テソノ權限  
ノ全部又ハ一部ヲ行ヒ而シテソノ行為カ恰モ官ナノ自ラナシタル行  
為ト全シテ國家ノ行政タルノ效力ヲ有スルヲ稱フ云フナリ、官ナノ  
補助機子モ官ナヲ代理シ得ルコトハ或ハ特別ノ明文ヲ以テ定メラル  
ハコトナリト雖モ特別ノ明文アラザル場合ニ於テモ特ニ反對ノ規定  
アルカ又ハ反對ノ意思ヲ推測シ得ヘキ場合ノ外ハ官ナハ臨時ソノ補  
助官ヲシテソノ權限ノ一部ヲ代理セシムルヲ得ヘキモノト解スルヲ  
正当トナス、法カ數多ノ補助官ヲ設ケテ官ナニ附屬セシムルヲ以テ  
ソノ權限ノ全部ヲ一人ニテ処理スルコトヲ必要トセサルノ主意ヲ察  
スルニ足ルヘケレハナリ、故ニ例ハ外次官、局長、書記官又ハ秘書



官ホカ大臣ノ命ニヨリ大臣ノ权限ノ一部ヲ代理スルコトハ法ノ特別ノ明文ヲ待タスレテ当然ナシ得ヘキ所ナリ、之ガノ場合ニ於テハソノ行為ハ官ナ自身ノナルタルト全一ノ効力ヲ有スルモノニシテソノ行為ニ付テハ官ナ自ラソノ責任ニ任スルモノナリ

上ニ述マル場合ハ官ナ自身ノ任意ニソノ权限ノ一部ヲ部下ノ官吏ニ委任シテ之レヲ代理セシムルノ場合ナリ、コノ場合ノ外法ノ特別ノ明文ニヨリテ官ナノ权限ノ全部ニ付テノ代理ヲ認メラル、コトナリソノ場合ニ更ニ二種アリ

一ハ一定ノ法律事實ノ發生ニヨリテ法律上当然ニ代理ヲ生ズル場合ニシテ

一ハ監督官ナ(上級官ナ)ノ特別ノ委任ニヨリテ代理ヲ生ズル場合ナリ

地方官制中ニテ知事事故アル中ハ内務部長カ知事ノ職務ヲ代理スト云ヘルハ故ノ場合ニ該當シ知事及ヒ内務部長カ共ニ事故アルトナハ

内務大臣カ他ノ事務官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシムト云ヘルハ右ノ場合ノ例ナリソノ他各省官制規則ニ於テ各級大臣カ事故アルトキハ閣議ニ列シ詔勅ニ副署シ省令ヲ発スルノ外ハ次官カソノ職務ヲ代理スト云ヘルモ亦故ノ場合ノ例ナリ、凡ヘテ之レホノ場合ハ官ナ自身ノ委任ニ基クテ代理ニハアラス、官ナカソノ職務ヲ行フ能ハサル故障アルニヨリ或ハ直接ニ法令ニヨリ或ハ監督官ナ或若クハ君主ノ委任ニヨリテ代理ヲ生ズルモノナリ、之レホノ場合ニ於テハソノ权限ヲ行使スルノ權ハ一時全ク代理者ニ歸スルモノニシテ代理セラル、官ナハ之レヲ指揮監督スルノ權モナク從ツテ又ソノ行為ニ就テ責任ヲ負ハス、ソノ責任ハ專ラ代理者ニ歸スルナリ

第六項 官廳ノ権限ノ委任

代理ヲ生ズル場合ノ外官ナハ自己ノ意思ニヨリテソノ权限ノ一



部ニ下級官ナニ委任スルコトヲ許サル、場合アリ、官ナノ权限ノ委任ハ官ナカ部下ノ官吏ニソノ权限ノ一部ヲ代理セシムル場合トハ異ナリ下級官ナニソノ权限ノ一部ヲ移轉シ附与スルモノニシテ只法ノ特別ノ規定ニヨリテ許サレタル場合ニ限リ之ヲナスコトヲ得、凡ソ官ナノ权限ハ法令ニヨリテ一定セラル、モノニシテ官ナカ自ラ任意ニ其权限ノ一部ヲ他ノ官ナニ移轉スルヲ得ヘキモノニアラザルハ勿論也、只法ニ特別ノ場合ニ於テ之ヲ許セルコトアリ、地方官制ニ知事ハ其权限ニ属スル事務ノ一部ヲ郡長島司、又ハ市長ニ委任スルコトヲ得ト規定セルカ如キハ即チ斯ノ如キ特別ノ規定アル一例ナリ、斯ノ如キ場合ニ於テハソノ委任ヲ受ケタル官ナハソノ委任ヲシタル官ナヲ代理スルモノニハアラスレテ上级官ナノ权限ノ一部ヲ自己ノ权限ニ移サレテ自己ノ名ニ於テ之ヲ行フノ權ヲ取得スルモノタルナリ

第七項 上级官廳ト下級官廳トノ關係

監督  
指揮

行政官ナニハ上级官ナト下級官ナトノ區別アリ、内閣總理大臣及ヒ各省大臣ハ天皇ノ下ニ於ケル最上级ノ官ナニシテ各ソノ下ニ属スル下級官ナヲ有ス、各省所属ノ官ナハ又ソレ自身上下ノ階級ヲナス、内閣及ヒ各省ノ外ニ行政裁判所及ヒ会計検査院ハ天皇ニ直隸シテ独立ノ地位ヲ有ス

上级官ナハ一般ニ云ハハ下級官ナニ對シテ指揮監督ノ權ヲ有ス、指揮ノ權トハ下級官ナノ权限ニ於テ之レヲ指揮監督スルカ為メニ命令スルノ權ヲ云ヒ監督ノ權トハ下級官ナノ权限ノ行使ヲシテ誤リナカラシムル為メニ事後ニ於テ之レヲ取消シ又ハソノ他ノ地ノ処置ヲナスノ權ヲ云フ、下級官ナノ权限ヲ指揮スルカ為メニ發スル命令ハ之レヲ訓令ト云フ

訓令ハ或ハ一般的法則ヲ定ムルモノナルコトアリ、或ハ各個ノ事件ニ付テ發セラル、コトアリ、或ハ上级官ナノ職權ニヨリテ發セラル、コトアリ、或ハ下級官ナノ伺ニ對シテ之ニ答フルカタメニ發セラ



ルコトアリ、ソノ下級官ナノ間ニ対シテ發スルモノハ通常之ヲ指  
令ト云フ、何レノ場合ニ於テモ訓令ハ法規ノ性質ヲ有スルモノニア  
ラスレテ行政機手ノ内部ニソノ效力ヲ有スルニ止マル、法規ハ官  
ナ反ヒ一般人民ノ双方ニ対シテホシク其效力ヲ有スルモノニシテ一  
般官ナカ之レニ拘束セラル、ト等シク國民モ亦ソノ拘束ヲ受クルモ  
ノナリ訓令ハコレニ反シ單ニソノ訓令ヲ受ケタル下級官ガ拘束ス  
ルニ止マリ一般人民ニ対シテソノ效力ヲ有スルモノニアラス、訓令  
ハ或ハ法規命令ト全シク官報ニヨリテ公布セラル、又アリト虽氏ソ  
ノ公布ハタビ下級官ナニ通告スルカタメノ一方式タルニ止マリ之レ  
カタメニソノ效力ヲ影響ヲ及ホスコトナシ  
訓令ハソノ官報ニヨリテ公布セラル、ト局面ニヨリテ下級官ナニ通  
告セラル、ト又ハ口頭ヲ以テ訓示セラル、トヲ向ハスソノ效力ニ於  
テハオシク又下級官ナヲ拘束スルニ止マル、從ツテ又官ナカ訓令ニ  
違反シテ行政行為ヲナスコトアルモ一般人民ハソノ違法ナルコトヲ

主張スルコトヲ得ス、訓令ノ違反ハ行政訴訟提起ノ理由タルコトヲ  
得サルモノナリ  
上級官ナハ又下級官ナニ対シテ監督権ヲ有ス、監督権ノ最も重ナル  
結果ハ下級官ナノナシタル行政行為ハ法規ニ違反シ又ハ公益ヲ害ス  
ル場合ニ於テ上級官ナカ之レヲ取消スヲ得ヘキコトニアリ  
取消権ノ範圍及ヒ效力ニ付テハ曾テ述ヘタル如シ、法令ハ一般ニ上  
級官ナカ下級官ナノ違法又ハ不当ナル行為ヲ無条件ニ取消シ得ヘキ  
コトヲ規定スト虽氏之ハ只一般原則ノ規定タルニ止マリ必スシモ絶  
對ニ無条件ニ取消権ヲ有スルモノニアラサルナリ、監督権ノ他ノ一  
ノ結果ハ下級官ナ相互ノ間ニ制限ノ争アル場合ニ於テ之レヲ裁決ス  
ルノ权ナリ、官ナ相互ノ間ノ制限ノ争ヒハ互ニ系統ヲ異ニスルニ種  
ノ官ナ相互ノ間ニ起ルコトアリ、ソノ最も著シキ場合ハ司法裁判所  
ト行政官ナノ間ニ起ル制限ノ争ナリ、コノ場合ニ於テハソノ争ヒ  
ヲ決定スルカタメニハ特別ノ手続ヲ要ス、所謂制限争議ハ此争ヒヲ



官  
官

決定スルノ手續ナリ、之レニ及シテノ争ヒカ全一系統ニ属スル官ナ  
相互ノ間ニ生スル場合ニ於テハ如斯キ特別ノ手續ヲ必要トセスソノ  
争ヲ生セル双方ノ官ナニ対スル共通ノ上级官ナニ於テ之レヲ決定シ  
其決定カ兩下級官ナヲ共ニ拘束スルニヨリテ之レヲ決定スルコトヲ  
得ヘシ、如斯キ全一系統ノ官ナ相互ノ間ニ於ケル权限ノ争ハ之レヲ  
本来ノ权限争ト區別スルカ為メニ通常争辨ト云フ  
以上ノ外ニ尚ホ下級官ナノ行為ニ対シテ許願ヲ提起スルモノアル場  
合ニ於テソノ許願ヲ裁決スルコトモ亦上级官ナノ監督权ノ一作用ナ  
リト云フコトヲ得

上级官ナノ下級官ナニ対スル指揮監督权ハ官吏カソノ官吏タル身分  
ニ於テ本局長官ヨリ受ケル処、監督权トハ之ヲ區別スルコトヲ要ス  
官ナノ監督ハソノ国家ノ機手タル地位ニ於テソノ权限ノ行使ニ于ス  
ル指揮監督ナリ、官吏ノ監督ハ国家ニ対シテ服務ノ義務ヲ有スル何  
人トシテソノ義務ノ履行ニ于スル監督ナリ

官  
官

此性質ノ區別ニ於テ官ナトシテノ監督权ヲ有スルモノト官吏トシ  
テノ監督权ヲ有スルモノトハ往々其人ヲ異ニスルコトアリ、例ヘハ  
府県知事ハソノ官ナタル資格ニ於テ权限ノ行使ニ于シテハソノ主官  
ニ於テ各省大臣ノ監督ヲ受ケト雖モソノ官吏タル身分ニ於テハ專  
ラ内務大臣ノ監督ヲ受ケルモノナリ、官ナニ対スル訓令ノ效力ニ付  
テモ訓令ハ国家ノ機手トシテノ地位ニ於テ發セラル、モノナルヲ以  
テソノ訓令ヲ受ケタル官ナハソノ地位ニ當レルモノ、更迭ニ于ハラ  
ス境界シテソノ拘束ヲ受ケルモノナルニ反シテ官吏カソノ官吏タル  
身分ニ於テ受ケル所ノ職務命令ハ国家ノ機手トシテノ地位ニ対シテ  
發セラル、モノニシテスレソノ命令ヲ受ケル何人ニ対スルモノナ  
ルカ故ニ原則トシテハ単ニ其人ニ対シテノ效力ヲ有シソノ人カ官  
吏タル身分ヲ失フト共ニ当然ソノ效力ヲ失フヲ通常トス、例ヘハ官  
吏ニ發シテ命シ特定ノ事務ノ処理ヲ命スルカ如キ之レハ命令ハ常  
ニ其人ニ対シテノ效力ヲ有スルモノナリ、官吏ニ対スル職務上ノ



命令ヲ單ニソノ人ノ一身ニシテ効力ヲ有スルニ止マラス右ニ官吏タル地位ニ就クヘキモノニ對シテモ継続的ノ効力ヲ有スル場合ハタゞソノ命令カ一般的法則ノ取ヲ以テ公布セラレタル場合ニ限ル、官ナニ對スル訓令ハ之レニ反シ例ハ一事件ニ于スルモノナリトモ單ニソノ人ヲ拘束スルニ止マラス当然右任者ヲモ拘束スルノ力ヲ有スルモノナリ

上級官ナノ下級官ナニ對スル指揮監督ノ範圍ハ司法官ナト行政官ナトノ間ニハ大ナル差違アリ、以上述ヘタル所ハタゞ一般行政官ナニ付テ述ヘタルニ止マリ此ノ原則ハ司法裁判所ニハ之レヲ適用スルコトヲ得ス  
司法裁判所ハソノ权限ノ行使ニ于テハ完全ナル獨立ヲ有シ何人ノ指揮命令ヲ受ケルコトナシ、元ヨリ裁判官ト雖モソノ官吏タル身命ニ於テハ職務上ノ監督ヲ受ケト雖モソノ官ナトシテ裁判權ヲ行使スルコトニ于テハ全ク獨立ノ意見ニヨリテ之ヲ行フノ權ヲ有シ、

上級官ナノ指揮監督ノ下ニ立ツモノニアラス、行政官ナ中ニモ行政裁判所及ヒ會計検査院ハ司法裁判所ト同様ナル权限ノ獨立ヲ有ス、其他一般ニ合議制ノ組織ヲ有スル官ナハ原則トシテ之レト同様ナル獨立ノ決定權ヲ有スルモノナリ、何トナレハ合議ノ組織ハ獨立ノ決定權ヲ有スルニアラスレハソノ組織ノ目的ヲ違スルコト能ハサレハナリ

### 第三節 中央官制

#### 第一、沿革

今日ノ如キ我中央官制ハ成立セシハ十八年ノ官制改革ニヨリテ成レルナリ、其以故ニハ大政官カ最高ノ中央官ナナリキ、此大政官官制ヲ度々改正セラレタリ、其主ナル改正ハ  
明治時代ノ官制ハ維新ノ中ニ生ゼリ、中央官制ハ明治維新ニヨリ



テ一変セリ、朝廷ノ組織ハ單簡ニシテ幕府カ政治ヲ行ヒタル故朝  
廷ニテハ傳奏<sup>御奏</sup>ナリ、<sup>三〇四</sup>ニテ幕府ト交渉セルナリ、左右大臣オハ名称  
ノミナリキ、慶應三年ニ義軍カ政ヲ奉還シタル故官制ヲ改正スル  
ノ必要ヲ生セリ、差当リ維新ニ朝廷ニ生セル官職ハ總裁、議定、  
参与ノ三種ノ官職ヲ置キテ政治ヲサレタリ、ソレハ唯一時的ノ  
組織ニシテ稍々秩序的ノ中央官制ハ明治元年、閏四月ニ政体各カ  
故ケラレタルモノニシテソノ右大改革アリシハ二年、四年、八年  
十八年ナリキ、元年ノ政体各ハ極端ナル急進主義ノモノナリ、当  
時ハ急進主義ニシテ米ノ三权分立主義ヲ取レルモノニシテ司法官  
ハ行政官ヲ兼スルコトヲ得スト紙上ニ規定セリ、立法機于ニハ議  
政官、上局、下局ヲ設ケタリ、上局ハ貴族院ニ相当シ下局ハ衆議  
院ニ當ル、上局ハ役人ヨリ成リ下局ハ各藩ヨリ貢士ヲ發シテ之  
レヨリ成リタリ、行政機于トシテハ行政官ヲ置キ上官ヲ補相トシ  
夫レニ附随スルモノトシテ神祇官、會計官、軍務官、外官官才併

存ス、司法官ノ機于トシテハ刑法官アリ、即チ形ノ上ニハ三权分  
立ナル形ヲナセルカ一時ニ極端ニ進歩主義ヲ採レルモ実行スルコ  
トヲ得ザリシハ局人ヲ想像スルコトヲ得ルナリ、<sup>三〇五</sup>西局ハ間モナク  
元年中ニ止メラル  
當時ハ補相ヨリ下官ニ至ルマテ枚舉ニヨリテ決スルナリ、任期四  
年トセリ、之レ極端ナル例ナリ、併シ之レハ只一回行ヘルノミニ  
テ止メラル  
明治二年ノ改革ナリコノ年ハ一般憲法上ニモ重大ナル事件アリキ  
藩籍奉還行ハレタルナリ、又テ官制ニモ大改革アリキ(今年七月)  
此ハ元年ノモノト反對ニテコノ改革ハ復古(端極ナル)主義ニシ  
テ大室令ヲ基礎トセルモノナリ、此迄ハ行政官カ行政官ノ養官ナ  
リシカ大政官ハ左右大臣大納言兼議置カレ、大政官ニ獨立シテ並  
セテ神祇官置カレタリ、大政官ノ下ニ各府置カレ民部、大藏、兵部、刑  
部官内外務、大納置カレタリ、各省ニ郵長官アリ、其他ニ大学校



(文部省)警視ヲニ当ルモノハ彈正台ナリ、ソノ右救度ノ改正アリ  
 キ、明治四年七月ニ大政官ニ大改革アリキ、コノ年ハ廢藩置縣行  
 ハレテリ、從故ハ各藩主カ地藩事ナリシカソノ藩ヲ生シタルヲ以  
 テ任々知事ヲ置キテ之レカ行政官ヲラシム、大政官ヲ正院左院右  
 院トナシ正院カ從來ノ大政官ニ相当ス、コノ時太政大臣ヲ設ケラ  
 レ正院ノ長官トナリ左院ハ立法府ニ相当ス、官選ノ議員カ選任セ  
 ラル、右院ハ各省ノ御ヲ以テ組織セラル、内閣ノ如キナリ、左院  
 ハ元老院トナレルモノナリ、右院ハ今日ノ内閣ノ前身トモ云フヘ  
 キナリ

明治八年四月ノ改革ハ大阪會議ニシテ板垣、大隈ノ急進派ト木戸  
 公才ノ旧派主義ノ人トノ間ニ政治上ノ動搖アリキ、ソノ結果大阪  
 會議トナレルモノナリ、此時始メテ元老院、大審院成立ス、從來  
 ハ正院、左右兩院アリタルカ左右兩院ヲ廢シテ元老院ヲ加フ、之  
 レハ官選ノ御同ヨリナリテ藩律ヲ作ル作用ヲ有セリ、大審院ハ行  
 政ト司法ト分離シ居ラスニシテ司法省カ最高裁判所ナリシカ大

政院ヲ最高裁判所トシテ分立(行政權ト司法權分立)セリ(元老院大  
 審院生レシコトハ八年ノ大改革ナリキ)

之レヲ要スルニ二年ヨリ十八年ニ至ル官制ニハ最高ニハ太政官ナ  
 リ其下ニ各省アリキ、直接ニ天皇ヲ補助スルニハ大政官ノ太政大  
 臣ノミニヨリテ各省長官ハ大政官ニ隸屬セルナリトセラレタリ、  
 此狀態カ十八年十二月ノ改革ニシテ一變セララル  
 十八年ノ改革ハ主トシテ故伊藤公ノ計畫ニヨリテ成レルモノニ  
 シテ明治十四年ニ立憲政治ヲ取ルコトニ付テノ詔勅アリキ、ソノ  
 以前ニ民間ニテ民權自由說起リテ遂ニ人心ノ動搖ヲ熾格スルコト  
 ニヨリテ十四年ニ詔勅ヲ發シ二十三年ニ國會ヲ開クコト、ナレル  
 ナリ、十四年ニ水ヲ十五年ニ故伊藤公ハ歐洲諸國ノ立憲政治ノ狀  
 ヲ視察シ一年ノ右帰朝ス、官中ニ制度取調所ヲ設クソノ一着手ト  
 レテハ十八年ニ立憲政治ヲ行フニ付キテ改革セラル、即チ太政官



ニ付キテ各省卿ハ太政官ノ下ニアルニスキサルカ事務ヲ煩雜ナラシムル理由ニヨリ英、普ガニ行ハルハ内閣ヲ組織スル(各省長官ヲシテ國務大臣トシテ直接ニ天皇ヲ補助スルコトナレリ)内閣ニテ万事ヲ議シ各省大臣ヲシテ政治ヲ主掌率セシムルコトハ改革ノ要點タリ、從來ノ太政官ヲ廢シテ總理大臣、各省大臣ヲ置カル(十八年十二月十二日)此十八年ノ改革カ今日ノ中央官制ノ規程トナリ大體ニテハ今日ノ十八年ノ改革ニ依レリ、日清戦争ノ結果トシテ台湾ヲ得タルニヨリテ拓殖務省ヲ作ラレタルカ早ク廢止セラレ政治上ノ狀態ハ当初ニマリテハ超然内閣ナリシカ今日ニテハ政党内閣ニ移ラントシツ、アルナリ

### 第二、内閣

現行ノ中央官制ハ内閣ヲ組織スル各國務大臣カ各行政ノ一部ヲ担任シテ其主任事務ニ付テ天皇ノ下ニ最高ノ行政官ナタルコトヲ其大體ノ主義トナス、内閣總理大臣ヲ始メ各大臣ハ何レモ一方ニハ

國務大臣トシテ天皇ノ大勅ヲ補助スルノ任務ヲ有スルト共ニ一方ニ於テハ天皇ノ下ニ屬スル最高ノ行政官ナレテ各行政ノ一部ヲ担保スルモノナリ、故ニ**大勅**地位ニハ理論上ハ國務大臣トシテノ地位ト行政各部ノ長官トシテノ地位トヲ區別スルコトヲ要ス、法律勅令、条約ソノ他ノ詔勅ニ副署スルカ如キハ國務大臣トシテノ職務ニシテ命令ヲ發シ下級官吏ヲ指揮監督シ行政処分ヲナスカ如キハ行政各部ノ長官トシテノ職務ナリ、故者ハ天皇ノ國務上ノ行為ヲ翼賛スルノ行為ニシテ大臣カ自己ノ名ヲ以テ之レヲ外ニ發表スルニハフランス、右者ハ大臣カ自己ノ权限トシテ自己ノ名ヲ以テ之レヲ外ニ發表スルモノナリ、此ニ種ノ職務ハ互ニ密接ニ于聯スト雖氏而モ理論上ハ之レヲ區別スルコトヲ要スルコトハ疑ヲ入レサル所ナリ

各國務大臣ヲ以テ内閣ヲ組織ス、内閣ハ各大臣ノ合議機ヲニシテ内閣ニ於テ評議スル所ハソノ國務大臣トシテノ職務ニ屬スルモノ



ト行政各部ノ長官トシテノ職務ニ属スル所タルヲ問ハズ、閣議ニ  
附スヘキ事項ノ主ナルモノハ元ヨリ國務大臣トシテノ職務即チ君  
主ノ大権ニ属スル事項ニシテ各省長官トシテノ職務ハ之レヲ閣議  
ニ提発スルハ寧ろ小部分ニ属スト虽也而カモソノ稍重大ニシテソ  
ノ利害ノ及フ所カ單ニ一省ノ事務ノミニ止マラサルモノハ等シク  
之レヲ閣議ニ提発シテ各大臣ノ合議ニヨリテ之ヲ決スルナリ、蓋  
シ各省ノ主任ノ事務ハ各互ニ相于耽シ相待チテ國家ノ目的ヲ達ス  
ルモノナルヲ以テ何レノ一省ト虽也金ク他ノ省ト于係ナク独立ニ  
其事務ヲ決定スヘキニアラス、若シ各省独立ニ之レヲ決セハ事務  
ノ緩急ヲ行リ一級ノ施政ノ方針ニ礙リ國家全体ノ利益ヲ全フスル  
ヲ得ヘカラサレハナリ、内閣制度ハ即チ各省ノ事務ヲシテ互ニ相  
調和ヲ得セシメ緩急宜シキヲ得シムルノ目的ヲ達スル所以ニシテ  
各省主任ノ事務ト虽也各省大臣ヲシテ独立ニ之レヲ決セシムルコ  
トナク國務各大臣ノ合議ニヨリテ政務ヲ決セシムルナリ、

内閣制度ハ元來英國ニ於テ先ツ發達シタルモノニシテ他ノ歐洲諸  
國ノ内閣ハ何レモ英ノ制度ノ影響ノ下ニアルモノナリ、英國ノ内  
閣制度ハ長キ在史上ノ慣習ニヨリテ自ラ發達シタルモノニシテ近  
代ニ於ケル英國ノ内閣制度ハ内閣ノ大臣カ議會殊ニ衆議院ノ多数  
ヲ占ムル政黨ヨリ選任セラレソノ凡ヘテノ大臣ハ全一ノ政黨又ハ  
之レト連合セル政黨ニ属シ從テ全一ノ政黨ヲ有シ又凡テノ大臣ハ  
閣議ニ於テ決定セル政策ニ付テハ連帶ノ責任ヲ有スルコトヲソノ  
組織ノ基礎トナスモノナリ、元ヨリ英國ニ於テモ法律上ニ於テハ  
内閣大臣ノ任免權ハ專ラ國王ノ大権ニ属スト虽也大臣ハ凡ヘテノ  
施政ニ付テ議會ニ對シテ責任ヲ負フモノナルヲ以テ大臣ハ議會ノ  
多数黨ノ信任ヲ得ルコトカ又クヘカラサルノ必要ナリ、而シテ多  
数黨ノ信任ヲ得ルモノハ多数黨ノ領袖ニヨリテ内閣ヲ組織スルヲ  
最モ適當トナスカ故ニ自然ノ勢ニヨリテ國王ハ多数黨ノ首領ヲシ  
テ内閣ヲ組織セシムルノ慣習ヲ生スルニ至リタルナリ、英國ノ内



二二二  
閣制度ニ於ケル之オノ原則ハ他ノ大多数ノ立憲國ニ於テモ亦継受  
セラル。米國獨乙帝國オノ二三ノ例外ヲ除キテハ各立憲國ハ何レ  
モコノ主義ニ基ク内閣制度ヲ有スルモノナリ  
然レモ内閣會議ノ考政黨ヨリ組織セラルハコトハ專ニ實際政治  
ノ問題ニシテ法律上ノ制度ノ問題ニアラス。法律上ヨリ去ヘハ之  
レオノ諸立憲國ニ於テモ大抵ノ任免ハ國王又ハ大統領ニ屬スト  
雖モ政黨ノ勢力強大ニシテ從テ又議會カ政治上ニ重キヲナセル國  
ニ於テ内閣會議ノ考政黨ニヨリテ組織セラルハ至ルハ避クヘ  
カラサル自然ノ趨勢ナリ。内閣ニシテ議會ノ後援ヲ得ルニアラス  
ンハ田滿ニ國政ヲ進行スルコトハ望ムヘカラサルモノナレハナリ  
一方ニ於テハ又例令法律ヲ以テ内閣大臣ハ多數黨ヨリ選任スヘキ  
コトヲ規定ストナスモ實際ニ勢力カアル政黨ナク議會カ多クノ小政  
黨ニ分裂シテ内閣ヲ組織スルニ足ルヘキ実カヲ有スル政黨ニルニ  
アラサレハ到底實際ニ之レヲ行フヲ得サルモノナリ。如斯ク議會

ノ考政黨ヨリ組織セラルハコトヲ事實上ノ慣習トナス内閣制度ヲ  
稱シテ通常議會内閣又ハ政黨内閣ト稱ス  
我國ノ内閣制度ハソノ初メニ設ケラルハニ至リテハ主トシテ独乙  
流ノ思想ノ影響ヲ受ケタルモノニシテ内閣ノ初メテ組織セラルハ  
ニ當リテハ内閣ハ政黨ノ外ニ超然タルヘキモノトシ憲法ノ施行  
セラルハニ反ヒテモ亦凡テノ内閣大臣ハ政黨外ノ者ヨリ任命セ  
ラレ政黨トハ何ホノ子孫ヲモ有セサリキ。明治二十二年憲法發布  
ノ際時ノ總理大臣黒田伯カ地方官ニ訓令シタル中ニモ政府ハ超然  
トシテ政黨ノ外ニ立タサルヘカラサルコトヲ公ニ宣言シタリ。昔  
ニ之レテ超然内閣ト稱セリ。然レトモコノ超然主義ノ結果ハ政府  
ト議會トノ間ニ年々衝突ヲ絶タス。解散ニ及クニ解散ヲ以テシ  
際上政治ヲ運用スルヲ得サルニ至リ遂ニ超然主義ヲ棄ツルノ止ム  
ヲ得サルコトナリテ明治二十八年伊藤内閣ノトキ始メテ政府ハ  
自由党ト提携ノ約束ヲナスコトナレリ。之レ日本ノ内閣カ公然



政党内閣ト于係スルニ至リシ最初ニシテ初メノ起然主義ハ茲ニ至リテ  
 全ク拋棄セラレタルナリ、ソノ右明治三十一年ニ始メテ憲政党内  
 閣ノ組織アリ、我國ニ於テ最初ノ政党内閣ナリ、コノ最初ノ政党内閣  
 ハ半年ナラスシテ休レタリシカ右三十三年ニ政友会ノ組織セ  
 ラル、ニ至リテ伊藤公ヲ総理トナス政友会内閣成立セリ、之レ第  
 ニノ政党内閣ナリ、之レヨリ以後ノ変遷ハ別ニ之レヲ述フルヲ要  
 セサレトモ要スルニ内閣ヲ政黨ノ外ニ起然タルコトハ立憲政治ノ  
 下ニ於テハ長ク維持シ得ヘカラサル所ニシテ自ラ政黨内閣ノ制度  
 ニ近カントスルコトハ避ケヘカラサル自然ノ趨勢ナリ  
 法律上ニ於ケル内閣ノ性質ニ付テハ内閣ハ各國大臣ノ合議機ナリ  
 リト雖モ合議制ノ行政官ナタル性質ヲ有タルモノニハアラス、内  
 閣ノ主ナル任務ハ君主ノ大勅ニ屬スル事項ニ付テ評議ヲナシ評議  
 ノ結果ヲ奏上シテ以テ親裁ヲ仰フコトニアリ、ソノ決定ハ専ラ御  
 裁可ニアルモノニシテ内閣カ多数決ニヨリテ自ラ之レヲ決定スル

モノニアラス、各省主任ノ事務ニ付テモ亦閣議ノ決定ハ各省大臣  
 ヲ拘束スヘキ法律上ノ效力ヲ有スルモノニハアラス、各省大臣ハ  
 天皇ニ直隷スル最高ノ行政官ナニシテ内閣ト各省大臣トハ上下  
 級ノ于係アルニテアラス、各省大臣ハソノ主任事務ニ付テハ自ラ  
 絶対責任ヲ負フモノニシテ若シソノ意思ニ反シテ内閣ノ決議ニ服  
 従スルノ義務アリトセハソノ絶対ノ責任者タル地位ト相入ル、ヲ  
 得サレハナリ

サレハ内閣ノ決議ハ君主ノ大勅ニ屬スル事項ニ付テモマダ各省主  
 任ノ事務ニ付テモ法律上ノ效力ヲ有スル決議ニハアラス、只タ実  
 際上ニ各大臣ノ意見ヲ交換シテ協議スルノ模範タルニスキス、政  
 治上ノ實際ニ於テハ内閣ハ常ニ全質ノ一致ニヨリテ決定スルモノ  
 ニシテ決シテ重要ナル問題ニ付テ内閣ノ意見分カレソノ一致ヲ得ル  
 不能ハサル場合ニハ之レ内閣ノ分裂ヲ来ス、時ニシテソノ意見ノ  
 入レラレサリシモノハ辭職ノ外ナシト雖モ之レ最早法律上ノ問題



ニハマラス

○内閣ノ权限

内閣ノ職ニ付セラルヘキ事項ハ必スシモ一定ノ制限アルニテラス  
天皇ノ大赦ニ属スル事項及ヒ各省主官ノ事項ニシテ事ノ稍々重大  
ニシテソノ及フ所一章ニシテ止マラサルモノハ凡ヘテ閣議ヲ經ヘ  
キモノナリ、内閣官制(二十二年勅一三五号)ニハ閣議ヲ經ルヲ  
要スル事項トシテ

- 一、法律案、豫算、決算
- 二、外国条約及ヒ重要ナル國際事件
- 三、官制ノ他ノ勅令
- 四、諸省間ノ主管权限ノ争議
- 五、天皇ヨリ下附セラレ又ハ議會ヨリ送致スル人民ノ請願
- 六、豫算外ノ支出
- 七、勅任官及ヒ地方長官ノ任命及ヒ進退

ノ各事項ヲ列記シ此外尚各省主任ノ事務ニ付高木行政ニ于係シテ  
事務稍々重キモノハ凡ヘテ閣議ヲ奉ヘキヲ定メ又主任大臣ハ其  
所見ニヨリテ何ゾ件ヲ向ハス内閣總理大臣ニ提告シテ閣議ヲ求  
ムルヲ得ヘキコトヲ規定ス、然レモソノ規定ハ之レヲ制限ノ規  
定ト解スヘカラス、閣議ヲ奉ヘキ事項ハ單ニ之レガニシ止マラ  
スソノ列記事項ノ外ニ於テモ例ヘハ議會ノ召集、開會、停會、又  
ハ解散ノ如キ戒嚴ノ宣言ノ如キ、大赦、特赦ノ如キ凡テ閣議ヲ奉  
ルヲ要スルハ勿論ニシテ要スルニ事ノ單ニ一省ノ主管事務ニシ  
止マリ一級ノ國政ニ于係ナキモノ、外ハ凡ヘテ閣議ニ附セラルヘ  
キモノナリ、ソノ閣議ニ附セラルヘキモノト各省大臣ノ單獨ニ決  
定シ得ヘキモノトノ限界ハ正確ナル法律上ノ限界ヲ附スルコトヲ  
得ス、内閣官制ニ規定セラレタルモノ、外ハ又事實上ノ慣習ニヨ  
リテ定マレルノ外ナキモノナリ

重要ナル國務ニ付テハ凡テ閣議ニ付スルヲ要スルノ原則ニ付スル



一、例外ハ陸海軍也機密ニ于スル事項ナリ、一般ノ原則トシテハ  
 軍政事務ト雖閣議ヲ経ルヲ要スルモノナリト虽軍ノ機密ニ于  
 係スルモノニアリテハ特ニ之レヲ内閣ノ議ニ附セハ、主任ノ陸海  
 軍大臣ニヨリ直接ニ奏上シテ裁可ヲ請フコトヲ得シメ只一般ノ國  
 務ニ重大ノ于係アルモノニ限り特ニ勅旨ニヨリテ内閣ノ議ニ附セ  
 ラル、コト、セラル、ソノ閣議ヲ経スレテ決定セラレタルモノ  
 ニ付キテハ陸海軍大臣ヨリ事務ニ於テ總理大臣ニ報告スルコトヲ  
 要ス

内閣ノ組織

内閣ハ總理大臣及ヒ各省大臣ヲ以テ組織スルヲ通常トナスモ此外  
 特ニ勅旨ニヨリ國務大臣トシテ内務閣ニ列セシメラル、コトアリ  
 我國ノ從來ノ実例ニ於テハ樞密院議長カ時トシテ國務大臣トシテ  
 内閣ニ列セシメラレタル例アリ  
 内閣中最モ重要ノ地位ヲ有スルモノハ内閣總理大臣ナリ、併シ總

理大臣ノ地位ノ重要ナル所以ハ主トシテ政治上ノ于係ニアリテ法  
 律上ノ于係ニアラス、政治上ヨリ去ヘハ總理大臣ハ内閣全体ノ主  
 領タル地位ニアルハ去テ追モナク國務各大臣ノ任命ニ付テモ専ラ  
 總理大臣ノ推薦ニ基ツクモノニシテ内閣組織ノ大命ハ總理大臣タ  
 ルヘキモノニ向ツテ下サレ而シテ總理ヲ自己ト政見ヲ全シクスル  
 モノヨリソノ閣僚タルヘキモノヲ選定シソノ奏上ニヨリテ任命セ  
 ラル、ナリ、一般ノ行政事務ニ付テモ亦其大体ノ方針ヲ定メ行政  
 各部ノ調和ヲ保ツコトハ主トシテ總理大臣ノ責任ニアルナリ、併  
 シ法律上ノ地位ヨリ之ヲ去ヘハ總理大臣ト各省大臣トハ上級下級  
 ノ于係アルモノニハアラス、旧時ノ太政大臣ト各省御トノ于係ト  
 ハ異ナリテ各省大臣ハ總理大臣ノ下ニ立ケソノ指揮監督ヲ受クル  
 モノニハアラサルナリ

總理大臣ノ地位ノ重要ナル所以ハ如斯主トシテ政治上ノ地位ニ  
 リト虽純粋法律上ノ見地ニ於テモ總理大臣ハ他ノ國務大臣ト全



ク全一ノ地位ヲ有スルモノニハアラス。内閣ノ會議ニ於テハ總理大臣ハソノ議長タルノ地位ヲ有シ各部ノ行政ニ對シテ一級ニ之レヲ監視シソノ間ノ調和ヲ保ツノ任務ヲ有シ又外ニ對シテ内閣ヲ代表スルノ權ヲ有ス。閣議ノ結果ヲ奏上シテ裁可ヲ仰クコトモ亦ク總理大臣ノ任務ニ屬ス。法律勅命其他國務ニ于スル凡ヘテノ詔勅ニ副署スルコトモ亦他ノ國務大臣ハソノ主任事務ニ于スルモノノ外ハ之ニ副署スルヲ要セサレモ總理大臣ハソノ凡ヘテニ副署スヘキモノトセラル(公式令)。總理大臣ハ又必要ト認ムル場合ニ於テ行政各部ノ処分又ハ命令ヲ中止セシメ以テ勅裁ヲ仰クノ權ヲ認メラル(内閣官制四條)コノ權限ハ一級上級官ナカ行政官ナノ命令又ハ処分ヲ取消シ變更スルノ權限ヲ有スルトハ異ナリ各省大臣ノ処分又ハ命令ヲ法規ニ違反シ又ハ公益ニ反スト認ムル場合ノミナラス、各省大臣カ其主任事務ニ付テ閣議ヲ經スニテ專行シ而シテ一級ノ施政方針ト相一致セサルモノト認ムルトキハ必スシモ法

又ハ公益ニ反スルモノナラスモ之レヲ中止スルコトヲ得ルモノナリ。ソノ中止ノ權限ハ又上級官ナノ如ク確定ノ效力ヲ以テ取消シ變更スルモノトハ異ナリ一時效力ヲ停止シテ勅裁ヲ仰クニ止マル總理大臣ハ内閣ノ一員トシテ以上ノ如キ權限ヲ有スルノ外又各省大臣ト全様ニ一方ニ於テハ行政ノ長官トシテ行政事務ノ一部ヲ担任ス。行政長官トシテ總理大臣ハ各省大臣ト全シク單独制ノ行政官ナニシテ其主管事務ヲ担任シソノ所屬ニ屬スル下級行政官ナヲ指揮監督シ又之ヲ事務ニ付テ命令ヲ發スルノ權ヲ有ス。總理大臣ノ發スル命令ハ之ヲ閣令ト云フ。ソノ效力ニ於テハ全ク省令ト全ナリ。行政官ナトシテ總理大臣ノ担任スル行政事務ハ主トシテ行政ノ全般ニ于係シ何レノ一省ノ主管ニモ屬セサルモノナリ。ソノ事務ノ範圍ハ欽道行政カ遙信省ノ主管ヨリ總理大臣ノ主管ニ移サレ及ヒ殖民地行政カ從來内務大臣ノ主管ニ屬シタリシモ總理大臣ニ移サレタルニ由リ、近時大ニ擴大セラレタリ。ソノ他官



吏金符ニ対スル一般の監督官吏、恩給扱、審査、行政上、統計  
ノ整理、詔勅及ヒ法律命令ノ公布、法律命令ノ正本ノ保存、勅章ニ  
于スル事務、官報ノ印刷及ヒ発行、文官高才試験ホハソノ管轄ニ  
属スル主ナル事項ナリ

是ハ諸種ノ事務ヲ分担処理スルタメニ総理大臣ノ指揮監督ノ下ニ  
属スル官ナトシテ賞勲局、法制局、印刷局、拓殖局、鉄道院、文  
官高才試験委員ホアリ、総理大臣ノ補助官トシテハ此ノ外書記官  
長、統計局長、恩給局長、各記官、秘書官ホ種々ノ官職アリ、ソ  
ノ詳細ハ官制ニ付テ見ルヘシ

### 第三、各省大臣

各省大臣モ亦一方ニハ國務大臣トシテ天皇ノ大政ヲ補助スルノ外  
一方ハ行政長官トシテ天皇ノ委任ニ基キ各々行政ノ一部ヲ担任ス  
現行ノ官制ニ於テハ行政ノ各部ハ総理大臣ノ权限ニ属スルモノ、  
外、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務及ヒ通

信ノ九省ニ命カレ國務各大臣ハ之ヲ各省ニ分レテ各其長官タルナ  
リ此外ニ宮内省アレトモ宮内大臣ハ皇室ノ事務ヲ担任スルニ止マ  
リ國務ニ専カサルモノニアラス純然タル宮中ノ官吏ナリ、各省ノ主  
管事務ノ分配ハ各省官制中ニ詳細ニ規定セラル、ヲ以テ今一々  
之レヲ述ヘス

各省大臣ハソノ主任ノ事務ニ于シテハ國家ノ一切ノ行政ニ付テソ  
ノ責任ニ任スルモノナリ其事務ヲ直接ニ君主ノ裁可ニヨリテ行ハ  
レタルト又ハ大臣自身ノ職權トシテ行ハレタルト又ハ大臣ノ監督  
ノ下ニ属スル下級官ナノ权限ニヨリテ行ハレタルトヲ問ハス其凡  
テニ對シテ各省大臣カソノ責任ヲ負担スルナリ、君主ノ親裁ニ十  
ル行為ニ付テハ大臣ハソノ補助ノ責ニ任シ下級官ナノ行政ニ付テ  
ハ大臣ハソノ監督ノ責ニ任ス

各省大臣ノ職務权限ハ各大臣ニ付テ一概ナラサルカ故ニ之ヲ一概  
シテ述ワルコトヲ得スト臣臣各省官制通則ノ定ムル所ニヨリテ各



省大臣ニ共通ナル权限ヲ持ツル中ハ凡ソ其ノ如シ  
 一主任事務ニ付テ君主ノ親裁ニヨリテ行ハルヘキ凡ソテノ國家  
 行為ニ付テ其立業準備ヲナスコト、殊ニ議會ニ提告セラルヘキ  
 法律案ソノ他ノ議案及ヒ勅令案ガハ主任大臣ニ於テ立案シテ閣  
 議ニ提告スルナリ

二主任事務ニ付キ下級官ヲ指揮監督スルコト、即チ下級官ナニ  
 付テ訓令ヲ下シ法令ニ反シ又ハ公益ヲ害スル下級官ノ行為  
 ヲ取消シ下級官ノ相互ノ間ニ权限ノ争又ハ疑アル中ハ之レヲ  
 探決スルホ一級ノ指揮監督ヲ有スルナリ

三部下ノ官吏ヲ監督スルコト、即チ其省及ヒ下級官ナニ屬スル官  
 吏ノ職務上及ヒ職務外ノ行狀ニ付テ監督權ヲ行ヒ職務命令ヲ發  
 シ懲戒処分ヲ行ヒ又ハ懲戒手續ノタメニ特別ノ機子ノ設ケラル  
 場合ニハ懲戒ノ申請ヲナス、部下ノ官吏ノ進退ニ付テモ判任  
 官以下ハ自ラ之レヲ行ヒ勅任官及ヒ委任官ニ付テハ或ハ之レヲ

閣議ニ提告シ又ハ總理大臣ヲ經テ直ニ之ヲ上奏スル權ニ之ヲ發  
 議スルノ權ヲ有ス

四主任事務ニ付キ省令ヲ發スルコト

省令ヲ以テ定ムルヲ得ヘキ事務項ニ付テハ嘗テ行政法ノ淵源ト  
 シテノ命令ヲ論スル場所ニ於テ之ヲ述ヘタリ、各省大臣ハ或ハ  
 特別ノ法律勅令ニヨリテ委任セラレタル事項ニ付テ省令ヲ  
 發シ又ハ法律勅令又ハ條約ニ抵触セサル範圍ニ於テ自己ノ意見  
 ニヨリテ其主任事務ニ付テ警察命令又ハ行政規則ヲ定ムルノ權  
 ヲ有スルナリ、省令ハ百圓以内ノ罰金若クハ料料又ハ三個月以  
 下ノ懲戒杖、禁錮若シクハ拘留ノ罰則ヲ付スルコトヲ得  
 各省大臣ハ直接ニ君主ノ下ニ屬スル最上級ノ官ナニシテ君主ト  
 各省大臣トノ間ニハ別ノ上級官ナラ有ムルコトナシ、總理大臣  
 ハ勿論内閣々其自明モ各省大臣ノ上級官ナニアラサルコトハ故  
 述ノ如シ各省大臣ハ其主任事務ニ付テハ絶対ノ責任者タルモノ



ニシテ而シテ上級官ナラ有シノ指揮監督ニ服従スルノ義務ヲ負フコトハソノ絶対ノ責任者タル地位ト相容レサルモノナレハナリ

各省大臣ニハ各之レニ附屬スル收考ノ補助官吏アリ、補助官ノ種類ハ尚ニヨリテ多少ノ差異アレトモ通常ハ次官、局長、参事官、秘書官及ヒ屬各々若干名ナリ、各省ノ事務ヲ分担スルタメニ各省ニ教育局ヲ置キ又別ニ大臣官房ヲオク各局ハ又概テ又收課ニ分ル、補助官ノ職務、各局ノ名称、ソノ分担事務ノ範圍オハ官制ニ付テ見ルヘシ

各省大臣故障アル場合ニ於テ若シソノ故障カ一時ニ止マルトキハ法律勅令又ハソノ他ノ詔勅ニ副署シ君主ニ上奏シ閣議ニ列シ及ヒ省令ヲ發スルコトヲ除クノ外ハソノ職務ヲ臨時次官ニ代理セシムルコトヲ得、ソノ故障カ永キニ亘リ又ハ職務ノ全部ニ付テ之レヲ行フコト能ハサル場合ニハ他ノ大臣カ臨時勅令ヲ受ケ

ケテソノ職務ヲ兼攝ス

各省大臣ノ指揮監督ノ下ニ屬スル下級官ナニ付テハ一々之ヲ述ハス

### 第四節 地方官制

## ○沿革

明治維新ハ大名アリテ各藩ノ大名々各自政治ヲ勝手ニ行ヘリ、政權奉還ノ后ニ於テモ暫時ハ封建的ナリシカ徳川氏ノ反ニヨリテ直轄ノ領カ朝廷ノ直轄ノ地トナシ、此地ヲ府ト果トニナサシ、從來ノ大名ノ土地ハ依然タリキ、政所ニヨリテ府果藩ト分レタリ、封建制度カ破ラレタル藩權奉還ト廢藩置縣ニヨリテ成リ一人ノ土地ヲ使用スルコトナクシテ從來ノ藩モ朝廷ノ領土トナレリ、併シ藩主ハ知藩事ナル役名ノ下ニ政治ヲ行ヘリ、併シ大名々地藩



事タルノ際ヲ以テ四年ノ廢藩置縣トナレシナリ、新官吏ヲ知事ト  
 ナシテ府県トシテ全國一様ニ立テルナリ、封建制度ノ余習破ラレ  
 (四年七月ナリ)十月ニ府県官制定アリ、従故ノ府県ヲ改メテ三  
 府七十二県トナリタルナリ、ソノ府県ニハ改廢アリキ、大體ニ於  
 テハソノ制度カ定マレルナリ  
 元司法權ト行政權ト分離セラレズ地方官ハ行政官タルト今時ニ司  
 法官タリキ、明治五年ニ裁判所置カレテ二者分離セルナリ、併シ  
 唯分離ハ名目ニ止マリ地方官ハ裁判官ヲ兼任スルモノナリキ、明  
 治八年五月ニ始メテ大審院置カレテ最高ノ裁判所トシテ府県裁判  
 所ヲ地方裁判所トシテ地方官ノ判官兼任ヲ禁シ分離始メテ完全ナ  
 リキ  
 府県ノ下ニ於ケル下級ノ地方區劃ハ四年ニ府県官制定ナラレハト、  
 共ニ全國ニ劃一ノ地方制度置カレ府県ノ下ニ區ヲ置カル、各區ニ  
 戸長副戸長ヲ置キ今日ノ郡ハ十一年七月ニ郡區町村編制法發テ、

始メテ置カレタルナリ、之ニヨリ府県ノ下ノ地方區劃カ明ラカニ  
 定メラル地方區劃ノ本ナルモノヲ郡區トシソノ下ニ町村ヲ置キテ  
 最下級ノ地方區劃トシ郡ニハ一郡長ヲ置キ區ニハ區長ヲ  
 置ケリ、此法律ハ二十二年ニ市制町村制發布ニ至ルマテハ效力ヲ  
 有シタリキ、今日ニ於テモコノ法律ハ島ホニテ行ハレ居ル所アリ  
 ソノ府地方自治制布カル、ニ至レリ、自治制ノ成文法ニテ認メラ  
 レタルハ十一年ノ府県令規則ナリ、各地方ニ府県令定メラル民選  
 議會ヲ地方ニ設ケタルナリ、區及ヒ町村ニハ地方状況ニヨリテ町  
 村會ヲ組織スルコトヲ得ト規定セリ、十三年ニ町村令法發布セラ  
 ル各地方自治制ハ此クシテ各地方ニ其実ヲ有シタルカニ十三年憲  
 法發布ノコト、十四年ニ發布トナリ地方自治制ヲ全ウスルニアラ  
 サレハ立憲制ヲ全フスルコトヲ得スト自治制ヲ研究シ伊藤公山  
 縣公才政ニテ自治制ノコトヲ究メテ二十一年ニ市町村制ヲ發布  
 セリ (Preussien, Meade 顧問ナリ)



二十二年以後地方各地方ニ漸次ニ施行スルコトナレリ、市町村  
二十三年ニ府県制、郡制發布セラル

府県一郡市、郡ノ下ニ町村  
(北海道台湾ハ異ナル、右述スヘシ)

我地方制度ハ北海道ト各府県トハ多少ソノ趣ヲ異ニシ朝鮮台湾ソ  
ノ他ノ殖民地ハ又著シク内地ト異ナレリ、今ハ先ツ一般内地ニ於  
ケル地方制度ノ概要ヲ論ス

一般内地ニ於テハ全国ハ先ツ府ト県トニ區別セラレ各府県ハ更ニ  
郡ト市及ヒ島ナニ區別セラレ郡及ヒ島ナハ更ニ町村ニ區別セラル  
市及ヒ町村ハ通常最下級ノ行政區劃タルモノナレモ市町村ノ稍々  
大ナルモノハ更ニ區ニ分タルモノアリ  
以上ハ一般行政事務ニ付テハ地方區劃ナリ、コノ外特殊ノ行政事  
務ニ付テハ別ニ行政區劃ヲ定メ特別ノ地方官ヲ置キテ之レヲ処  
理セシムルモノアリ例ハ大藏省ノ下ニ於ケル税関、稅務監督局

及ヒ稅務署ノ如キ農商務省ノ下ニ於ケル大林區署、鉱山監督局ノ  
如キ何レモ特殊ノ行政事務ノ為メニスル特別ノ地方官ナニシテソ  
ノ管轄區域ハ必スレモ一般行政區劃ト全シカラス別ニリノ區別ヲ  
定メラル、之レオノ特別地方官ナニ付テハ之レヲ述ヘス、以下專  
ラ一般ノ地方官制度ニ付テ論ス

第一、府県知事

府県ハ一面ニハ國ノ行政區劃タルト共ニ一面ニハ地方自治団体  
ノ性質ヲ有ス、府県ニ於ケル國ノ行政官ナノ組織ハ地方官々制ニ  
ヨリテ定メラル自治団体トシテノ府県ノ組織ハ府県制ニヨリテ定  
メラル、自治団体トシテ府県ノ組織ニ付テハ台章ニ明ニ之ヲ述フ  
余ハ專ラ府県ニ於ケル國ノ行政官ナノ組織ヲ述フヘシ  
府県ニ於ケル最高行政官ハ府県知事ナリ、知事ハ一方ニ於テハ  
國家ノ機子トシテ府県ニ於ケル國ノ行政ヲ担任スルト共ニ一方ニ  
於テハ府県ノ機子トシテ自治団体タル府県ノ行政ヲ行フ、國家ノ



官吏タル府県知事カ合時ニ府県団体ノ長官トシテソノ行政ヲ担任スルナリ、國ノ行政ニ于テハ府県知事ノ職務权限ハ概テ次ノ如シ

- 一、部府ニ於ケル行政ノ監理
- 府県知事ハ國ノ行政事務ニシテソノ利害ヲ保カ全府県ノ区域ニ及ヒ又ハ少クトモ数郡市ニ跨ルモノニシテ各省大臣ノ权限ニ留保セラレ又ハ特別ノ地方官ナリ、权限ニ委任セラレタルモノ、外ハ凡ヘテ之ヲ担任シ又法律勅令、省令オニヨリテ特ニ委任セラレタル事項ヲ担任ス、租税(國家ノ)ヲ徵收シ通信事務、磁石、林ノ行政、監獄管理、司法行政オニ付テハ特別ノ地方官ナリ、故ケテソレトモ之ヲ除キテハ最高學藝、社会宗教、治安警察、衛生産業、徴兵、徴税、選挙事務オ諸般ノ指揮監督ヲ受ケタルハ勿論ナレ、單ニ大臣ノ命ヲ執行スルノミニ止マラス、法律命令ノ範圍内ニ於テハ自己ノ自由裁量ニヨリテ之レヲ行フノ权アルナリ

二、府県令ノ發布

知事ハ政令ノ事務ニ于テ或ハ特別ノ委任ニヨリ或ハ一般ノ職權ニヨリテ府県令ヲソノ管内ニ發布スルノ权ヲ有ス、府県令ハ五十円以内ノ罰金若シクハ料料又ハ拘留ノ罰ヲ附スルコトヲ得

三、治安請求权

知事ハソノ部下ニ警察隊ヲ有シ之レヲ行政上ノ実力強制ノ任ニ当ラシムルモノナレトモ例ハハ府県内ニ暴動起リテ警察隊ヲ以テ鎮撫スル能ハサルカ如キ実力ノ不足ヲ生スル場合ニ於テハ附近ノ師団長又ハ旅団長ニ通知シテ治安ヲ安頓スルノ权ヲ有ス

四、下級地方官ナリ、行政ヲ指揮監督スルコト

郡長、市長、島司、警察署長、令署長ハ何レモ府県知事ノ下ニ屬スル下級地方官ニシテ知事ハ之ニ對シテ訓令ヲ發シソノ命令又ハ処分、違法又ハ不当ナルモノヲ取消ス、权ヲ有ス



本部下ノ官吏ヲ監督シ責任官ニ付テハソノ功過及ヒ懲戒ヲ内務大臣ニ具申シ判任官以下ニ付テハ自ラソノ進退及ヒ懲戒ヲ專行スルコト

大郡市町村及ヒソノ他府県内ニ於ケル公共団体(自治団体)ノ行政ヲ監督スルコト

以上凡ヘテノ職務ニ付テ府県知事ハ各主任大臣ノ指揮監督ヲ受ケルモノニシテソノ身分ニ付テハ内務大臣ノ監督ヲ受ケ府縣知事ノ权限ハ府県ノ区域ニヨリテ限ラレテ自治官ナトシテ知事ノ管轄区域モ自治団体メトシテノ府県ノ区域モ全一ニシテ自治団体タル府県ノ区域ニ変更アリタルハ又当然知事ノ管轄区域ニ変更ヲ生スルナリ、一般ノ行政官ナノ管轄区域ハ専ラ官制ニヨリテ定マルモノニシテ勅令ヲ以テ之ヲ変更スルヲ得レバ府県ノ区域ハ法律ニヨルニテラサレハ変更スルヲ得サルヲ以テ府県知事ノ管轄区域カ自治体ノ区域ニト全ク分離セラレ、ニアラサル限リハ知事ノ管轄区域

ハ勅令ニヨリテハ変更スルヲ得サルモノナリ

知事ノ補助官ノ最モ重ナルモノハ庶務官ナリ、其他尙ホ教養ノ補助官アリ、知事ノ事務ヲ分掌スル為メニ府県内ニ内部務及ヒ警察部ヲ置キ事務官中ノ二人命レテ其長トナル、警察部長ハ府県ニ於ケル最高警察官タルモノニシテコノ地位ニ付テハ特ニ之レヲ警務長ト稱シ知事ノ命ヲ受ケテ府県ノ各警察官ヲ指揮監督スルノ权ヲ有ス

第二、警視總監

東京府ノ組織ハ一ノ点ニ於テ他ノ府県ト異ナル、他ノ府県ニ於テハ警察事務モ一般行政ト全シテ府県知事ノ管轄スル所ナルニ反シテ独リ東京府ニ於テハソノ警察事務ニ付テハ別ニ警視總監ヲオキテ之ヲ司ラシム、警視ヲハ明治七年ニ初メテ設置セラレ、十年ニ一度廢止セラレ明治二十四年一月更ニ設置セラレテ今日ニ至ルモノナリ、警視總監ノ权限ハ専ラ東京府下ヲ限ララル、モノ



ニシテソノ管轄スル事務ハ警察消防ト共ニ内務大臣ノ指定スル衛生事務ナリ、此ホノ事務ニ付テハ總監ハ警視庁令ヲ發スルノ权ヲ有シ下級地方官ナラ指揮監督シ部下ノ官吏ヲ監督スルホ府県知事ト全一ノ权限ヲ有ス、ソノ補助機子ノ組織部局ノ配置ニ付テハ警視庁官制ヲ見ヨ

第三、郡長及ヒ島司

府県知事ノ指揮監督ノ下ニ國ノ行政ヲ執行スルノ任務ヲ有スル第一級ノ官地方官ナハ郡長及ヒ島司ナリ、郡長ハ郡ノ区域ニ於ケル一級ノ國ノ行政ヲ行ヒ兼テ自治団体タル郡ノ執行機子ナリ島司ハ郡長ノ管轄ニ屬セサル島地ニ於ケル國ノ行政ヲ担任ス、又郡長カ今時ニ自治団体ノ機子タルニ反シテ島ハ自治団体タルモノニアラサルヲ以テ島司ハ唯國ノ官ナタルノ地位ヲ有スルニ止マリ今時ニ自治体ノ機子タルモノニアラス  
郡長ハ知事ノ指揮監督ヲ受ケテ郡内ノ行政ヲ執行シ町村長ニ委任

セラレタル國ノ行政事務ヲ指揮監督シ町村行政ヲ監督シ特別ノ委任ニヨリ管内ニ郡令ヲ發スルノ权ヲ有ス、島司ノ職務权限モマラ大体ニ於テ郡長ト全一ナリ、島司ヲ置カル、島地ハ勅令ヲ以テ指定セラレ郡ノ区域ノ外ニアリ(四十二年勅令第五十四号小笠原島、大島、対馬、大島、宮古、八重山、八丈、壹岐)

郡長及ヒ島司ハ府県知事ト異ナリ警察ニ于テスル权限ヲ有セズ、府県知事ノ指揮監督ノ下ニ屬スル警察官ナトシテハ郡長島司ノ外ニ別ニ警察署ヲ置キテ專ラ警察事務ヲ掌ラシム、警察署長ハ警視庁又ハ警部ヲ以テ之ニ充テ知事及ヒ警務長又ハ東京府ニアリテハ警視總監及ヒ各郡長ノ指揮監督ヲ受ケテソノ管轄区域ニ於ケル警察事務ヲ担任ス、警察署ノ管轄区域ハ一級ニ郡、市ノ区域ニヨルヲ原則トスレモ地方ノ必要ニヨリテ内務大臣ハ別ニソノ管轄区域ヲ定ムルコトヲ得、警察署長ハ郡長ト異ナリ法規法令ヲ定ムルノ权ヲ有セズ



第四、市町村及七区

最下級ノ行政区劃ハ明治十一年ノ郡区町村編制法ニヨリテ稍々大ナル市街地ハ之ヲ一區又ハ數區トシテ郡ト對テ地位ヲ有セシメ市街地ノ小ナルモノ及ヒ村落ハ之ヲ町又ハ村トシテ郡ノ下ニ於ケル下級地方區劃トシタリ。此制度ハ爾來長ク行ハレタリシカ明治二十二年以後市制、町村制ノ漸次各地方ノ施行セラル、ニ至リテ最下級ノ地方區劃ハ原則トシテ市及ヒ町村ノ三トシ市ニハ市政ヲ施行シ町及ヒ村ニハ町村制ヲ施行スルコトトナセリ、從來ノ區ハ一般ニ之ヲ市トナシ其他從來町タリシ地ニ於テモ比較的人口多キモノハ府県知事ノ具申ニヨリ内務大臣ニヨリ市トシテ指定セラレタルモノモ少カラス、從來ノ町村ハ或ハ從來ノマ、新制度ノ下ニ於ケル町村トナシ或ハ數町村ヲ併合シテ一町村トナシ或ハソノ他廢置分合ノ手續ヲ行ヒタルモアリ、斯クシテ今日ニ於テハ沖繩、果及ヒ勅令ヲ以テ指定セラレタル島地ノ外全國各府県ノ市町村ハ

凡ヘテ市制、町村制ノ下ニ支配セララル、コトトナレリ、市町村ハ國ノ行政区劃タルト共ニ自治團體タルモノニシテ市ト町村トハ多少ノノ制度ヲ異ニス、市ハ直接ニ府県ノ下ニ位シ郡ノ區域ノ外ニアリ、從ツテ直接ニ府知事ノ監督ヲ受クルモノナレドモ町村ハ郡ノ下ニ位シ郡長ノ監督ヲ受クルモノナリ、市町村ニ於ケル國ノ行政ヲ施行スルノ機手ハ府県又ハ郡ニ於ケルカ如キ特別ノ官ナラザクルコトナシ、府県及ヒ郡ニ於テハ人民ハ只タリノ議決機手ヲ公選スルノ權アルノミ、ソノ行政ノ執行ハ政府ノ任命スル官吏カ之レヲ担任スルニ及シテ市及ヒ町村ニアリテハソノ凡ヘテノ機手ハ皆團體自身ニ於テ公選スルノ權ヲ有シ而シテ市町村内ニ於ケル國ノ行政モ亦タ市町村ノ機手ニ委任セラル、ナリ、ソノ組織ノ詳細ニ付テハ公法人ヲ述ケル章ニ於テ之レヲ述フハシ

市町村ハ通例最下級ノ行政区劃タレドモソノ下ニ出木區ヲ分ツモノアリ、東京京都大阪ノ三市ハ市制施行故ヨリ各數區ニ分タレタリ



シカ市制施行后モ尚ホ從來ノ区ヲソノマリニ存置ス、ソノ他ノ市  
又ハ大ナル町村ニ於テモ便宜市務事會又ハ町村會ノ議決ヲ以テ救  
区ヲ区劃スルコトヲ許サル、一般市町村内ノ区ハ只市町村ノ行政  
區劃タルモノニスキヌシテ自ラ自治團體タルモノニハアラス、区  
ニ區長ヲ置クトモ區長ハ市町村ノ概テニシテ市町村長ノ命ヲ受  
ケテ市町村ノ事務ヲ執行スルノ任務ヲ有スルノミ、又テ東京京都  
大阪ノ三市ニ於ケル区ニ自己ノ財産ヲ有シ自己ノ費用ヲ以テ營造  
物ヲ設ケ之レヲ維持スルノ叔ヲ有スルモノニシテ市ノ下ニ於ケル  
下級自治團體タル性質ヲ有ス、之レオ三市ノ区及ヒ人口二十万以  
上ノ市ニ於ケル区ニ在リテハ又區長ハ区内ニ於ケル國及ヒ府縣ノ  
行政事務ヲ委任セラルモノニシテ即ケ之レオノ区ハ全時ニ國  
ノ行政區劃タル性質ヲ有スルモノナリ  
以上ハ市制町村制ヲ施行セラル、地方ニ付テ述ヘタルモノナリ、  
沖繩県及ヒ二三ノ島地ニ於テハ市町村制ノ施行セラレサルコト前

述ノ如シ、沖繩縣ニ於テハ久レク府縣制及ヒ郡制市町村制、何レ  
ヲモ施行スルコトナカリシカ明治二十九年ニ沖繩縣區制ヲ公布シ  
テ全縣内ノ区ニ施行シ明治四十年ニハ沖繩縣及ヒ島崎町村制ヲ定  
メ四十一年四月一日ヨリ之レヲ沖繩縣ニ施行シ、最右ニ四十二年四  
月一日ヨリ府縣制モ亦多少ノ度例ヲ以テ全縣ニ施行スルコトナレ  
リ、即ケ今日ニ於テハ沖繩縣ニ於テモ縣及ヒ管内各町村ハ各自治  
團體トシテ畧々一般ノ府縣及ヒ市町村ニ相當スベキ自治組織ヲ有  
スルコトナレリ、只郡制ノミハ今日ニ於テモ沖繩縣ニ施行セラ  
ルコトナレ。

沖繩縣ノ外町村制ヲ施行セラレサル島崎地ニ施テハ或ハ前掲  
ノ沖繩縣及ヒ島崎町村制ヲ施行スルモノアリ、或ハ今日モ尚明治十  
一年ノ郡區町村編制法ニヨリテ戸長ヲ置クモノアリ、ソノ制度ハ  
ナラス。

第五、北海道



維新前ハ蝦夷ニシテ幕府直轄ニテ奉行ヲ置カレタルカニ年ニ開拓  
 使置カレテ北海道ト改称セリ夫レカ置カレタルヨリ北海道改革ニ  
 従事セルカ八年ニ屯田兵ヲ置キテ開墾ヲ行ハシム樺太ハドノ南部  
 ハ日本ノ一部ナリシカ魯國ト事起リテ八年ニ樺太千島交換条約行  
 ハレ八年五月ナリ、其後南拓使八十五年ニ至リテ廢止セラレ札幌  
 函館根室ノ三果ニ分タレ内地ト企シ制度ナリシカ十九年ニ北海道  
 ナ置カル、数回ノ改正アリシカ十九年ノ制度ハ三十八年ニ定メラ  
 レタル北海道官制ニヨリテ今日ノ制度行ハル、ナリ。  
 北海道ノ制度ハ内地ニ於ケル一級府県ノ制度トハ称稍シ、ノ趣ヲ異  
 ニス、北海道ニ於ケル最上级地方官ナハ北海道庁長官ニシテ各省大  
 臣ノ指揮監督ヲ受ケテ北海道ニ於ケル一級ノ行政ヲ担任ス、其職務  
 权限ハ大体ニ於テ一級府県ニ於ケル知事ニ相当ス、ソノ補助官ノ組  
 織モマタ大体ニ於テ一級府県ト同様ニテ只其定數ニ於テ府県ヨリ  
 多キ、差アリ部局ノ配置ハ府県ヨリ稍々複雑ニシテ長官々房ノ外

第一節ヨリ第六節ニ至ルノ大部ニ分タル、北海道ニハ明治三十四  
 年以來北海道會ノ組織アリ、北海道地方費ニ于スル裁決権ヲ有ス  
 之レニヨリテ北海道モ亦一ノ自治団体トシテ或ル範圍ニ於テノ自  
 治権ヲ享ヘラル、ソノ詳細ハ公法人ノ章ニ譲ル  
 道ナノ下ニ於ケル亦二級ノ地方官制ハ支ナ及ヒ区ナリ、区ハ明治  
 三十二年以來北海道區制ヲ施行セラレ略一級府県ニ於ケル市ニ相  
 当スル自治組織ヲ有ス、支ナノ區域ノ外ニアリテ直接ニ道ナ長官  
 ノ監督ノ下ニ屬ス、支ナハ之レニ及ビ單純ノ行政區制ニ止マリ自  
 治団体ニアラス、支ナ長ソノ長官タリ、ソノ地位ハ略一級府県ノ  
 郡長ニ相当ス、北海道ニモ郡ノ區制ヲ定メラル、ト虽レ内地ト異  
 ナリテ郡ハ只地理上ノ名称タルニ止マリ行政區制ニハアラス、支  
 ナ長ハ郡ヲ併セテ之レヲ管轄スルモノナリ  
 支ナノ下ニ於ケル最下级ノ區制ハ町村ニシテソノ大部分ハ北海道  
 一級町村制又ハ北海道二級町村制ヲ施行セラレ或ル程度ニ於テノ



第五節 殖民地制度

殖民地ニ於ケル統治権ハ去テモナク天皇ノ大権ニ屬ス天皇ハ帝國全敏ノ統治権ヲ總攬セラル、故ニ殖民地ノ統治権モ天皇ニ屬スルコト勿論ナリ

又内地ニ於テハ其統治権ノ行使ニハ或ハ議會ノ快贊ヲ要スルモノアリ或ハ獨立ノ裁判所ニ委任セラル、ヲ要スルモノアリト雖モ殖民地ニ於テハ憲法政治ハ未タ行ハルニ至ラサルヲ以テ如斯キ特別ノ憲法上ノ制限ナク立法ニ付テモ必スシモ議會ハソノ快贊ヲ要セス司法ニ付テモ必スシモ憲法ニ規定セルカ如キ獨立ノ裁判所ニ委任スルノ必要ナシ、凡テ大権ノ自由裁量ニヨリテ統治セラル、ニヨリテ殖民地ニ付スル立法ハ如斯ク必スシモ議會ノ快贊ヲ要セサルヲ以テ殖民地

民地ノコトニ于テ議會ノ議ヲ全ルコトハ比較的甚タシ又其例外トシテ議會カ常ニ殖民地ノコトニ于テ存スルハソノ會計ナリ、會計ニ于テノミハ殖民地ノ會計モ亦テ國家ノ歳入歳出ノ一部ナルハ勿論ナルヲ以テ帝國ノ一般會計トシテ之ヲオシク予美ヲ以テ議會ノ快贊ヲ要シ、ソノ決算ニ付テモ會計検査院ノ検査及ヒ帝國議會ノ審査ヲ必要トスルモノナリ、國ヨリ各殖民地會計ハ各一ノ特別會計ヲナシ本國ノ一般會計トシテ予美ヲ別ニスルモノナレバ之レタ、會計ヲ異ニスルコトヲ要シ、ソノ法律上ノ制限ニ於テハ一般會計ト異ナルコトナリ

殖民地ニ於ケル行政組織ニ付テハ先ツソノ中央官ナト各殖民地ニ於ケル官ナトヲ區別スルヲ要ス、中央官ナハ内地ニ於テ殖民地ノ全体ヲ統括スルモノナクナリ、我々殖民地行政ハ曾テ述ハタル如ク行政上ノ命主義ヲ採リ殖民地ノ行政ハ統一的ニ中央政府ヨリ指揮監



三六  
督スルノ制度ヲ取ラスレテ概子之レテ各殖民地ノ官ナニ委任シ各殖民地ニ於テ各自独立ノ政治ヲ行ハシムルノ主義ヲトル内地ノ地方官ナハソノ权限比較的狹隘ニシテ只ニ法律勅令省令ノ拘束ヲ受クルノコトヲス大臣ノ訓令ニヨリテ拘束セラル、モノ甚々多キニ反レテ各殖民地ノ長官ハ迥カニ広キ权限ヲ有シ内地ナラハ或ハ勅令ニヨリテ定マリ或ハ大臣ノ職權ニ屬スル事項ト虽モ其クハ各殖民地ニ於テ自由ニ之レヲ定ムルヲ得ヘキモノトセラル、ナリ、併シ此命權主義ニ于ハラス殖民地ハ決シテ全ク独立ナルモノニハアラス、等シク中央政府ニ隷屬セルモノニシテソノ行政ニ付テモ或ル程度ニマテハ中央政府ノ指揮監督ヲ受クルモノナルコトハ去テ待タサル所ナリ  
殖民地行政ノ中央官ナハ内閣總理大臣ナリ、之レ殖民地行政ニ付テ最高官ナニシテ朝鮮總督ヲ始メ各殖民地ノ長官ハ何レモソノ指揮監督ヲ受クルモノナリ  
總理大臣ノ下ニ四十三年六月以來殖拓局置カレ專ラ殖民地行政ノ監

督ノ事務ニ当ル各殖民地自前ニ於ケル行政組織ハ朝鮮及ヒ台湾ト樺太及ヒ關東州トハ稍ソノ制度ヲ異ニス、台湾ト朝鮮トハ大体ニ於テソノ組織相異ニ只朝鮮ハソノ地域広キ結果ソノ規模一層大ナルノ差アルノミ、朝鮮ニ於ケル最高官ナハ朝鮮總督ニシテ台湾ニ於テは樺太地位ニアルモノハ台湾總督ナリ、朝鮮總督及ヒ台湾總督ハ稍々英國ノ王領殖民地ノ太守ニ似タル地位ヲ有ス、ソノ权限極メテ広ク殊ニソノ著シキ特色ハ總督ハ陸海軍ヲ統帥スルノ權ト行政及ヒ立法ノ權トヲ併セ有スルコトモアリ、内地ノ政治組織ニ於テハ政治上ノ官職ト軍事上ノ官職トハ明ニ區別セラレ政治ノ权限ヲ有スルモノガ全時ニ軍隊ヲ指揮スルノ權アルコトハ内地ニ於テハ全ク之レヲ認ムルコトナシ独リ殖民地ニ於テハ此一般原則ニ反シテ政治ヲ管轄スルモノカ全時ニ陸海軍ヲ指揮統帥スルノ权限ヲ有スルモノニシテ朝鮮總督、台湾總督ハ何レモ行政官ナト共ニ軍司令官タルノ地位ヲ有スルモノナリ、從テ總督ハ陸海軍ノ大將又ハ中將ヲ以テ之レニ任スルコト



トヲ必要トセリ

三四八

朝鮮總督及ヒ台湾總督ノ職務权限ハ概テ左ノ如シ

(1) 勅裁ヲ經テ又ハ緊急ノ場合ニハ勅裁ヲ經スシテ命令又ハ律令ヲ發スルノ權

制定又ハ律令ノ性質ハ曾テ之ヲ述ヘタリ、法律ヲ要スル事項ヲ規定スル命令ニシテ朝鮮又ハ台湾ニノミ、ソノ效力ヲ有スルモノナリ

(2) 軍隊統率权及ヒ軍政權

是レ總督カ一般行政官ナト其地位ヲ異ニスル最モ重大ナル点ニシテ總督府官制ニハ總督カ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率スト云ヒ又總督ハ軍政ニ于シテハ陸海軍大臣軍事上ノ行動ニ付テハ參謀總長又ハ海軍々令部長、陸軍々隊ノ教育ニ付テハ教育總監ノ指揮ヲ受クヘキコトヲ定ムソ、他尚ホ總督ハソノ管轄區域内ノ防備ノコトヲ司ルト云ヒ又總督ハソノ管轄區域内ノ屯警秩序ヲ保持スル

カタメニ必要ト認ムルトキ兵力ヲ使用ストルヲ得ト云ヘリ、朝鮮又ハ台湾ノ守備軍司令官ハ總督ノ下ニ隸屬スルモノニシテ軍隊ノ行動ニ付テハ常ニ總督ノ指揮ヲ受ク

(3) 總督府令ヲ發スルノ權

總督ハソノ職權ニヨリ又ハ特別ノ委任ニヨリ總督府令ヲ發スルノ權ヲ有ス、總督府令ハ内地ニ於テハ勅令及ヒ省令ニ相当スヘキモノニシテ之レニ附スルヲ得ヘキ罰則モ亦内地ニ於ケル勅令ト全一ノ程度ニ及フコトヲ許サレ

(4) 管内ニ於ケル一切ノ行政ヲ担任スルノ權

内地ノ府縣ニ於テハ府縣知事ノ权限ハ比較的限ラレタルモノニシテ關稅ソノ他ノ回稅、專売、鐵道、郵便、電信、鉱山監督、林務監督、監獄、米穀、事務ハ知事ノ权限ニ屬セスシテ別ニ特別官ナラ置カレ、ニ反シテ朝鮮、台湾ニ於ケル此ホ一切ノ行政ハ皆テ總督ノ权限ニ屬スルモノニシテ總督ヨリ獨立セル特別ノ官ナノ有スルモノナ

三四九



(5) 下級官ヲ指揮監督シ部下ノ官吏ニ対スル身分上ノ監督ヲ行フコ

ト  
總督府ノ組織

總督府ノ組織ノ詳細ハ今詳カニ之レヲ述ヘス、ソノ組織ハ朝鮮總督府ヲ台湾總督府ヨリハ迥クニ大規模ニシテ朝鮮總督府ハ總督官房ノ外ニ牧局アリ、右述ス

地方制度ニ付テハ台湾ノ地方制度ハ屢々改正セラレ現行ノ制度ハ總督府ノ下ニ台湾ノ全体ヲ十二ノオニ命テオニハオ長アリテ其ノ一切行政ヲ管轄ス、オハ内地ノ府県ヨリハ稍々狭ク郡ヨリハ広キモノナリ、朝鮮ノ地方制度ハ總督府ノ下ニ全管内ヲ十三道ニ分ツ之レ旧來ノ韓國時代ノ地方制度ヲ繼承セルモノナリ、各道ハ之レヲ府県及ヒ郡ニ區別シ、府及ヒ郡ハ更ニ之レヲ面ニ區別ス面ハ内地ノ町村ニ相当ス、不完全ナル程度ノ自治組織ヲ有ス、台

湾ノ地方官ハ最下級ニ於ケルモノ、外ハ概テ日本人ヲ用エト虽モ朝鮮ニ於テハ日本人ト朝鮮人トヲ併用シテ道長官ハ略ホ相半ハセシモノ郡守ニ至リテハ悉ク朝鮮人ヲ用フ、郡守ハ郡ノ長官ナリ、府ノ長ハ府ヲト云フ、府ハ各道合セテ十二アリ、郡ハ合セテ三百十七アリ

朝鮮ノ行政組織ニ付テハ一言スヘキハ警察制度ナリ、朝鮮ノ警察概テハ二ノ系統ニ分ル、一ハ憲兵ニシテ一ハ警察官ナリ、最下級ニ於テハ憲兵ト警察法トハ相分高ク、且上級ニ於テハ憲法カ合時ニ警察法タリ、即チ警察ノ最高概テタル警務總長ハ朝鮮駐劄ノ憲兵司令部長タル將官カソノ地位ニ當リ地方ノ警察官タル各道ノ警務長ハ各道駐劄ノ憲兵司令官タル憲兵佐官カソノ地位ニ當ル、即チ大体ニ付テ去ヘハ朝鮮ノ警察官ハ憲兵ノ手ニアリト云フヲ得ヘク憲兵司令官ハ警務總長ナリ、又各道ノ警務長タルモノニシテソノ部下ノ憲兵ヲ指揮スルト共ニ又一概警察官ヲ指揮監督ス



ルナリ、コノ制度ハ朝鮮併合故韓国ハ警察权カ日本ニ委任セラレ  
タルニ際シ従来ノ文官組織ノ警察制度ヲ改メテ憲兵カ警察权ヲ掌  
握スルコトトシテ以テ今日ニ至レルモノナリ  
樺太ノ制度ハ朝鮮及ヒ台湾トハ異ナリ略々北海道ノ制度  
ニ类ス、樺太ノ最高ノ地方官ナハ樺太ノ長官ニシテ総理大臣ノ指  
揮監督ヲ受ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ監理シ長官々房  
ノ外第一部ヨリ第三部ニ至ルノ三部アリ、長官ノ下ニ於ケル第二  
次ノ地方区劃ハ支庁ニシテ全管内ヲ五支庁ニ分ツ  
関東州ニ於テハ関東都督府アリ、関東都督府ノ長官タリ、関東州  
ヲ管轄シ並ヒニ南滿州ニ於ケル鉄道線路ノ保護及ヒ取締ノ事ヲ司  
ル、南滿鐵道会社ノ業務ヲ監督ス、陸軍大将又ハ中將ヲ以テ之レ  
ニ充ツ、都督官房ノ外民政部及ヒ陸軍部ノ二部アリ、全管内ヲ二  
區ニ分ケ各區ニ民政署ヲ置ク、民政署長ソノ長官タリ、樞要ノ地  
ニ民政支署ヲ置ク

三五二

### 第四章 官吏法

#### 第一節 官吏ノ性質及ヒ種類

國家ノ凡テノ事務ハ憲法ニヨリテ特ニ議會ノ議決ヲ要スルモノ、外  
ハ凡ヘテ天皇ノ總攬シ給フ所ニシテ天皇ノ下ニ之ホノ事務ヲ行ハシ  
ムルカ爲メニ數多ノ機子ヲ置キ以テ之ヲ分掌セシム、之ホノ機子ハ  
或ハ官ナタルアリ、或ハ官ナク補助機子タルアリ、或ハ公ノ營造物  
タルアリ、何レモ天皇ノ下ニ隷屬シ天皇ノ機子トシテ其命セラレタ  
ル事務ヲ担任スルナリ、之ホノ内公ノ營造物ニ付テハ各論篇ニ於テ  
別ニ之ヲ論スヘク官ナクヒソノ補助機子ニ付テハ前章ニ之ヲ述ヘタ  
リ、公ノ營造物又ハ官ナクヒソノ補助機子ノ地位ニ當レルモノハ即  
チ官吏ニシテ官吏ハ何人トシテ國家ニ對シテ種々ノ権利ヲ有シ義務  
ヲ負担セリ、本章ハ即チ官吏カ國家ニ對シテ有スル法律ヲ係テ論ス  
ルコトヲ目的トスルモノナリ、官吏カ國家ニ對シテ有スル法律ヲ係

三五三



ハ之ヲ民法上ノ子係ニ比較スレハ恰モ雇傭子係ニ相当ス、之ヲ稱シ  
シテ公法上ノ服務子係ト云フヲ得ヘク若シ之レヲ民法上ノ子係ト混  
合スルノ恐レナキナラハ或ハ公法上ノ雇傭子係ト稱スルヲ妨ケス、  
官吏ノ法律子係ヲ論スルハ即チ此公法上ノ服務子係ノ性質内容其發  
生及ヒ消滅原因ヲ論セントスルモノナリ

官吏トハ國家ノ特別ノ選任ニヨリ國家ニ對シテ公法上ノ服務子係ニ  
立ツモノヲ云フ、公法上ノ服務子係トハ國家ニ對シテ忠誠ニ一途ノ範  
圍ニ於テハ予メソノ分量ヲ限定セラレサル特定ノ種類ノ勞務ニ限ス  
ヘキ公法上ノ義務ヲ負フノ子係ト云フ、故ニ一言ヲ以テ官吏ヲ定義  
スレハ

「官吏トハ國家ノ特別ノ選任ニヨリ國家ニ對シテ忠誠ニ一途ノ範圍ニ於  
テハ予メ分量ヲ限ラレサル特定ノ種類ノ勞務ニ限スヘキ公法上ノ義  
務ヲ負フモノナリ」  
ト云フヲ得ヘシ

第一官吏ハ國家ニ對シテ公法上ノ勞務ノ義務ヲ負フモノナリ、故

官吏子係ハ第一ニ之ヲ私法上ノ服務子係ト區別スルコトヲ要ス、  
國家ハソノ事務ヲ担任セシムルカ爲メニ私法上ノ契約ニヨリテ勞  
務ノ義務ヲ負ハシムルコトヲナカラス、例ヘハ國家ト職工人夫ヲ  
使用シ印刷局ニ於テ印刷職工ヲ郵便局ニ於テ集配人ヲ、鐵道院ニ  
於テ鐵道工夫ヲ使用スルカ如キ何レモ私法上ノ契約ニ限ルモノニ  
シテソノ間ニ公法上ノ子係ヲ生スルコトナリ、從テ官吏ニアラス  
私法上ノ雇傭子係ト官吏子係ト異ナル所ハ多クノ學者ノ主張ス  
ルカ如ク

一ハ平手子係タリ、一ハ叔力子係タルノ差異ニ基クモノニアラス  
職工人夫ノ如キ單ニ私法上ノ子係ニアルモノト雖モソノ國家ノ使  
用主トシテ叔力ニ限スルモノナルコトニ於テハ官吏ト異ナルコト  
ナシ、ソノ區別ノアル所ハ又ソノ担任スル事務ノ種類ニアルコト  
ラス、全一ノ性質ヲ有スル事務ヲ担任スルモノト雖モ或ハ單ニ私法



上ノ于係ニアルモノアリ、或ハ官吏トシテ公法上ノ于係ニ立ツモ  
ノアリ、例ハ大学教授ト外人教師、属官ト寫字生、訴訟手続  
ニ於テ國ヲ代表スル官吏ト國ノ訴訟代理タル弁護士ト如キソノ  
担任スル事務ハ全様ナレバ一ハ官吏タリ一ハ私法上ノ于係ニアル  
モノナリ、兩者ノ區別ノ存スル所ハ專ラソノ義務ノ性質ニアリ、  
私法上ノ義務于係ハ單純ナル經濟上ノ給付于係ニシテ國家ハ只私  
經濟ノ主体トシテ義務ノ給付ヲ要求シ之ニ對スル報酬ヲ給与ス  
ルニ止マリソノ間ニ全ク統治權ノ發動ヲ認ムルコトヲ得ス、  
公法上ノ義務于係ハ反之單純ナル義務ノ給付ノミヲ以テソノ内容  
トナスモノニアラス、特別ノ忠誠ノ義務ヲ伴フモノニシテ其于係  
ハ單ニ經濟上ノ于係ニ止マラス倫理的ノ要素ヲ包含スルモノナリ  
Tabernaerカ官吏于係ヲ以テ封建時代ニ於ケル武家ノ主君ト  
係トナセルハ此ノ理由ニヨルモノナリ、封建時代ニ於ケル主君ト  
臣下トノ于係ハ單ニ經濟上ノ義務、給付ノ于係ニ止マラスシテ臣

下ハ一躬ヲ奉ヒテ君主ニ忠實ナルノ義務ヲ負ヒ主君ノ側ヨリハ之  
レヲ保護スルノ義務アリ、此倫理上ノ性質カ主君于係ノ要點タリ  
シナリ、官吏于係モ亦斯クノ如キ特別ノ忠實ノ義務ヲ伴フコトニ  
於テ恰モ之レト性質ヲ全シクス、官吏ハ單ニ義務ヲ給付スルノミ  
ヲ以テソノ義務ヲ全フスルモノニアラス、ソノ一躬ヲ奉ヒテ國家  
及ヒ君主ニ忠實ナルヘキヲ要スルノ義務ヲ負フモノナリ、單純ナ  
ル私經濟的于係ハ假令國家カソノ于係ノ主体タル場合ト虽モ今日  
ノ一般法律思想ニ於テハ私益ノ于係ト見做サル、命令強制ノ效力  
ニヨル場合ノ外ハ一般ニ私法上ノ于係トシテ取扱ハルコトハ曾  
テ述ヘタルカ如シ、職工人夫其他國家ニ對シテ單ニ經濟上ノ義務  
給付ノ義務ヲ負ヘルモノカ公法上ノ于係ニアラスシテ私法上ノ在  
備于係ニ立ツモノト見做サルハ此理由ニヨルナリ  
官吏于係ハ之ト異ナリ單純ナル私經濟的于係ニアルモノニアラス  
シテ一躬ヲ奉ヒテ忠實ニ義務ニ服スヘキ義務ヲ負フモノナリ、其



私法上ノ子係ニアラスシテ公法上ノ子係トセラル、所以ニ專ラ此ノ理由ニヨルナリ

公法上ノ子係ニ於テ國家ニ對シテ勞務ニ服スルノ義務ヲ負フモノト  
雖モ必スシモ皆官吏タルニハアラス、公法上ノ子係ニ於テモ單純  
ナル勞務給付ノ義務ヲ負フニ止マリ忠實ノ義務ヲ伴ハサルモノハ  
亦目スルニ官吏ヲ以テスルコトヲ得サルモノナリ

例ヘハ徵發令ニヨリテ徵發セラル、人夫ハ國家ニ對シテ勞務ノ義  
務ヲ負ヒ且ツ其義務ハ公法上ノ義務ナリト雖モ其義務ノ公法的性  
質ヲ有スル所ハ只ソノ義務カ契約ニ基カスシテ命令權ニヨリテ  
強制セラルモノナルコトニシテ基クモノニシテソノ義務ノ内容  
ハ私法上ノ子係トシテ單純ナル經濟上ノ勞務給付ノ子係ニシテ  
止マリ倫理的ノ要素ヲ包含スルコトナシ、徒テ此点ニ於テ官吏ノ  
如キ公法上ノ服務子係ト異ナルモノナリ  
帝國議會ノ議員モ亦一定ノ範圍ニ於テ國家ノ事務ヲ担任スルノ義

務ヲ負フモノナリト雖モ又官吏ニアラス、ソノ官吏ト異ナル所以  
ハ議員ハ國民ノ代表議員トシテ國權ニ參與スルノ權利アルモノト  
シテソノ國家事務ヲ担任スルハ國民ノ參政權ノ結果ニ外ナラス固  
ヨリ參政ノ權利ト同時ニ參政ノ義務タルコトハ曾テ述ヘタルカ如  
ク議員モ亦參政權ヲ有スルト共ニ參政ノ義務ヲ負フモノナリト雖  
モ議員ノ負フ所ノ義務ハ只ソノ權利ヨリ生スル徒タル結果ニシテ  
其子係ノ主要ノ要素ハソノ權利ニアリ官吏ニアリテハ之レニ反シ  
服務ノ義務カソノ子係ノ主要ノ要素ニシテ官吏ノ有スル權利ハ只  
ソノ義務ニ基ク徒タル結果ニスキス、議員ノ官吏ト異ナル所ハ專  
ラコノ点ニアルナリ

第二官吏ハ一定ノ範圍ニ於テハ予メソノ分量ヲ限ラレサル勞務ノ義  
務ヲ負擔スルモノナリ  
ソノ担任スル勞務ハ元ヨリ無制限ナルモノニハアラス、一定ノ範  
圍ヲ限ラレヒソノ範圍内ニ於テ行フヘキ行為ハ予メ一定ノ數量



ヲ限ラル、モノニアラス。此点ニ於テ官吏關係ハ恰モ民法上ノ  
備子係ニ異レ而シテ民法上ニ謂及子係ト異ナルモノナリ  
限ラレタル個々ノ特定ノ行為ヲ担任スルノ義務ヲ負フニ止マルモ  
ハ官吏タルモノニハアラサルナリ、例ヘハ選挙法ニヨル選挙立  
合人、破産法ニヨル破産管財人ノ如キハ公ノ職務ヲ担任スルモノ  
ナレド官吏子係ニアルモノニアラス、ソノ子係ハ單純ナル私経済  
子係ニハアラスシテ公法上ノ子係タルヲ失ハスト雖モソノ  
担任スル所ハ予メ分量ヲ限ラレタル特定ノ行為ニ止マルモノ  
ニ於テ官吏子係トソノ性質ヲ異ニスルモノナリ、各種ノ試験委員  
法律取調委員其他数種ノ委員モ亦其他ノ職務ニ於テ官吏タルモノ  
カ之レニ任スルモノ、外ハ亦全一ノ理由ニヨリテ官吏ニアラス。  
第三官吏ハ國家ニ對シテ勞務ニ服スルノ義務ヲ負フモノナリト雖モ  
官吏ハ必スシモ現ニ勞務ヲ担任スルモノナルコトヲ要スルモノニ  
アラス。

官吏ハ素ヨリ原則トシテハ一是ノ職務ヲ担任スルモノナレトモ職  
務ノ担任ト官吏タル地位トハ必スシモ分離スヘカラスルモノニハ  
アラス、時トシテハ已ニ官吏ニ任セラレタルモノニシテ未ダ職務  
ヲ担任セサルコトアリ、一方ニ於テハ職務ノ担任ハ免セラレテ官  
吏子係ハ尚ホ存続スルコトアリ、官吏ノ觀念ニ必要ナル所ハ只勞  
務ニ服スヘキ義務ヲ負ヘルコトニアリテ現ニ職務ヲ担任セルコト  
ニハアラスナリ、凡テ官吏ハ皆職務ノ義務ヲ負フト雖モソノ  
職務ノ義務ハ時トシテハ只他日職務ノ担任ヲ命セラレタル場合ニ  
於テ之ヲ担任スヘキ義務タルニ止マリ現在ニ於テハ何オノ職務ヲ  
担任セズ、從テ現ニ勞務ニ服スルモノニアラサルコトマルヲ妨ケ  
セサルナリ、官吏ニ任スル行為ト職務ノ担任ヲ命スル行為トハ如  
斯相分離シテ行ハルコトヲ得、コノ分離シテ行ハル、場合ニハ  
通常故者ヲ任官ト云ヒ右ヲ補職ト云フ  
例ハ判事ニ任スルハ任官行為ナリ、未ダ職務ノ担任ヲ生セス某



裁判所ノ判事ニ補セラル、ニヨリテ始メテ職務ノ担任ヲ生ス、官  
吏カ休職ヲ命セラルレハ職務ノ担任ハ消滅シ官吏ヲ保ノミハ尚ホ  
存続ス

第四官吏ハ國家ニ對シテ勞務ノ義務ヲ負擔スト、且モ其ノ担任スル所  
ノ職務ハ必スモ國家自身ノ事務タルコトヲ要セス  
官吏ハ素ヨリ原則トシテハ國家ノ事務ヲ担任セシムルカタメニ專  
任セラル、モノニシテソノ担任スル職務ハ通常ハ國家ノ事務タル  
コトヲ云フヲ待タスト、且モ時トシテハ官吏ハ國家ノ事務ヲ担任セ  
スレテ却テ自治団体ノ事務ヲ負擔スルモノナリ、時トシテハ國家  
ノ事務ト自治団体ノ事務トノ双方ヲ担任スルコトアリ、府県知事  
郡長、如キハ右者ノ例ナリ、市町村長ホ、又ケル場合ニ於テ臨時  
市町村長ホノ職務ヲ掌管スル官吏、如キハ右者ノ例ナリ、之レホ  
ノ場合ニ於テハ國家ノ官吏カソノ官吏タル地位ニ於テ自治団体ノ  
事務ヲ担任スルモノニシテソノ職務ハ自治団体ノ事務タルコトハ

英國ノ官吏タルコトヲ考クルモノニアラス

官吏ノ概念ノ要點ハ國家ニ對シテ服務ノ義務ヲ負フコトニアリテ  
ソノ職務ノ種類ニアラス、自治団体ノ事務ヲ職務トナスト、且モ若  
シソノ職務カ自治体ニ對スル義務トシテ行フモノニアラスレテ國  
家ニ對スル義務トシテ行フモノナルハゴシク國家ノ官吏ニシテ  
自治体ノ吏員ニアラス

官吏ノ職務義務ノ内容ハ、又時トシテハ、國家若シクハ自治体ノ事務  
ヲ担任スルコトニアラスレテ却テ自己ヲ教育スルコトニアルコト  
アリ、外國留學中ノ官吏、如キハ現ニ公ノ職務ヲ担任スルモノニ  
アラス、只將來其職務ヲ行フニ適當ナルヘキ知識ヲ得ルカ爲メニ教  
育ヲ受ケレノラル、モノナリ、コノ場合ニ於テハ教育ヲ受クルコ  
トカ國家ニ對スル服務義務ノ内容タルモノナリ、其他文官ノ試補  
及ヒ見習、司法官試補、如キモ他日公ノ職務ヲ担任スルカ爲メニ  
事務ヲ練習スルモノニシテ又オシク官吏タルヲ失ハサルモノナリ



第五官吏ハ國家ノ特別ノ選任ニヨリテ國家ニ對シ服務ノ義務ヲ負フ

モノナリ

ソノ國家ノ特別ノ選任ニヨルモノナルニ於テ官吏ハ兵卒ト區別セラルル、國家ニ對シテ公法上ノ服務義務ヲ負フモノナルコトニ於テハ兵卒モ亦官吏ト全クソノ地位ヲ全シクス、只兵卒ハ國民ノ法律上当然ノ義務ニ基キテ其地位ニ就クモノニシテ國家ノ特別ノ選任ニ基クモノニアラス、ソノ義務ハ一般臣民タル地位ニ基キテ当然ニ發生スルモノナルナリ、故ニ將校下士官ハ官吏ナレトモ兵卒ハ官吏ニアラス、志願兵ト雖モ又全シ、志願兵ハ只法律上ノ兵役義務ヲ充ス為メノ一変取タルニスキサルモノナレハナリ  
要之官吏ノ看念ヲ定ムヘキ要素ハ國家ニ對シテ服務ニ服スルノ義務ヲ負擔スルコトソノ義務ハ私經濟的ノ義務ニアラスシテ倫理的要素ニ包含スル公法上ノ義務ナルコト、ソノ義務ノ内容ハ何々ノ特定ノ行為ヲナスコトニハアラスシテ國家ノ命スル所ニ從ヒ豫メ

二六四

分量ヲ限ラレサル特定ノ種類ノ義務ニ服スルコトニアルコトソノ義務ハ一般臣民タル地位ニ基ク当然ノ義務ニアラスシテ國家ノ特別ノ選任ニ基キテ生スルモノナルコトハ、四點ニアルナリ  
此以外ニ於テ官吏タル地位ニ伴フ通常ノ屬性ハ只ソノ常素タルニ止マリソノ要素タルモノニハアラス、例ヘハ官吏ハ通常任命ニヨリテソノ地位ニ就クト雖モ選任ニヨリテ就任スルコトモ亦官吏タル地位ヲ妨クルモノニハアラス、君主國ニ於テハ官吏ノ任命ハ専ラ君主ノ大權ニ服スルヲ以テ官吏ハ任命ニヨリ就任スルコトヲ通常トスルハ勿論ナレモ君主ノ任命大權ハ素ヨリ之レヲ他ノ機子ニ委任セラレ、テ得ヘク從ツテ之レヲ合議體ニ委任シ合議體ニシテ之レヲ選任タルコトアルモ亦ソノ選任カ君主ノ大權ニ源ヲ發スルモノナルコトヲ失ハサルナリ、一方ニ於テハ君主ノ任命ニヨリテ公務ヲ担任スル者ト雖モ必スシモ皆官吏タルニアラス、例ヘハ貴族院ノ勅選該員貴族院衆議院ノ議長、副議長ノ如シ、勅任ニヨリ

三六五



テソノ任ニ就クト虽モ素ヨリ官吏タルモノニハアラス、サレハ我  
 カ國ノ学者カ住々官吏ヲ是裁シテ任命ニヨリテ公務ヲ奉スルモ  
 ノナリト云フ者アルハ金ク誤ナリ  
 官吏ハ又通常國家ヨリ俸給ヲ受クルモノナレトモ俸給モ亦官吏ニ  
 及クヘカラサル要素ニアラス、時トシテハ官吏トシテ金ク無給ナ  
 ルモノアリ、外國留學中ノ官吏、外國ニ居ル中ノ官吏ノ如キ現  
 ニ在職中ニアラサル官吏カ俸給ヲ受ケサルハ勿論在職中ノ官吏ト  
 虽モ例ヘハ三才郵便局長ハ俸給ヲ受ケス、又寺堂ヲ受クルニ止マ  
 ルモ官吏タルヲ失ハス、或ハ國家ヨリ俸給ヲ受ケスシテ他ノ團體  
 ヲリ支給セラルルモノアリ、例ヘハ郡居託ノ俸給ハ府果費ヨリ支  
 給シ、公立學校職員ノ俸給ハ府果又ハソノ他ノ自治團體ヨリ支  
 給スルモオシク國家ノ官吏タルコトヲ失ハス  
 以上述ヘタル所ハ官吏ヲソノ性質上ヨリ説明セルモノニシテ必ス  
 シモ現在ノ制度ニ於テ官吏ト見做サル、モノヲ説明スルニハ非ス

法律命令ノ用語ニ於テ官吏ト云フハ概テソノ法律命令ニ特別ナル  
 意義ニ用ヒラルルモノニシテ各種ノ法律命令ニ付テ適當ニ之レヲ  
 鮮明スルコトヲ要ス、現在ノ法令ニ於テ官吏ト云ハルハ概シテ云  
 ヘハ高才官又ハ判任官ノ身分ヲ有スル者ヲノミ指称スルノ意ニ用  
 フルヲ通常トナスカ如シ、高才官、判任官ノ如キヲ有セサルモノ  
 ト虽モ性質上ハ尚ホ國ノ官吏タルヲ失ハサルモノアレモ法律命令ノ用  
 語ニ於テハ通常之レヲ官吏ト見做サ、ルナリ  
 官吏ニハ斯ノ如ク高才官又ハ判任官ノ官オヲ有スルモノト然ラサ  
 ルモノトノ區別アルニヨリテ官吏ハ之レヲ左ノ三種ニ區別スルコ  
 トヲ得

一一定ノ官オヲ有スルモノ

官吏ハ勅任、奏任、判任ノ階級ニ區別セラレ勅任官及ヒ奏任官ヲ概シ  
 テ高才官ト称ス法律命令ニ於テ官吏ト云フハ通常此ノ何レカノ官  
 オヲ有スルモノ、ミテ意味ス官吏ニ于スル一般ノ規定ハ特ニ反對



一定ノ場合ノ外概テ此様ニ官吏ノモニ適用セラル、ナリ。  
ニ高才英官又ハ判任官ノ待遇ヲ受ケル者

一定ノ官オテ有セタル官吏ノ中ニハ別ニ勅令ノ規定ニヨリテ高才  
官又ハ判任官待遇トセラル、モノアリ、法令ニ於テハ通常之レヲ  
待遇官吏ト称ス、例ヘハ名誉領事、名誉副領事ハ委任待遇ニシテ  
公立学校ノ職員自治団体ヨリ得テ充テラル、官吏ハ概テ委  
任又ハ判任待遇トセラル、  
巡查着守ハ判任待遇ナリ

三一定ノ官オテ有セズ又ソノ待遇ヲモ受ケサル者

コノ種ニ属スルモノハ執達吏及ヒ公証人並ニ判任官ヨリモ一層下  
級ノ職務ヲ担任スルニヨリ官オノ外ニ置カレ、モノナリ、(オ外官

以吏)  
上ノ类别ノ外ニ官吏ハソノ担任スル職務ニヨリ文官、武官及ヒ宮内  
官ノ三種ヲ区別スルヲ得、ヘク文官ニハ更ニ行政官、司法官、外交官  
領事官、教官、技術官オノ区別アリ、武官ニハ陸軍武官、海軍武官

ノ別アリ、各ソノ種類ニ依リテ任用分限懲戒官オ俸給オニ付スル規  
定ヲ異ニス

### 第二節 官吏ノ係ノ成立

#### 第一 官吏ノ任命 (Appointment)

官吏ノ係ハ國家ノ特別ノ選任ニヨリテ成立スルモノニシテソノ係  
係ヲ決定スル行為ヲ任命ト云フ、任命行為ノ法律上ノ性質ニ付テ  
ハ官吏ノ係ノ公法上ノ公法性タルコトカ明瞭ニ認識セラレサリ、時代ニ  
於テハ私法上ノ雇傭契約ト同一視セラル、私法上ノ法律行為ト看  
做セラレタリシカリ、公法上ノ公法性ノ明カニ認めラル、ニ至  
リテ右ハ任命行為モ亦私法上ノ行為ニハアラス、テ公法上ノ行為  
ナルコトハ一敏ニ承認セラル、ニ至レリ、公法上ノ法律ノ係ハ私  
法上ノ行為ニヨリテハ設定セラル、モノニハアラス、ハナリ



任官行為が公法上の行為タルコトハ如斯ク等シテ入レサル所ナレ  
トモソノ國家ノ一方的行為ナルヤ否ヤ又ハ國家ト出申者トノ合意  
ニヨル双方的行為ナリヤノ點ニ付テハ今日ニ於テモ學說甚ク區々  
タリ素ヨリ任官行為が國家ノ單獨行為ナルコトヲ主張スル學者ト  
虽氏國家カ本人ノ意思ニ反シテ一方的ニ官吏タルコトヲ強制シ得  
ヘシト云フニハアラス官吏ノ係ハ兵役義務ノ係トハ異ナリ、一  
般臣民ノ法律上当然ニ負擔スル所ノ義務ニアラス、國家カ官吏ヲ  
任命スルハ常ニ本人ノ合意アルコトヲ前提トスルモノニシテ兵役  
義務ノ如ク本人ノ意思ニ于ハラス強制シテ其任ニ就カシムルヲ得  
ヘキモノニアラサルコトハ何人モ異議ナキ所ナリ、然ルニモ拘ハ  
ラス者ヲノ學者カ出任官行為ヲ以テ國家ノ一方的行為ナリト主張  
スル所以ハ本人ノ合意ハ任官行為ノ成立要素ニアラスシテ唯任命  
ノ行ハルヘキ條件ニスキストナリ之ガノ學者カ曾テ述ヘタル  
如ク國家ト臣民トノ間ニハ公法上ノ契約アリ得ヘカラサルコトヲ

主權ノ契約ハ只對オナル當事者間ニ於テノニ存在スルヲ得ヘク國  
家ト臣民トノ如キ不對オナル係ニ於テハ常ニ國家ノ意思ニヨリ  
テソノ法律ノ係カ定マルヘキモノニシテ相手方トノ合意ニヨリテ  
定マルモノニアラス、相手方ノ意思ハ只國家ノ意思ニ懇懇スル故  
ニ條件タルニスキヤ<sup>トナ</sup>ナリ、之レオノ學者ハ斯ノ如キ國家ノ行為  
ヲ稱シテ相手方ノ合意ヲ條件トスル行政処分ナリト云レ而シテ任  
官行為モ亦如斯キ種類ノ行為ニ屬ストナス  
併シ公法上ノ係ニ於テモ國家ト個人トノ間ニ契約ノ成立ヲ妨ケ  
サルコトハ曾テ述ヘタルカ如シ、國家ノ権力ハ無制限ナル力カニ  
ハアラス、今日ノ國法ノ下ニ於テハ國家カ臣民ニ對シテ特別ノ義  
務ヲ負ハシムルコトヲ得ルハ只法ノ認ムル範圍ニノミ限ラレソノ  
範圍外ニ於テ臣民ニ特別ノ義務ヲ負ハシムルハ唯當事者ノ承諾ニ  
ヨリテノミナスヲ得ヘキコトハ一般ニ論争ハレサル所ナリ、法ニ  
ヨリテ認メラレタル範圍外ニ於テハ各人ハ國家ヨリ侵サレサル自



由故ヲ有ス、自由故ノ範圍内ニ於テハ國家ハソノ單獨ノ意思モヨ  
リテハ臣民ニ命令スルノ故カヲ有スルコトナリ此範圍ニ於テハ臣  
人ハ服従者ノ地位ニアルノニアラサレハナリ、サレバ此範圍ニ於  
ケル國家ト臣民トノ于係ハ最早故カ者ト服従者トノ于係ヲ以テ論  
スルコトヲ得サルモノニシテ之レニ對シテ特別ノ義務ヲ負ハシム  
ルニハ只契約ニヨルノ外ナシ、若シ法律ヲ以テ官吏于係ヲモ兵仗  
義務如ク一賦ノ臣民ノ當出然負担スヘキ義務ト定ムルナラハ官吏  
于係ハ國家ノ單獨ノ意思ニヨリテ之レヲ設定スルヲ得ヘシト雖モ  
今日ノ國法ハ元ヨリ官吏タルノ義務ヲ強制スルノ規定ヲ設クルコ  
トナク其于係ハ只契約ニヨリテ之レヲ設定スルヲ得ヘキモノナリ、  
要之官吏于係ヲ故定スル行為ハ國家ト受任者トノ双方ノ合意ニヨリ  
テ成立スル公法上ノ行為ナリ、換言スレバ所謂公法上ノ契約ノ一種  
ナリ、ソノ行為ノ成立スルニハ當事双方ノ意思表示アルコトヲ要ス  
ソノ國家ノ側ヨリノ意思表示ハ書面ニヨリテ行ハル、ヲ通常トナシ

ソノ局面ヲ詳令層ト稱ス、受任者ノ側ヨリスル意思表示ニ付テハ之  
レニ反シ一走ノ局面ヲ以テ形式的ニ之ヲ表明スルコトナリ從ツテ何  
レノトキニソノ表示アリタリト見ルヘキカハ必スレモ明瞭ナリトセ  
ス、  
任官行為ヲ以テ國家ノ單獨行為ナリトスル學說ノ生スル所以ヲ思フ  
ニ主トシテコノ理由ニヨルナリ、普通ノ契約ニアリテハ若シ局面ヲ  
以テソノ契約ヲ締結スル場合ニ於テハ當事者双方カオシクソノ局面  
ニ署名スルヲ通常トスルニ反シテ官吏任命ノ詳令層ハ國家ノ意思  
思表示ニシテ只國家ノ機子ノミカ之ニ署名スルニ止マリ受任者タル  
相手方ハ之レニ署名スルモノニアラス、從テ其形式ヨリ去ヘハ任官  
行為ハ國家ノ單獨行為ナリトスルノ說ハ一應ノ理由アルモノ、如シ  
件ニカクノ如キ任命ノ形式ハ敢テ單ニ國家ノ官吏ニノ之特有ナルモ  
ノニアラス、私立会社ノ如キニアリテモ稍々大ナル会社ニ於テソノ  
使用人ヲ任用スルニハ全ク同様ノ形式ニヨルモノナリトセズ、而



カモ私立会社ニ於ケル使用人ノ任用カ契約ナルコトハ元ヨリ去リテ  
 俵タサレナリ、蓋シ契約ヲ締結スル局面ニ於テ當事者ノ双方カホレ  
 フ之レニ署名スルコトハ必スシモ契約ニ必要ナル形式要件ト去リ  
 テ得ス、契約ノ成立スルハ又當事者双方ノ意思カ何レカノ形ニ於テ  
 表示セラル、ヲ以テ足レリトナシ必スシモソノ双方カ同一ノ形式ヲ  
 以テ表示セラル、ヲ要スルモノニアラス、官吏ノ任命ニアリテハ國  
 家ノ意思表示ハ各面ニヨリテ行ハル、ニ反レテ委任者ノ意思表示ハ  
 各面ニアラスト虽モ之レ敢テソノ契約タルコトヲ妨ケルモノニアラ  
 ス、受任者ノ意思ニ辭令各ノ交附故ニ已ニ表示セラル、モノニシテ  
 國家カ或者ヲ官吏ニ任セントスルハ予メ本人ニ對シテソノ受任ヲ  
 承諾スルノ意思アリヤ否ヤヲ交渉シ本人カ之レヲ承諾スルノ意思ヲ  
 表示シタル場合ニ於テ國家ハ始メテ辭令各ヲ發スルナリ、サレハ表  
 クノ學者カ辭令各ノ交附ヲ以テ契約ノ申込ナリトナシ受任者カ辭令  
 各ヲ受領スルコトヲ以テソノ承諾ナリトナシ、受任者カ之レヲ受取ル

コトニヨリテ契約カ成立ストナスモノアルハ思フニ正当ノ說明ハニ  
 アラス、申込ノ受領カ直チニ承諾ノ意思表示ナリト見做スハ穩當ナ  
 ル説明ト去リコト得サルハ勿論ニシテ若シ辭令各ノ交附カ申込ナリ  
 トセハソノ受領ノ旨ニ於テ之レニ對スル承諾ノ意思表示ナカルハカ  
 ラス、然ルニ實際ノ慣例ニ於テハ辭令各ニ對シテ受任者ハ特ニ承諾  
 ノ意思表示ヲナスコトナリ、辭令各ノ交附ニヨリテ當然官吏ノ係カ成  
 立スルモノトセラル、ハ辭令各ノ交附カ申込ノ性質ヲ有スルモノニ  
 アラスシテ受任者ノ意見ハ辭令各ヲ發スル故ニ於テ既ニ表示セラレ  
 タリト認メラル、ニヨルナリ

隔地者ニ對スル任命

任命ハ辭令各ノ交附ニヨリテ成立スルコトハ上述ノ如シ辭令各カ  
 隔地者ニ對シテ發送セラル、場合ニ於テハ隔地者間ニ於ケル意思  
 表示ノ一般原則ニ從ヒ受信主義ニヨリテ辭令各カ相手方ニ到達シ  
 タルトキヲ以テ辭令各交附ノ時期ト認ムヘクコトキニ於テ官吏



于係り成立スルナリ、官吏ノ地位ニ伴フ他ヘテノ裁判職務ハ原則  
トシテハ皆コノ件ヨリ発生スヘキモノナレトモ只條給ノ計兼ニ付  
テハ辭令各ノ日附ノ翌日ヨリ起算スヘキモノト定メラル、其他恩  
給扱オニ于シテ在官年限ヲ計算スル場合ニ於テモ一般ニ辭令各ノ  
日附ヲ以テソノ起算点ト定メラル、此ガハ只計兼ノ便宜ノ為メニ  
スル特別ノ規定タルニ止マリ官吏于係り辭令各ノ日附ノ日ヲ以テ  
成立スルニハアラス、只相手方ニ到達シタル日時ハ公ニ之ヲ認定  
スルノ困難ナルカ故ニ便宜ノタメニソノ日附ヲ以テ起算点トス  
ニ止マル、辭令各ハ又高官ニ付テハ官報ニ掲載セラルトモ官  
報ノ掲載ハ只一般人民ニ公示スルノ方法タルニ止マリ官吏于係り  
成立ニハ何オノ于係り有セヌ  
官吏ノ任命ノ手續ニ付テハ或ハ勅裁ニヨリテ行ハル、或ハ行  
或ハ行政官ニ委任シテ行ハル、モノアリ、判任官以テハ凡ヘテ  
其任免カ本局長官ニ委任セラレ長官カ之ヲ專行ス、委任官以上ハ

凡ヘテ勅裁ヲ経テ任命セラルト雖モソノ手續ハ勅任官ト委任官ト  
ニヨリテ異ナル

### 第二、補職

官吏ヲ任命スルノ行為ハ時トシテハ官吏于係り設定スルト同時ニ  
又一定ノ職務ノ担任ヲ命スルノ行為ナルコトアリ、官名カ同時ニ  
職名ナルモノニアリテハ其官ニ任スルハ常ニ同時ニ之ヲ伴フ職務  
ノ担任ヲ命スルノ行為ナリ、例ハ其海大臣ニ任シ其兼知事ニ任  
スル場合ノ如キハソノ任命カ必然ニ職務ノ担任ヲ伴フモノナリ、  
之レニ反シ号クノ官職ニアリテハ官名ハ必スモ一定ノ職務ヲ意  
味スルモノニアラス、其官ニ屬スル職務ハ尚ホ不定ニシテ其官ニ  
任セラル、ハ只官吏于係り設定スルニ止マリ本々直接ニ職務ノ担  
任ヲ生セサルモノアリ、此場合ニ於テハ官吏于係り成立ハタメ  
家ノ命スル所ニ從テ或職務ヲ担任スヘキ義務ヲ発生スルニ止マリ  
未タ現ニ職務ヲ担任スルコトナリ從ツテ未タ何オノ事務ヲ擔ルハ



キ義務モナク之ヲ行ハキ技能モナシ或ハ職務ヲ附帯セラルルニ  
ヨリテ始メテ職務ノ担任ヲ生シ從テ其職ニ屬スル事務ヲ採ルノ  
義務ヲ生スルナリ、官吏ニ特定ノ職務ヲ授クル行為ヲ補職トス  
任官行為カ双方行為ナルコトニ反シテ補職ハ國家ノ單獨行為ナリ  
官吏ヲ保リ已ニ成立シタル上ハ官吏ハ國家ノ命スル職務ヲ担任ス  
ハキ義務ヲ負フモノニシテソノ担任ヲ命スルハ常ニ國家ノ單獨意  
思ヲ以テ足レリトナス、本人ノ承諾ヲ要スルモノニハアラス、又  
之レト全シク官吏ヲシテ他ノ職務ニ転任セシムルコトモ亦國家ノ  
單獨意思ヲ以テ之レヲナスヲ得ヘク知人ノ承諾ヲ要件トスルコト  
ナシ、已ニ官吏トシテ國家ノ使用權ノ下ニ服スル上ハ如何ナル職  
務ヲ担任セシムヘキカハ國家ノ單獨ノ意思ヲ以テ之レヲ定ムルヲ  
得ヘク初メテ官吏ニ任スル場合ノ如クニ本人ノ同意ヲ要件トスル  
モノニアラス

第三、任用、資格要件

凡ヘテ官吏ハ官吏ニ任用セラル、ニハ一定ノ經歷ヲ有シ又ハ一定  
ノ資格試験ヲ經タルモノナルヲ要スルヲ原則トス、又親任官ノ内  
閣書記官長及ヒ大臣級官官ホニ付テハソノ任用資格ニ特別ノ制限  
ナシ、之レボハ何レモ專ラ信任ニヨリテノニ任命セラルヘキモノ  
ナレハナリ、其他ノ官吏ハ一級ニ或資格ヲ必要トスルモノニシテ  
文官ニ付テハ特別ノ任用規定ニヨルモノ、外明治三十二年勅令第  
六十一号ノ文官任用令ノ適用ヲ受クルモノニシテ之レニヨレハ任  
兼官トシテ任用セラル、ハ文官高才試験ニ合格シタルモノナルヲ  
要シ勅任官ハ委任官トシテ最高官官ホニアリタルモノヨリスルノ外  
之レヲ任用スルヲ得サルヲ原則トナスナリ、判任官ニ付テハ文官  
普通試験若クハ文官高才試験ニ合格シタルモノ、又ハ中学校以上ノ  
学校ヲ卒業シタル者ヨリ任用スルヲ原則トス、官吏ノ任用ハ文官  
試験ノ制度ヲ採ルニ至リタルハ明治二十年ヲ以テシテ最初トス  
之レヨリ先キ明治十八年十二月ニ官制改革ヨリ、此時ニ至ルマデ



ハ任用ノ資格ニ付テ未タ一定ノ制度ナク官吏ハ概テ一身上ノ級位  
ニ依リテ任用セラレ、ノ有様ナリシカ十八年ノ官制改革ト共ニ官  
吏ノ任用ニ付テモ新ニ試験ノ制度ヲ設ケタルノ試ヲ決シ委員ヲ設ケ  
テ、ノ制ヲ調査セシメ明治二十年ニ初メテ文官試験規則ヲ發布ス  
ルニ至リタルナリ、ソノ当時ニ於テハ試験ヲ必要トセルハ委任官  
及ヒ判任官ニ限ラレ、勅任官ハソノ制限ノ外ニ置カレタリシカ右三  
十二年ニ至リ現行ノ文官任用令ヲ發布セラレ之レニヨリテ親任官  
内閣書記官長秘書官オノ外ハ勅任官ニ付テモ資格要件ヲ限定シ從  
來已ニ勅任官タリシ者ノ外ハ委任官ヨリ昇進スルニアラサレハ之  
レニ任スルコトヲ得サラシメタルナリ  
文官任用令ノ規定ハ一般文官ニ適用セラレ、モノナレモ或ル種ノ  
官職ニ於テハ特別任用ノ制ヲ定メラル、モノ基タタシ、殊ニ教官  
技術官オハ試験ヲ経ルヲ要セス、文官高才試験委員ノ諮詢ヲ経テ  
任命セラル、一般文官ノ外外交官、領事官ニ付テハ別ニ外交官及

レ領事官試験ノ制度アリ、判事及ヒ検事ニ付テハ判事及ヒ検事登  
用試験アリ、各ソノ試験ニ及第シタルモノニアラサレハ任スルコ  
トヲ得サルヲ原則トス、凡ソ之レオノ特別任用ノ規定ニヨリテ任  
用セラレタルモノハ特別任用ニヨラサル他ノ官職ニ転任スルヲ得  
サルヲ原則トス  
官吏トナルニ年齢、男女ノ性オニ付テ一定ノ資格要件ヲ有スルヤ  
否ヤニ付テハ一般ノ規定ナシ、又各種ノ試験規則ニハ年齢満ニ  
十六以上ノ男子ニアラサレハ之レヲ受タルコトヲ許サルノ規定  
アリ、其他受験資格ニ付キ種々ノ制限ヲ設ケタルヲ以テ之オノ試  
験ヲ受ケ官吏トナルノ資格ヲ得ルモノニ付テハ之オノ条件ヲ必要  
トス、之ニ反シ試験ヲ経ス、特別任用ノ規定ニヨリテ任用セラル  
モノニアリテハ必スシモ之オノ条件ヲ必要トセス、殊ニ教官技  
術官ノ如キニ對リテハ女子未成年者ヲモ之レニ任用スルヲ得ヘシ  
外國人ヲ官吏ニ任用スルヲ得ヘキヤ否ヤニ付テモ一般ノ規定ナ



シ、憲法ニ日本臣民ハ文武官ニ任セラル、ヲ得ルノ規定アリ之  
レハ只日本臣民ノ権利義務ヲ規定セルニ止マリ外国人ノ官吏トナ  
ルコトヲ禁止スルノ主意ニアラス、外国人ニ権利義務ハ憲法ノ全  
ク于以セサル所ニシテ此規定ニヨリ外国人ノ官吏タルノ資格ナシ  
ト断定スルノ非ナルハ均ホ日本臣民ハ納税ノ義務ヲ有スト去テ規  
定ニ基キテ外国人ハ納税ノ義務ナシト鮮セントスルノ非ナルニ全  
シ、外国人ノ官吏トナルコトハ如斯致テ憲法ノ禁止スル所ニハア  
ラスト憲法之レカ為メニ外国人ハ日本人トオレク官吏トナリ得ヘ  
キ能カヲ有スルモノト鮮スヘカラス、何ソ國家ノ政務ニ参与スル  
ノ権利ハ自國臣民ニアラサレハ之レヲ許サ、ルヲ原則トスルコト  
ハ一般文明國ニ共通ナル法則ニシテ我カ國ニ於テモ選舉權、公民  
權ハ各論勿、并護士ニ至ルマテ法律ヲ以テ外国人ニハ全ク之レ  
ヲ許サ、ルコトヲ規定ス、官吏ニ付テハ如斯キ特別ノ法律ノ規定  
ナシト雖モ之レ決シテ外国人ニ官吏トナリ得ヘキ資格ヲ認ムルノ

主意ニハアラスシテ外国人ノ官吏トナルコトヲ得サルハ明文ヲ待  
タサル当然自明ノ事理ナリトシテ特ニ之ヲ規定セサルナリ、官吏  
ハ國家ノ公務ニ参与スルコトノ最モ顯著ナルモノニシテ殊ニ官吏  
ニ身ヲ奉シテ國家ニ忠誠ナルノ義務ヲ負フモノナリ、如斯キ權利  
義務ハ外国人ニハ之レヲホムルヲ得サルコトハ論ヲ待タサル所也  
之ヲ現行法律ノ規定ヨリ去テモ國籍法二十四條ニ現ニ文官ノ官職  
ヲ帶フルモノハ官職ヲ失ヒタル右ニアラサレハ日本ノ國籍ヲ  
失ハサルコトヲ規定セルハ國籍ヲ有スルコトヲ以テ官職ノ故提ト  
ナセル主意ヲ伺フニ足ルヘク官吏恩給法十二條ニハ恩給ヲ受ク  
ル者ノ國籍ヲ失ヒタルハ恩給ヲ剝奪スルコトヲ規定セルハ又恩  
給ヲ受クルモノカ必ス日本人タルコトヲ故提トセルモノナルコト  
ヲ知ルニ足ルヘシ

外国人ノ一般ニ官吏トナルヲ得サルノ制限アルノミナラス、帰化人  
ノ子ナトニ付テハ國籍法十六條ニヨリテ或種ノ重要ナル官職ニ就



クコトヲ禁セラル

文官懲戒令ニヨリ免官ノ処分ヲ受ケタルモノハ二年間官職ニ就クコトヲ得サルノ制限アリ

旧刑法ニハ公収ヲ剝奪セラレタルモノハ官吏タルコト得サルコトヲ規定シタリ。此規定ハ新刑法ニ於テハ廢止セラレタレトモ刑法施行法三十四條ニ於テ死刑無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ処セラレタルモノハ旧刑法ノ公収剝奪ト全一ニ看做サルヘキコトヲ規定セルカ故ニ新刑法ノ下ニ於テモコノ點ニ付テハ旧刑法ニ於ケルト全様ナリ

官吏ノ任命ニハ以上ノ如キ各種ノ資格要件ヲ要ス。若シ之オノ資格要件ヲ具ヘサル者ヲ任用シタル場合ニ於テソノ任命カ絶対ニ無効ナリヤ又ハ取消シ得ヘキ行為タルカ止ルカニ付テハ之オノ資格要件官吏トナルノ能力ヲ制限スルノ目的ニ出ツルモノトシテ國家カ官吏ヲ任用スル場合ニ於テソノ任用ノ標準ヲ定ムルノ

目的ニ出ツルモノトシテ區別スルコトヲ要ス。若シソノ資格要件カ能力ヲ制限スルノ規定ニシテソノ要件ヲ具ヘサルモノハ全ク官吏タルノ能力ヲ有セサルモノトナスノ主意ナル場合ニ於テハソノ能力ナキモノヲ官吏ニ任用スルハ法律上ノ不能ヲ内容トスル行政行為ニシテ絶対ニ無効ナラサルヘカラス。此ノ種美ニ屬スルモノハ刑罰ニヨリ公収ヲ剝奪セラレタル者アルノ之、刑罰ニヨリ公収ヲ剝奪セラレタルモノハ全然官吏トナルノ能力ヲ有セサルモノニシテソノ任命ハ法律上當然ニ無効ナラサルヘカラス。ソノ他ノ資格要件ハ何レモ夫國家カ官吏ヲ任用スルニ當リテ遵守スルヲ要スル規定タルニ止マリ受任者ノ能力ヲ定ムルモノト認ムヘカラス。其要件具ハラサルモノニ任命シタルトキハ遠法ノ行政行為ナリト雖モ取消サル、追ハ尚ホ效力ヲ有スルモノト云フヘシ。又如新々遠法ニ任用セラレタル官吏ハ元ヨリ遠法ナル官吏トシテノ地位ノ保障ヲ有スルコトナク何時ニテモ之レヲ免官シ得ヘキハ當然ナリ。



(行政行為ノ無効及ヒ取消ノ所ヲ参照セヨ)

### 第三節 官吏ノ義務

官吏ハソノ官吏ノ係ニ入ルコトニヨリテ國家ニ對シ一般臣民ノ負  
 ハサル特別ノ義務ヲ担負ス、又官吏ノ特別ノ義務ハ先ツ之ヲ職務上  
 ノ義務ト職務ノ内外トヲ向ハス其一身ニ隨伴スルノ義務トヲ區別ス  
 ルコトヲ得、ソノ職務上ノ義務ハ更ニ職務ニ服スルノ義務服従ノ  
 義務忠実ノ義務及ヒ秘密ヲ守ルノ義務ノ四種ヲ分ツテ得、ハク其一身  
 上ノ義務ハ官吏タルノ品位ヲ織サ、ルノ義務之レナリ

第一職務ニ服スルノ義務

官吏ハ何時ニテモソノ命セラレタル官職ヲ担任スルノ義務ヲ負ヒ  
 已ニ官職ヲ担任シタル後ニ於テハ一身ヲ奉レテソノ官職ニ屬スル  
 事務ヲ執行スルノ義務ヲ負フ、職務ニ服スル義務ト云フハコノ西

者ヲ包含スルモノニテ即チ

第一ニハ命セラレタル官職ヲ担任スルノ義務ヲ含ム

第二ニハソノ官職ニ屬スル事務ヲ執行スルノ義務ヲ包含ス

官吏ハ何時ニテモソノ命セラレタル官職ヲ担任スルノ義務ヲ負フ  
 官吏ニ任命スルニハ本人ノ承諾ヲ要スト、且ヒ已ニ官吏トナリタル  
 上ハ官職ノ担任ヲ命スルハ本人ノ同意ヲ要スルコトナリ、國家ノ單  
 意ヲ以テ官職ノ担任ヲ命スルヲ得、ハク官吏ハソノ命ニ基キテ之ヲ  
 担任スルノ義務ヲ負フ、已ニ一ノ官職ヲ担任スルモノカ、他ノ官職  
 ニ転任セラル、場合ニ於テモ亦官吏ノ同意ヲ要セサルコトハ新ニ  
 其ノ担任ヲ命スル場合ニ全シ

官吏カ一定ノ官職ヲ担任シタル中ハソノ官職ニ屬スル事務ヲ執行  
 スルノ義務ヲ負フ、官吏服務規律第一章ハ凡ヘテ官吏ハ勤勉ヲ  
 旨トシ法律命令ニ從ヒ各々ソノ職務ヲ尽スヘシト云ハルハ即チコ  
 ノ義務ヲ明言セルモノナリ、職務執行ノ義務ハ唯在職中ノ官吏ノ



三六八  
之カ之レヲ負フモノニシテ未ダ官職ヲ担任セサルモノ又ハ例ハ  
ハ官職官吏ノ如ク官職ノ担任ヲ免セラレタルモノニシテ唯官吏ノ  
係ノニ存続スルモノニアリテハ職務執行ノ義務モナク又之レヲ行  
フノ技能モナシ

官吏ノ職務ニ屬スヘキ事務ノ種類及ヒ分量ハ

第一ニハ法律命令ニヨリテ定マリ

第二ニハソノ職務ヲ指揮スル上官ノ命令ニヨリテ定マル、官吏ノ

怠慢ニヨリテソノ職務ニ屬スル事務カ等カラス、又ハソノ職務ニ

屬スル何々ノ事務ヲ行フコトヲ拒ミ若シクハ全然ソノ職務ヨリ高

ル、カ如キハ皆此義務ニ違反スルモノナリ

職務執行ノ義務ヨリ生スル結果トシテ官吏ハ職務地ニ居住レ且ツ

現在スルノ義務ヲ負フコト其職務地ヲ高ル、場合ニ於テハ上官ノ

許可アルコトヲ要ス、執務時間中職務ノ場所ニ生頭スルノ義務モ

亦コノ義務ヨリ生スル一ノ結果ナリ

職務執行ノ義務ハ法律上ノ休暇日ノ外賜暇ヲ得ルニヨリテ一時免  
除セラル、賜暇ヲ得シテ病氣ノ為メニ又ハ私ノ故障ニヨリ一定  
ノ期間引續キ執務ヲササ、ルモノハ公務ノタメニ負傷シ疾病ニカ  
、リ又ハ服忌ヲ受クルモノ、外ハ俸給ノ半額ヲ減セラル、

### 第二服従ノ義務

官吏ノ服従義務ハ官吏カソノ職務ニ于シテ君主又ハソノ監督者ヲ  
ル上官ノ職務命令ニ服従スルノ義務ヲ云フ、官吏ノ係ハ已ニ述ヘ  
タルカ如ク單ニ何々ノ限ラレタル特定ノ事務ヲ管スルノ子係ニ  
ハアラムニシテ一定ノ範圍ニ於テ國家ノ命令ニ従ヒ予メ限ラレサル  
事務ニ服スヘキ子係ニシテ官吏ハソノ官吏子係ニ服スルコトニヨ  
リテ國家ノ特別ノ命令ノ下ニ服スルナリ、國家カ官吏ニ付シテ  
有スル特別ノ命令ノ之ヲ称シテ公ノ雇主又ハ公ノ使用人  
*Offentliche Weistgawalt*ト云フ、此特別ノ命令ニ  
基キテ國家カ官吏ニ付シテ下ス命令ヲ職務命令ト云フ、官吏ノ服